

6. 両生類・爬虫類・哺乳類調査の概要

6.1 調査結果の概要

(1) 確認種数（両生類）

令和5年度に両生類調査が実施された30ダムにおいて、2目8科28種の両生類が確認されました。「日本産野生生物目録 脊椎動物編（環境庁, 1993）」には、59種の両生類が掲載されており、今回確認された種数は、その約47%に相当します。

確認された両生類のうち、最も多くのダムで確認された種はヤマアカガエルであり、25ダムで確認されました。

水辺に生息するサンショウウオ類は5種が確認されました。マホロバサンショウウオが中部の丸山ダム、岩屋ダム、徳山ダム、横山ダム、近畿の猿谷ダムで、ヒダサンショウウオが中部の味噌川ダム、丸山ダム、阿木川ダム、岩屋ダム、徳山ダム、横山ダムで、バンダイハコネサンショウウオが東北の摺上川ダム、七ヶ宿ダム、北陸の横川ダム、大石ダムで、ハコネサンショウウオが関東の矢木沢ダム、藤原ダム、品木ダム、川俣ダム、川治ダム、五十里ダム、湯西川ダム、中部の味噌川ダム、岩屋ダムで、オオサンショウウオが中国の菅沢ダムで確認されました。

(2) 確認種数（爬虫類）

令和5年度に爬虫類調査が実施された30ダムにおいて、2目9科17種の爬虫類が確認されました。「日本産野生生物目録 脊椎動物編（環境庁, 1993）」には、87種の爬虫類が掲載されており、今回確認された種数は、その約20%に相当します。

確認された爬虫類のうち、最も多くのダムで確認された種は、ニホンカナヘビであり、30ダムすべてで確認されました。

(3) 確認種数（哺乳類）

令和5年度に哺乳類調査が実施された30ダムにおいて、7目19科60種の哺乳類が確認されました。「日本産野生生物目録 脊椎動物編（環境庁, 1993）」には、188種の哺乳類が掲載されており、今回確認された種数は、その約32%に相当します。

確認された哺乳類のうち、最も多くのダムで確認された種はアカネズミ、タヌキ、キツネであり30ダムすべてで確認されました。

（注）調査を実施したダムについて

令和5年度に調査を実施した30ダムのうち、北海道のサンルダム、関東の湯西川ダムは1巡目の調査となります。

(4) 重要種（両生類・爬虫類・哺乳類）

今回とりまとめを行った30ダムでは、両生類・爬虫類・哺乳類を合わせて8目15科25種の重要種^{注)}が確認されました。確認された重要種のうち、レッドリストのランクの内訳をみると、今回の確認で最もランクが高い絶滅危惧Ⅱ類（VU）に該当する種は、ヒバサンショウウオ、マホロバサンショウウオ、オオサンショウウオ、ノレンコウモリ、モリアブラコウモリ、ヤマコウモリ、オヒキコウモリの7種でした。

(注) 重要種について

本資料においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を重要種としました。

- ・「文化財保護法」の特別天然記念物及び天然記念物
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種及び特定第二種国内希少野生動植物種

国内希少野生動植物種（国内）：国内に生息・生育する絶滅のおそれのある野生生物のうち、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じていると判断される種（又は亜種・変種）で、捕獲・採取、譲渡等が原則禁止される種（又は亜種・変種）。

特定第二種国内希少野生動植物種（第二）：国内に生息・生育する絶滅のおそれのある野生生物のうち、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じていると判断される種（又は亜種・変種）で、個体の数が著しく少ないものでない等、一定の条件を満たす種（又は亜種・変種）。捕獲等、譲渡等の規制のうち、販売・頒布目的の行為のみが禁止される種（又は亜種・変種）。

- ・「環境省レッドリスト 2020 の公表について（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）」（環境省レッドリスト 2020：令和 2 年 3 月 27 日報道発表資料）の掲載種

絶滅危惧ⅠA 類（CR）：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種

絶滅危惧ⅠB 類（EN）：ⅠA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種

絶滅危惧Ⅱ類（VU）：絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧（NT）：現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

情報不足（DD）：評価するだけの情報が不足している種

絶滅のおそれのある地域個体群（LP）：地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

(5) 国外外来種等（両生類・爬虫類・哺乳類）

1) 国外外来種の確認状況

今回とりまとめを行った 30 ダムでは、4 目 7 科 8 種の国外外来種^{注 1)} が確認されました。

確認された外来種のうち、最も多くのダムで確認された種はハクビシンであり、25 ダムで確認されました。

2) 特定外来生物等の確認状況

特定外来生物法で特定外来生物^{注 2)} に指定されている種として、ウシガエル、アライグマ、ミンクの 3 種が、条件付特定外来生物はミシシippアカミミガメの 1 種が確認されました。生態系被害防止外来種リスト^{注 3)}掲載種としては、確認された外来種 8 種すべてが該当しました。

(注) 国外外来種の選定基準について

- 1) 外来種とは、本来その生物が生息していない地域に貿易や人の移動等を介して意図的・非意図的に導入された種をいいます。外来種のうち、日本国外から持ち込まれた種を「国外外来種」といい、日本国内の種であっても本来その生物が生息していない地域に、ほかの場所から持ち込まれた種は「国内外来種」といいます。本資料における国外外来種とは、おおむね明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物すべてを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、選定の際に考慮していません。
- 2) 特定外来生物とは、『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(2005年6月1日施行)』により、輸入や飼養等が規制される生物(生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれます)です。おおむね明治以降に国外から導入された国外外来種のうち、生態系、人の生命・身体及び農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがある生物が指定されています。なお、特定外来生物のうちアメリカザリガニとアカミミガメの2種については、通常の特特定外来生物の規制の一部を適用除外とする「条件付特定外来生物(通称)」に指定されています。
- 3) 総合対策外来種は、「国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害のおそれがあるため、国、地方公共団体、国民など各主体がそれぞれの役割において、防除(野外での取り除き、分布拡大の防止等)、遺棄・導入・逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要な外来種」として選定されています。以下の3つに細分化されています。

(i) 緊急対策外来種

「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方にに基づき、被害の深刻度に関する基準^{*1}として①～④のいずれかに該当することに加え、対策の実効性、実行可能性として⑤に該当する種。特に緊急性が高く、特に、各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除を行う必要がある。

(ii) 重点対策外来種

「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方にに基づき、被害の深刻度に関する基準^{*1}として①～④のいずれかに該当する種。甚大な被害が予想されるため、特に、各主体のそれぞれの役割における対策の必要性が高い。

(iii) その他の総合対策外来種

^{*1} 緊急対策外来種、重点対策外来種における対策の優先度の考え方
(被害の深刻度に関する基準)

- ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大
- ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い
- ③ 絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い
- ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して甚大な被害を及ぼす
(対策の実効性、実行可能性)
- ⑤ 防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る

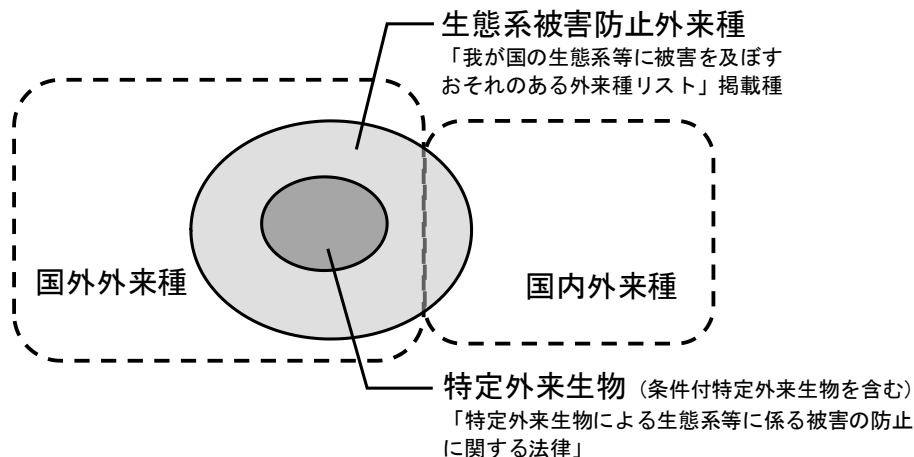


図 (参考) 国外外来種、生態系被害防止外来種、特定外来生物の関係

6-4

注1) ○は当該ダムにおいて種数としてカウントしていない（I-5 頁種数の計数方法参照）。
注2) ▲▲属、□□科、××目という表記は、各下位の分類階級まで同定されていないものである。
注3) 確認ダム数の灰色表示■は、最も確認ダム数が多い数値を示す。

注1) ○は当該ダムにおいて種数としてカウントしていない（I-5 頁種数の計数方法参照）。

注2) ▲▲属、□□科、××目という表記は、各下位の分類階級まで同定されていないものである。

注3) 確認ダム数の灰色表示■は、最も確認ダム数が多い数値を示す。

爬虫類確認種一覧（令和5年度）

No.	目 和 名	科 和 名	種 和 名	学 名	北海道		東北			関東										北陸		中部					近畿	中国	九州	確認 ダム 数						
					岩 尾 内 ダ ム	サ ン ル ダ ム	二 風 谷 ダ ム	三 春 ダ ム	摺 上 川 ダ ム	七 ヶ 宿 ダ ム	矢 木 沢 ダ ム	藤 原 ダ ム	奈 良 俣 ダ ム	相 俣 ダ ム	園 原 ダ ム	品 木 ダ ム	草 木 ダ ム	渡 良 瀬 遊 水 地	川 俣 ダ ム	川 治 ダ ム	五 十 里 ダ ム	湯 西 川 ダ ム	下 久 保 ダ ム	横 川 ダ ム	大 石 ダ ム	味 噌 川 ダ ム	丸 山 ダ ム	阿 木 川 ダ ム	岩 屋 ダ ム		徳 山 ダ ム	横 山 ダ ム	猿 谷 ダ ム	菅 沢 ダ ム	緑 川 ダ ム	
1	カメ目	イシガメ科	ニホンイシガメ	Mauremys japonica																						●		●		●				3		
2			クサガメ	Mauremys reevesii				●																						●					2	
3			イシガメとクサガメの交雑種	Mauremys japonica x M. reevesii																											●				2	
4		ヌマガメ科	ミシシippアカミミガメ	Trachemys scripta elegans				●							●												●								5	
5			スッポン科	ニホンスッポン	Pelodiscus japonicus																														1	
6	有鱗目	ヤモリ科	ニホンヤモリ	Gekko japonicus																														4		
-			ヤモリ属	Gekko sp.																												○			2	
7		トカゲ科	ニホントカゲ	Plestiodon japonicus																															2	
8			ヒガシニホントカゲ	Plestiodon finitimus			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	24	
-			トカゲ属	Plestiodon sp.																																1
9		カナヘビ科	ニホンカナヘビ	Takydromus tachydromoides	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	30
10		タカチホヘビ科	タカチホヘビ	Achalinus spinalis					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15
11		ナミヘビ科	シマヘビ	Elaphe quadrivirgata	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	27	
12			アオダイショウ	Elaphe climacophora		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	27	
-			ナメラ属	Elaphe sp.				○	○																											2
13			ジムグリ	Euprepiophis conspicillatus		●			●	●	●		●	●	●		●			●			●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	20
14			シロマダラ	Lycodon orientalis				●	●	●		●	●	●	●	●	●	●		●			●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	19
15			ヒバカリ	Hebius vibakari vibakari				●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●			●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	19
16			ヤマカガシ	Rhabdophis tigrinus				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	27
-			ナミヘビ科	Colubridae										●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1
17			クサリヘビ科	ニホンマムシ	Gloydius blomhoffii				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	24
		2目	9科	17種	確認種類数	3種	3種	5種	11種	10種	10種	6種	10種	8種	11種	9種	8種	8種	7種	7種	5種	9種	8種	10種	4種	3種	9種	10種	11種	11種	11種	11種	13種	9種	13種	

- 注 1) ○は当該ダムにおいて種数としてカウントしていない（I-5 頁種数の計数方法参照）。
- 注 2) ▲▲属、□□科、××目という表記は、各下位の分類階級まで同定されていないものである。
- 注 3) 確認ダム数の灰色表示■は、最も確認ダム数が多い数値を示す。

哺乳類確認種一覧（令和5年度）

No.	目と名	科と名	種と名	学名	確認種数																				
					北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	静岡県	愛知県	岐阜県	長野県			
1	モグラ目（食虫目）	トガリネズミ科	バイカルトガリネズミ	<i>Sorex caecutiens</i>	●	●	●																		
2			オオアシトガリネズミ	<i>Sorex unguiculatus</i>	●	●																			
3			トガリネズミ属	<i>Sorex sp.</i>	●	○																			
4		モグラ科	ジネズミ	<i>Orodicrotus dsiuizumi</i>					●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
5			カウネズミ	<i>Chimarrogale platycephalus</i>															●	●	●	●			
6			ヒメミズ	<i>Dymecodon pilosus</i>																					
7			ミズモグラ	<i>Urotrichus talpoides</i>					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
8			アズマモグラ	<i>Mogera imaizumi</i>																					
9			コウベモグラ	<i>Mogera wogura</i>																					
10			モグラ属	<i>Mogera sp.</i>																					
11	コウモリ目（翼手目）	キクガシラコウモリ科	キクガシラコウモリ(ニホンコキクガシラコウモリ)	<i>Rhinolophus cornutus</i> (P. c. cornutus)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
12			キクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
13		ヒナコウモリ科	ヒメホオヒゲコウモリ	<i>Myotis borys</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
14			カウモリ	<i>Myotis fukui</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
15			モモジロコウモリ	<i>Myotis macrodactylus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
16			ノレンコウモリ	<i>Myotis nattereri</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
17			ホオヒゲコウモリ属	<i>Myotis sp.</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
18			モリアブラコウモリ	<i>Pipistrellus hesoi</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
19			アブラコウモリ	<i>Pipistrellus abramus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
20			ヤマコウモリ	<i>Nyctalus aviator</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
21			ヒナコウモリ	<i>Vespertilio sinensis</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
22			チチブコウモリ	<i>Barbastella leucomelas</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
23			ニホンウサギコウモリ	<i>Plecotus sacrimontis</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
24			ユビナコウモリ	<i>Miniopterus fuliginosus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
25			コナツコウモリ	<i>Murina ussurimensis</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
26			テンコウコウモリ	<i>Murina hildebrandi</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
27			コウモリ科	<i>Vesperugo japonicus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
28			オヒキコウモリ	<i>Tadarida insignis</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
29	コウモリ目(翼手目)	<i>Chiroptera</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
30	サル目（霊長目）	オナガザル科	ニホンザル	<i>Macaca fuscata</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
31			ウサギ科	<i>Lepus timidus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
32		ネズミ目（齧歯目）	リス科	<i>Lepus brachyurus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
33			リス科	<i>Sciurus vulgaris</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
34			リス科	<i>Sciurus lis</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
35			リス科	<i>Tamias sibiricus</i> (T. s. lineatus)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
36			リス科	<i>Pteromys momonga</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
37			リス科	<i>Pteromys volans</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
38			リス科	<i>Petaurista leucogaster</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
39			リス科	<i>Sciurus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
40			リス科	<i>Gilvus japonicus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
41			リス科	<i>Grassomys rufocanus</i> (G. r. bedfordiae)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
42			リス科	<i>Grassomys andersoni</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
43			リス科	<i>Grassomys smithi</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
44			リス科	<i>Grassomys sp.</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
45			リス科	<i>Alexandromys montebelli</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
46			リス科	<i>Apodemus speciosus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
47			リス科	<i>Apodemus argentatus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
48			リス科	<i>Apodemus sp.</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
49			リス科	<i>Microtus minutus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
50			リス科	<i>Mus musculus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
51			リス科	<i>Rattus norvegicus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
52			リス科	<i>Rattus sp.</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
53			リス科	<i>Muridae</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
54			リス科	<i>Rodentia</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
55	ネコ目（食肉目）	クマ科	クマ	<i>Ursus arctos</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
56			クマ	<i>Ursus thibetanus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
57		アライグマ科	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
58			イヌ科	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
59		イヌ科	イヌ	<i>Vulpes vulpes</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
60			イヌ科	<i>Canidae</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
61		イタチ科	テン(ホンドテン)	<i>Martes melampus</i> (M. m. melampus)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
62			クビテング(エゾクビテング)	<i>Martes zibellina</i> (M. z. zibellina)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
63		イタチ科	イタチ	<i>Martes sp.</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
64		ニホンイタチ	<i>Mustela itatzi</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
65	イタチ科	イタチ	<i>Mustela nivalis</i> (M. n. nivalis)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						
66	イタチ科	イタチ	<i>Mustela sp.</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
67	イタチ科	イタチ	<i>Neovison vison</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						
68	イタチ科	イタチ	<i>Meles anakuma</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						
69	イタチ科	イタチ	<i>Mustelidae</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
70	イタチ科	イタチ	<i>Paguma larvata</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						
71	ウシ目（偶蹄目）	イシシ科	イシシ	<i>Sus scrofa</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
72			ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
73		カシカ	<i>Capreolus capreolus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						
74		ウシ目(偶蹄目)	<i>Artiodactyla</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
75	7目	19科	60種	確認種数	26種	21種	16種	21種	26種	25種	30種	28種	21種	20種	27種	20種	18種	29種	19種	21種	24種	28種	25種	17種	22種

両生類・爬虫類・哺乳類重要種一覧（令和5年度）

[illegible]

凡例)

選定基準

①文化財保護法

特天：国指定特別天然記念物 天然：天然記念物

②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律〔種の保存法〕（平成5年）

国内：国内希少野生動植物種 - 国内に生息・生育する絶滅のおそれのある野生生物のうち、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じていると判断される種（又は亜種・変種）で、捕獲・採取、譲渡し等が原則禁止される種（又は亜種・変種）。

第二：特定第二種国内希少野生動植物種 - 国内に生息・生育する絶滅のおそれのある野生生物のうち、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じていると判断される種（又は亜種・変種）で、個体の数が著しく少ないものでない等、一定の条件を満たす種（又は亜種・変種）。捕獲等、譲渡し等の規制のうち、販売・頒布目的の行為のみが禁止される種（又は亜種・変種）。国内に生息・生育する絶滅のおそれのある野生生物のうち、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じていると判断される種（又は亜種・変種）で、捕獲・採取、譲渡し等が原則禁止される種（又は亜種・変種）。

③「環境省レッドリスト 2020 の公表について（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）」（環境省レッドリスト 2020：令和 2 年 3 月 27 日報道発表資料）

CR : 絶滅危惧ⅠA類 - ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種

EN : 絶滅危惧ⅠB類 - ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種

VU : 絶滅危惧Ⅱ類 - 絶滅の危険が増大している種

NT : 準絶滅危惧 - 現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

DD : 情報不足 - 評価するだけの情報が不足している種

LP : 絶滅のおそれのある地域個体群 -地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの (○はLPに指定されていない地域であり種数としてカウントしていない)

両生類・爬虫類・哺乳類国外外来種一覧（令和5年度）

No.	目 和 名	科 和 名	種 和 名	学 名	外 来 種	北海道		東北		関東										北陸		中部						近畿	中国	九州	確認 ダム 数									
						岩 尾 内 ダ ム	サ ン ル ダ ム	二 風 谷 ダ ム	三 春 ダ ム	摺 上 川 ダ ム	七 ヶ 宿 ダ ム	矢 木 沢 ダ ム	藤 原 ダ ム	奈 良 俣 ダ ム	相 俣 ダ ム	蘭 原 ダ ム	品 木 ダ ム	草 木 ダ ム	渡 良 瀬 遊 水 地	川 俣 ダ ム	川 治 ダ ム	五 十 里 ダ ム	湯 西 川 ダ ム	下 久 保 ダ ム	横 川 ダ ム	大 石 ダ ム	味 噌 川 ダ ム	丸 山 ダ ム	阿 木 川 ダ ム	岩 屋 ダ ム		徳 山 ダ ム	横 山 ダ ム	猿 谷 ダ ム	菅 沢 ダ ム	緑 川 ダ ム				
1	無尾目	アカガエル科	ウシガエル	Lithobates catesbeianus	特定 総合(重点)				●		●				●											●	◎									5				
2	カメ目	ヌマガメ科	ミシシippアカミミガメ	Trachemys scripta elegans	特定・条件付 総合(緊急)										◎																			●	5					
3	ネズミ目(齧歯目)	ネズミ科	ハツカネズミ	Mus musculus	総合(重点)										◎											●								●	1					
4			ドブネズミ	Rattus norvegicus	総合(重点)		◎																											●	2					
-			クマネズミ属	Rattus sp.	総合 (緊急／重点)		○																			◎										2				
5	ネコ目(食肉目)	アライグマ科	アライグマ	Procyon lotor	特定 総合(緊急)	◎	◎	●	●					◎	◎					◎					◎		●	●				◎			10					
6		イタチ科	ミンク	Neovison vison	特定 総合(重点)	◎	◎		●																										3					
7		ジャコウネコ科	ハクビシン	Paguma larvata	総合(重点)				●	●	●	●	●	●	●	◎	●	●	●	◎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	◎			25					
8		ネコ科	ノネコ	Felis catus	総合(緊急)																														4					
4目						7科		8種		確認種類数		2種	3種	1種	5種	1種	2種	1種	1種	1種	2種	1種	2種	6種	1種	2種	2種	1種	2種	1種	1種	3種	3種	4種	1種	1種	1種	2種	1種	1種

注 1) ●○◎は確認（うち◎は、P6-72～P6-75 に示す分析対象種のうち、当該ダム等で今回初確認）を示す。

注 2) ○は当該ダムにおいて種数としてカウントしていない（I-5 頁種数の計数方法参照）。

凡例)

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（以下「特定外来生物法」）」指定種

特定：特定外来生物

条件付：条件付特定外来生物

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（以下「生態系被害防止外来種リスト」）掲載種」

定着予防（侵入予防）：国内に未侵入・未定着であり、定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、特に国内への侵入を未然に防ぐ必要がある外来種。

定着予防（その他）：侵入の情報はあるが、国内に未定着であり、定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、早期防除が必要な外来種。

総合対策（緊急）：国内に定着が確認されており、生態系等への被害のおそれがあるため、総合的に対策が必要な外来種のうち、緊急性が高く、積極的に防除が必要な外来種。

総合対策（重点）：国内に定着が確認されており、生態系等への被害のおそれがあるため、総合的に対策が必要な外来種のうち、甚大な被害が予想される重点的に対策が必要な外来種。

総合対策（その他）：国内に定着が確認されており、生態系等への被害のおそれがあるため、総合的に対策が必要な外来種のうち、緊急、重点に該当しない種。

産業管理：産業又は公益的役割において重要であり、利用において逸出等の防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種。

6.2 生物多様性

日本の生物多様性の危機の原因の一つとして、「外来種等人為的に持ち込まれたものによる生態系の攪乱」があげられています。

両生類・爬虫類・哺乳類では、ペットや家畜等として輸入された種のほか、本来は日本に生息しない国外の生物種が侵入し、自然界へ広がっている例が数多くみられます。

国外外来種が生態的に優勢な場合、在来種が排除されたり、置き換わったりすることがあります。また、タイワンザルとニホンザルのように自然界では起こらない交雑によって雑種が生まれ、地域で保有されている固有の遺伝子が喪失することが懸念されています。そのほか、在来の小動物や植物等を捕食することによる、地域生態系への影響についても指摘されています。

ここでは、人為的な生態系の攪乱状況を明らかにするために、国外外来種で、特定外来生物に指定されているウシガエル、シロアゴガエル、ヌートリア、アライグマ、マスカラット、ミンク、フイリマングース、条件付特定外来生物に指定されているミシシippアカミミガメ及び生態系被害防止外来種リスト掲載種であるハクビシンの確認状況について整理しました。

(1) 国外外来種の分布状況（生物多様性への攪乱）

・特定外来生物に指定されたウシガエルを5ダムで、アライグマを10ダムで、ミンクを3ダムで、条件付特定外来生物に指定されたミシシippアカミミガメを5ダムで確認

地域生態系への影響や遺伝子攪乱などが懸念されている国外外来種について、確認状況を整理しました。今回とりまとめを行った30ダムでは、特定外来生物に指定されているウシガエルが5ダムで、アライグマが10ダムで、ミンクが3ダムで、条件付特定外来生物に指定されているミシシippアカミミガメが5ダムで確認されました。また、生態系被害防止外来種リスト掲載種であるハクビシンが25ダムで確認されました。

国外外来種の確認ダム数の巡目比較

種名	区分	1巡目調査 (80ダム)	2巡目調査 (82ダム)	3巡目調査 (96ダム)	4巡目調査 (111ダム)	5巡目調査 (104ダム)	今回 確認
ウシガエル	特定	15ダム [18.8%]	18ダム [22.0%]	21ダム [21.9%]	25ダム [22.5%]	20ダム [19.2%]	○
シロアゴガエル	特定	3ダム [60.0%]	6ダム [100.0%]	6ダム [85.7%]	7ダム [100.0%]	2ダム [100.0%]	
ヌートリア	特定	5ダム [6.3%]	12ダム [14.6%]	17ダム [17.7%]	12ダム [10.8%]	9ダム [8.7%]	
アライグマ	特定	1ダム [1.3%]	1ダム [1.2%]	9ダム [9.4%]	26ダム [23.4%]	41ダム [39.4%]	○
マスカラット	特定	1ダム [1.3%]	0ダム [0.0%]	0ダム [0.0%]	0ダム [0.0%]	0ダム [0.0%]	
ミンク	特定	2ダム [2.5%]	2ダム [2.4%]	4ダム [4.2%]	3ダム [2.7%]	6ダム [5.8%]	○
フイリマングース	特定	1ダム [20.0%]	2ダム [33.3%]	4ダム [57.1%]	3ダム [42.9%]	1ダム [50.0%]	
ミシシippアカミミガメ	条件付 特定	5ダム [6.3%]	12ダム [14.6%]	17ダム [17.7%]	24ダム [21.6%]	21ダム [20.4%]	○
ハクビシン		18ダム [22.5%]	25ダム [30.5%]	39ダム [40.6%]	68ダム [61.3%]	74ダム [71.2%]	○

注1) ()内は各巡目において調査を実施しているダムの数を示す。巡目の途中から調査を行っていたり、途中の年度を調査していないダムがあるため、巡目毎の調査ダム数は同じではない。

注2) []内は確認ダム数の対象ダム数に対する%を示す。なお、シロアゴガエル、フイリマングースについては河川水辺の国勢調査では沖縄のみで確認されているため、比較対象ダムは沖縄のダムのみとしている。

注3) アライグマにはカニクイアライグマを含む可能性がある。

注4) 生態系被害防止外来種リストには、亜種ミシシippアカミミガメを含む種アカミミガメが掲載されている。

両生類・爬虫類・哺乳類の外来種は、食肉用や毛皮用、ペット等の目的で飼育していた個体や害虫及び害獣駆除の目的で導入された個体が野外に逸出し、野生化したものが主となっています。これらの外来種については、在来種と餌や繁殖場所をめぐって競合し、駆逐したり、在来種と交雑して遺伝的攪乱が生じたりする可能性が指摘されています。また、両生類・爬虫類・哺乳類は、食物連鎖の比較的上位に位置する種が多いことから、希少な在来固有種である昆虫類や鳥類、小動物、植物等を捕食し、島等の狭い空間ではそれらを絶滅に追いやる場合もあります。さらに、農作物への食害や、民家等への侵入といった人間活動に関する被害も報告されています。

今回とりまとめを行った 30 ダムでは、特定外来生物に指定されている種はウシガエル、アライグマ、ミンクの 3 種が、条件付特定外来生物に指定されている種はミシシippアカミミガメの 1 種が確認されました。シロアゴガエル、ヌートリア、マスカラット、フイリマングースは確認されませんでした。

ウシガエルは 30 ダム中、東北の三春ダム、七ヶ宿ダム、関東の渡良瀬遊水地、中部の丸山ダム、阿木川ダムの 5 ダムで確認されました。中部の阿木川ダムでは初めての確認となっています。

アライグマは 30 ダム中、北海道の岩尾内ダム、サンルダム（今回初めて調査）、二風谷ダム、東北の三春ダム、関東の草木ダム、渡良瀬遊水地、下久保ダム、中部の丸山ダム、阿木川ダム、近畿の猿谷ダムの 10 ダムで確認されました。北海道の岩尾内ダム、サンルダム、関東の草木ダム、渡良瀬遊水地、下久保ダム、近畿の猿谷ダムでは初めての確認となっています。

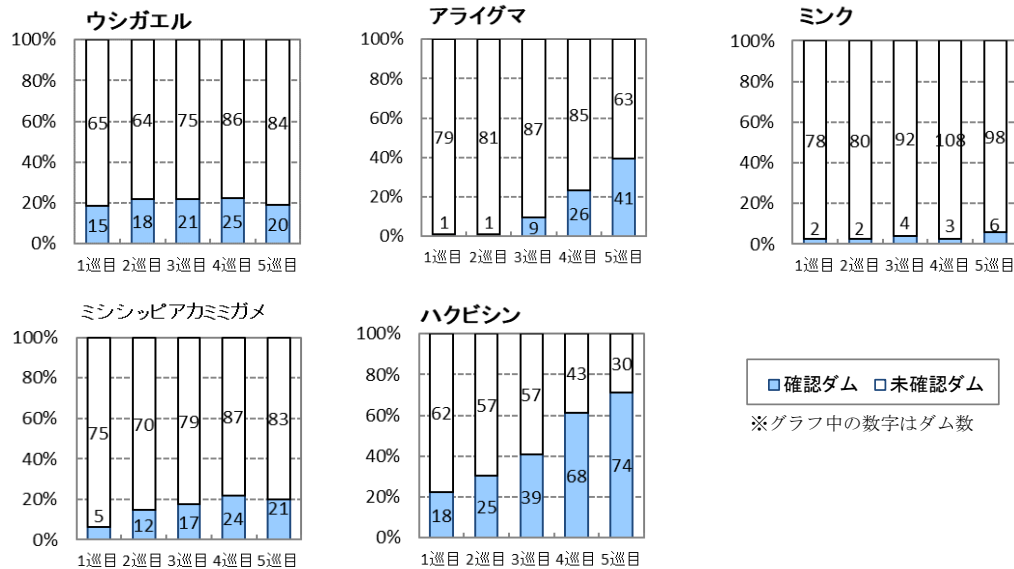
ミンクは 30 ダム中、北海道の岩尾内ダム、サンルダム（今回初めて調査）、東北の三春ダムの 3 ダムで確認されました。北海道の岩尾内ダム、サンルダムでは初めての確認となっています。

ミシシippアカミミガメは 30 ダム中、東北の三春ダム、関東の菌原ダム、渡良瀬遊水地、中部の阿木川ダム、九州の緑川ダムの 5 ダムで確認されました。東北の三春ダム、関東の菌原ダムでは初めての確認となっています。

また、生態系被害防止外来種リスト掲載種であるハクビシンが確認されました。

ハクビシンは 30 ダム中、東北の三春ダム、摺上川ダム、七ヶ宿ダム、関東の矢木沢ダム、藤原ダム、奈良俣ダム、相俣ダム、菌原ダム、品木ダム、草木ダム、渡良瀬遊水地、川俣ダム、川治ダム、五十里ダム、湯西川ダム（今回初めて調査）、下久保ダム、北陸の横川ダム、大石ダム、中部の味噌川ダム、丸山ダム、阿木川ダム、岩屋ダム、徳山ダム、横山ダム、近畿の猿谷ダムの 25 ダムで確認されました。関東の渡良瀬遊水地、湯西川ダム、近畿の猿谷ダムでは初めての確認となっています。

ダム湖周辺での外来生物の確認状況としては、確認割合が横ばい又は増加傾向にある種が多く、今後も継続して分布状況を把握していく必要があります。



各外来種の由来と在来種及び農業への影響は、以下のとおりです。

ウシガエルはアメリカ合衆国の東部・中部及びカナダの南東部が原産で、日本には食料としての養殖を目的として導入されました。極めて捕食性が強く、旺盛な繁殖力を有しており、日本国内外において、ウシガエルの増加に伴う在来のカエルの減少が問題となっています。捕食や餌資源を巡る競争を通して、ほかのカエルをはじめ、多くの在来種への影響が懸念されています。

アライグマは北米原産で、日本には愛玩動物として展示・導入されました。その後、1962年に飼育個体が逸出し、愛知県から岐阜県へ生息域を拡大しました。その後日本各地で逸出や定着が確認され、現在までには全国で確認されています。森林や湿地帯から市街地まで様々な環境に生息し、雑食性のため農業被害とともに在来種への影響が危惧されています。

ミンクは、北米原産で、毛皮の材料とするため 1928 年に北海道に導入されました。養殖されていたものが逸出し、野外に定着したと考えられます。養殖魚への食害等、水産業への被害や、餌資源の奪い合いによる在来種のイタチ類への悪影響等も問題となっています。

ミシシippアカミミガメは米国原産で、愛玩用に輸入されたものの遺棄あるいは逸走が頻繁に生じているとみられ、たとえ再生産が少なくても、都市近郊の水辺には本亜種が高密度でみられています。令和 5 年 6 月に条件付特定外来生物に指定されました。島嶼部も含め、ほぼ日本全国に分布しています。

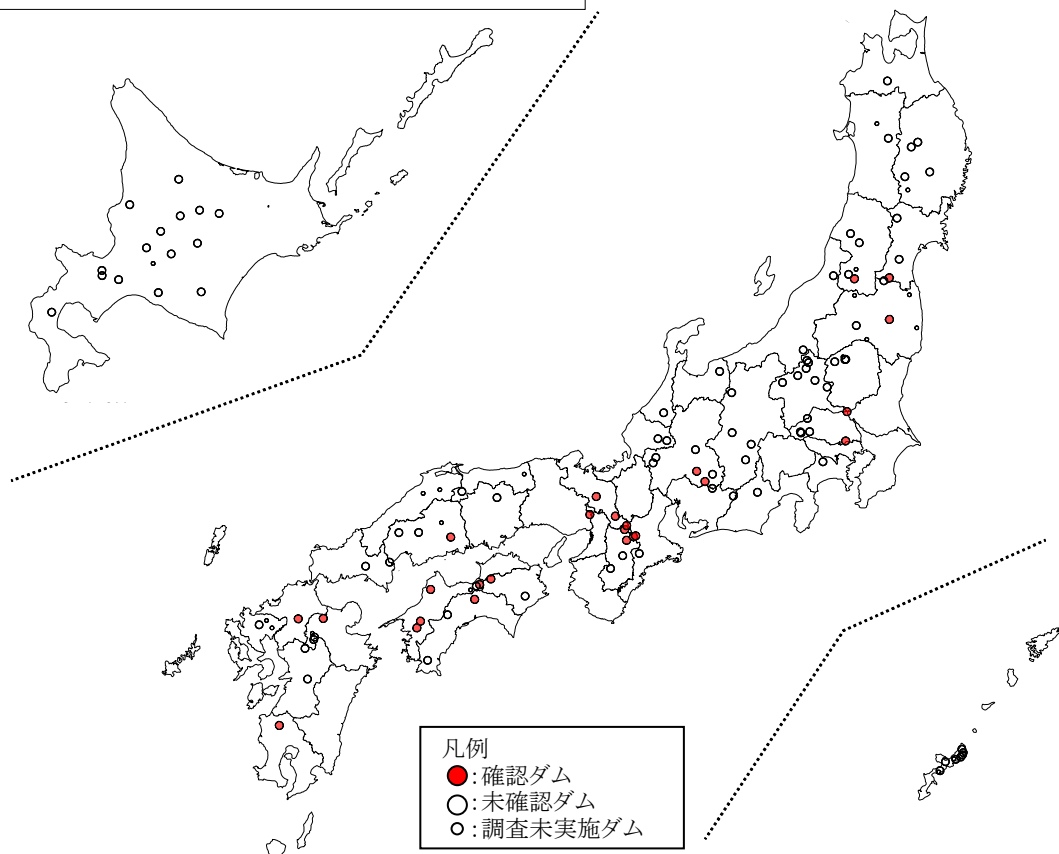
ハクビシンはヒマラヤや中国南部、台湾、マレー半島等が原産で、日本には毛皮目的に導入されました。日本列島のほぼ全域に分布が拡大、市街地から山間部まで生息し、農業被害や人家への侵入が問題となっています。

※特定外来生物とは、『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（2005 年 6 月 1 日施行）』により、輸入や飼養等が規制される生物(生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれます)です。おおむね明治以降に国外から導入された国外外来種のうち、生態系、人の生命・身体及び農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがある生物が指定されています。2023 年 6 月 1 日より、アカミミガメ (*Trachemys scripta*) 及びアメリカザリガニ (*Procambarus clarkii*) が通常の特特定外来生物の規制の一部を適用除外とする「条件付特定外来生物（通称）」として追加されました。

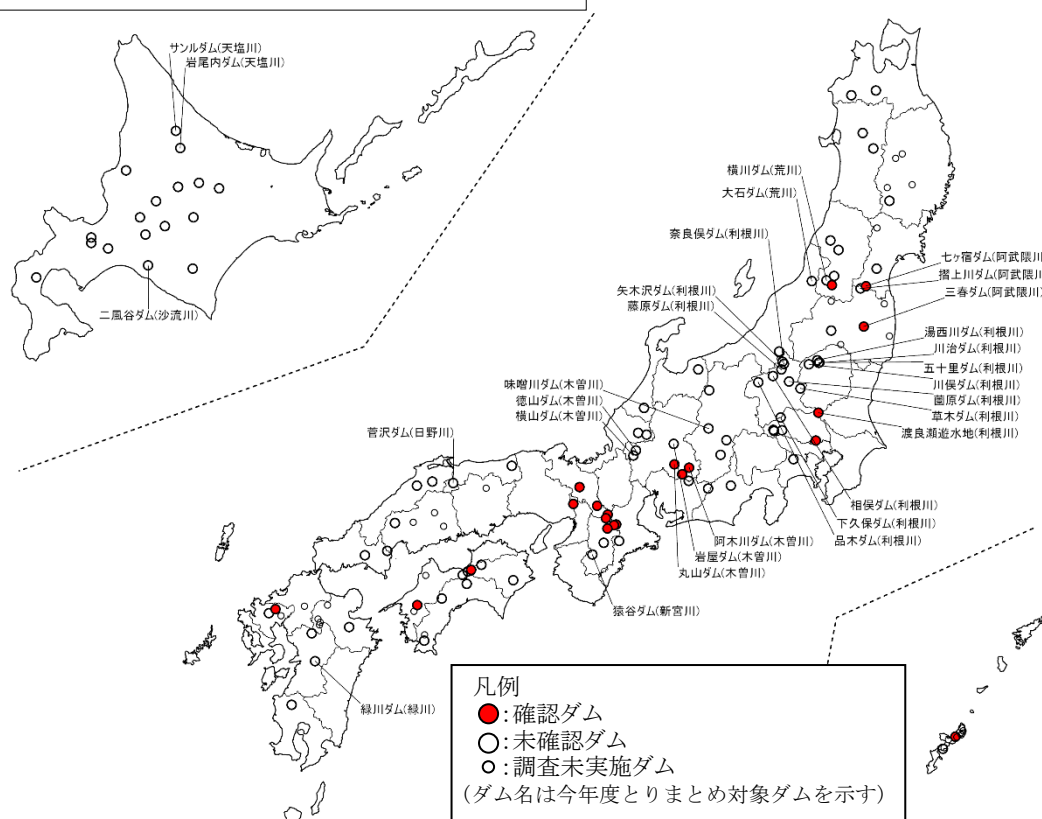
参考文献：1) 日本生態学会編（2002）外来種ハンドブック, 地人書館
2) (独) 国立環境研究所, 侵入生物データベース



4 巡目調査（平成 18～27 年度）

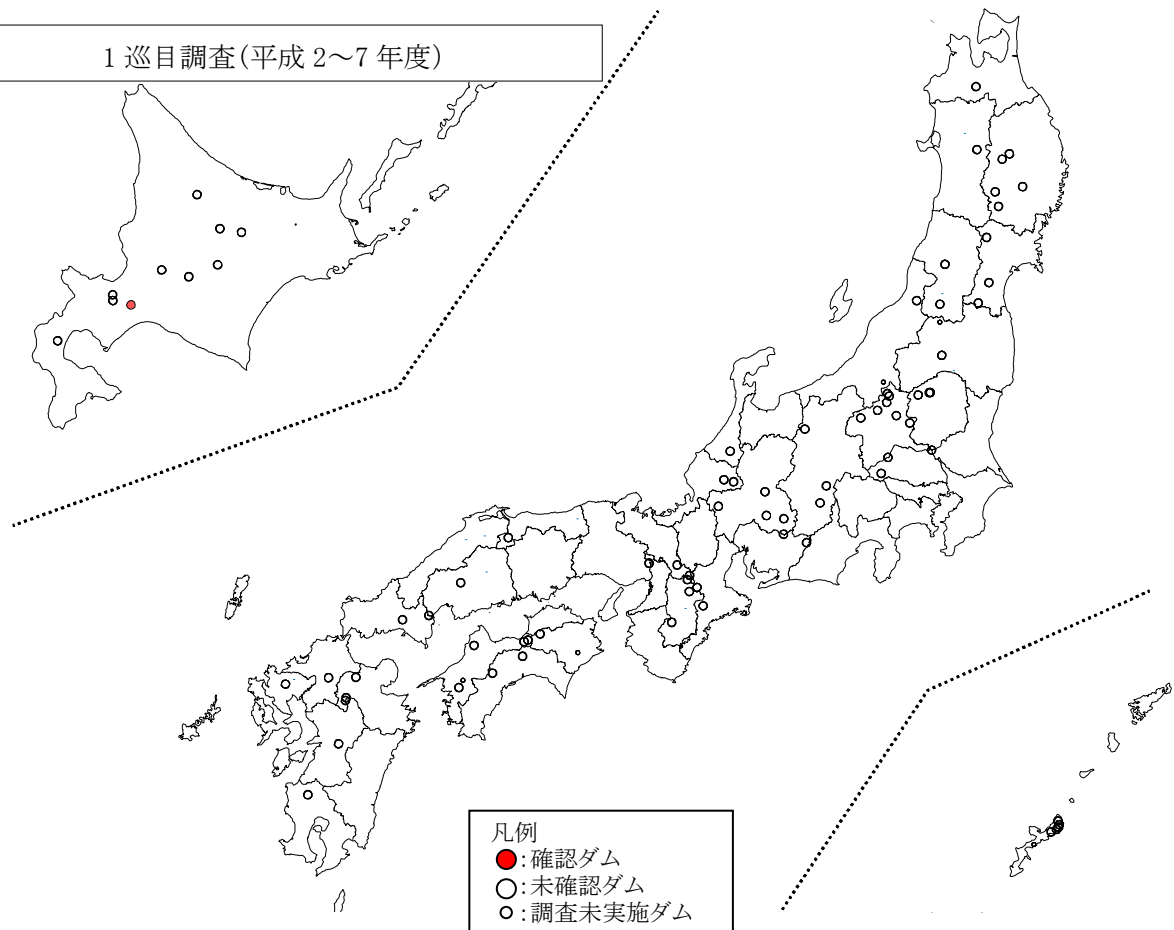


5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）

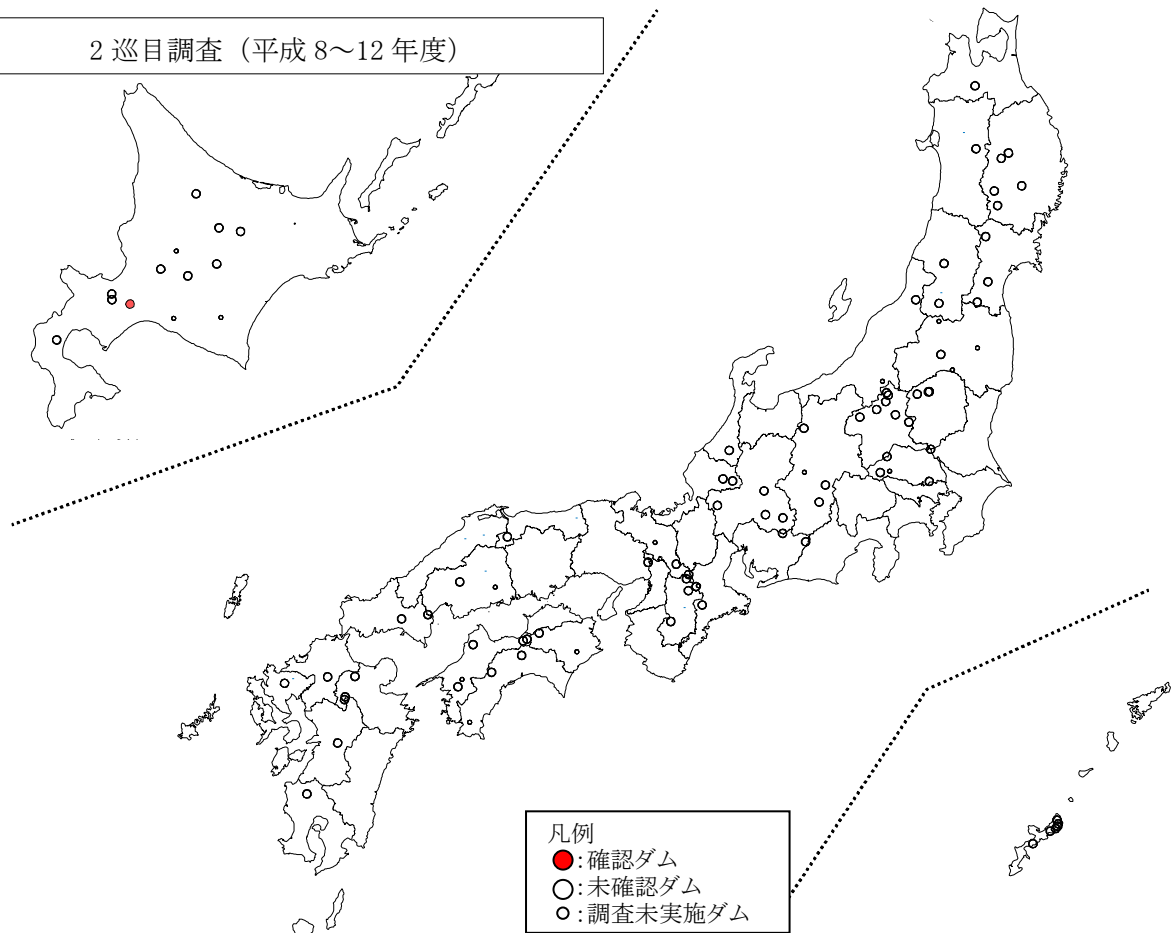


ウシガエル（特定外来生物）の確認状況（4 巡目調査、5 巡目調査）

1 巡目調査(平成 2～7 年度)

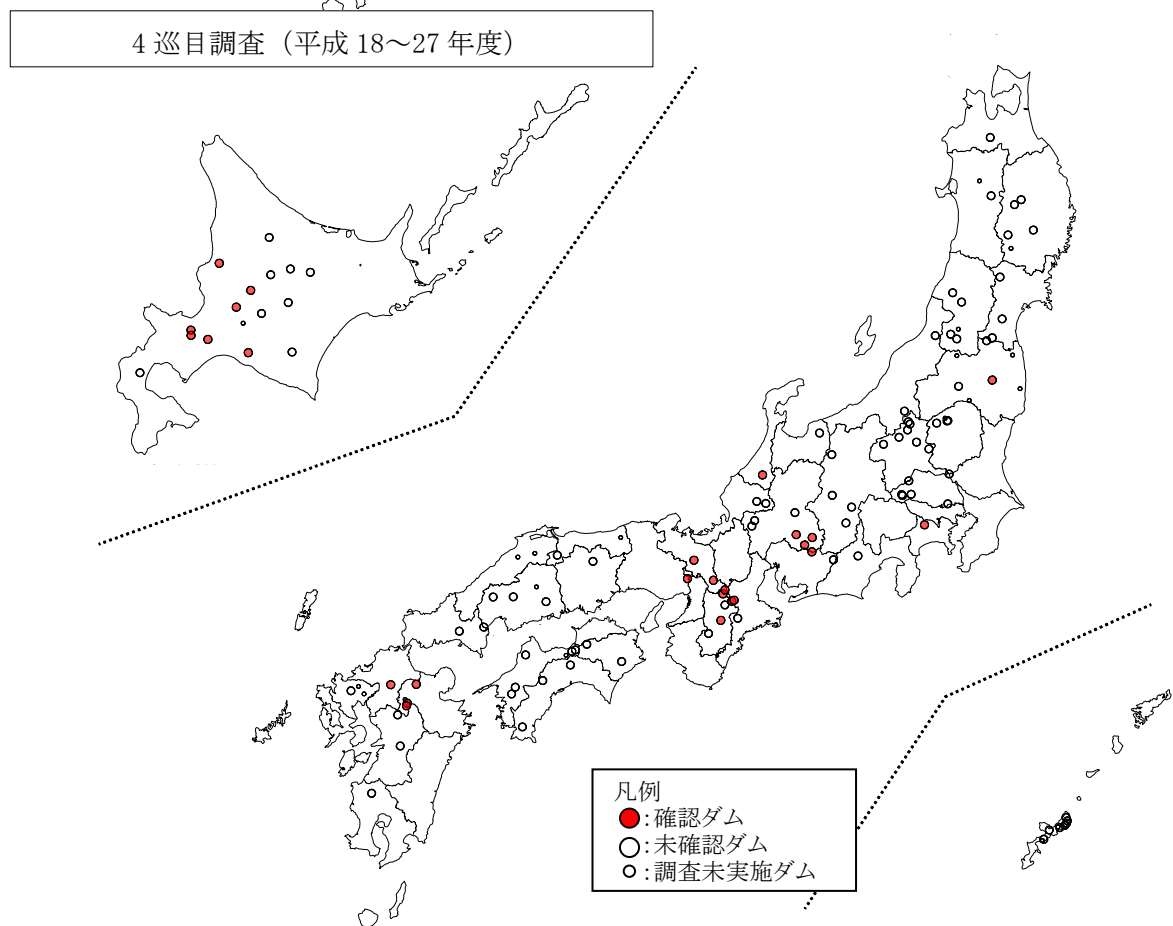
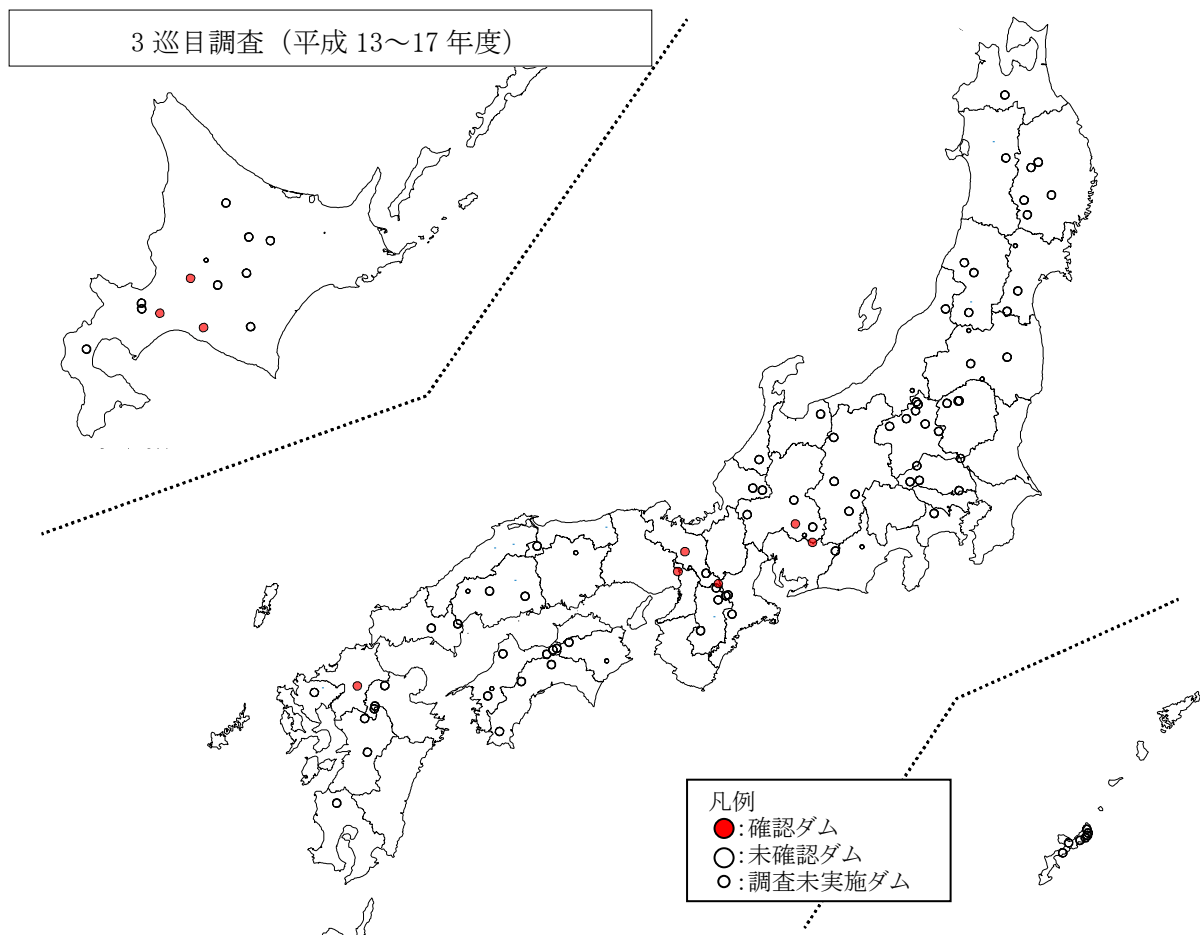


2 巡目調査 (平成 8～12 年度)



アライグマ (特定外来生物) の確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査)

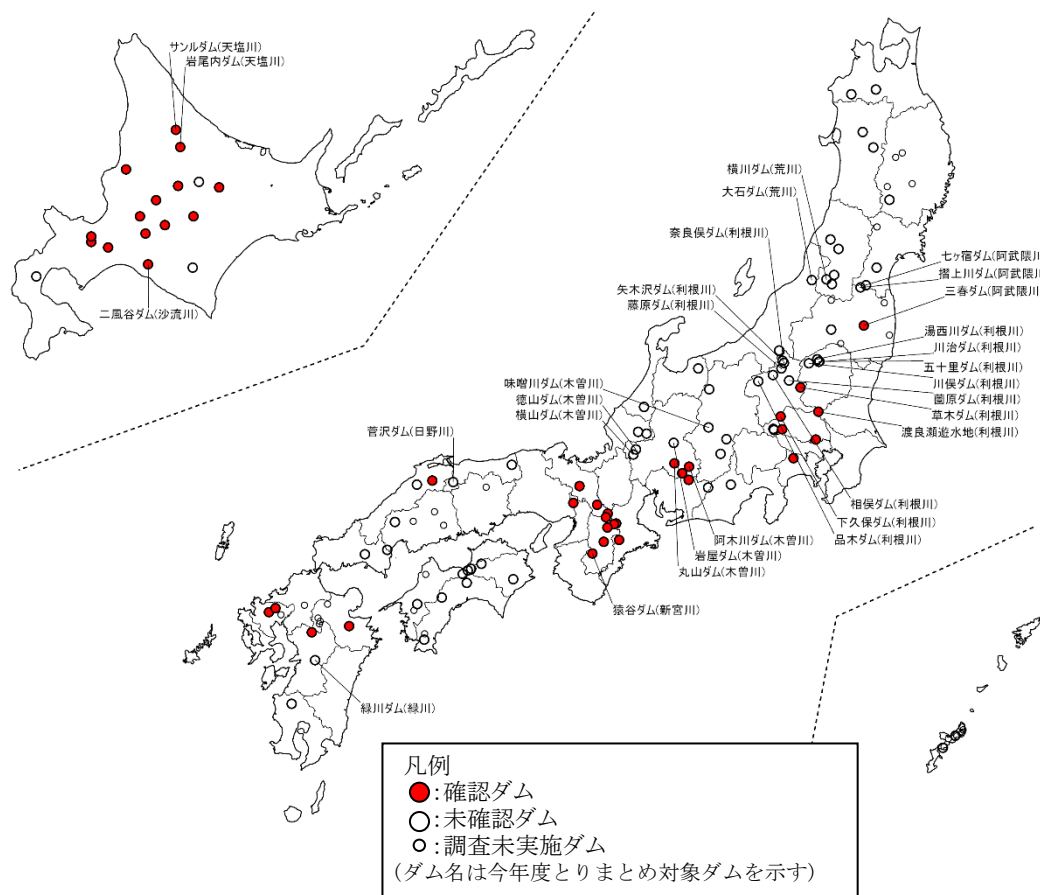
※アライグマは全国的に分布拡大している種であるため、過年度の確認状況もあわせて示した。



アライグマ（特定外来生物）の確認状況（3 巡目調査、4 巡目調査）

※アライグマは全国的に分布拡大している種であるため、過年度の確認状況もあわせて示した。

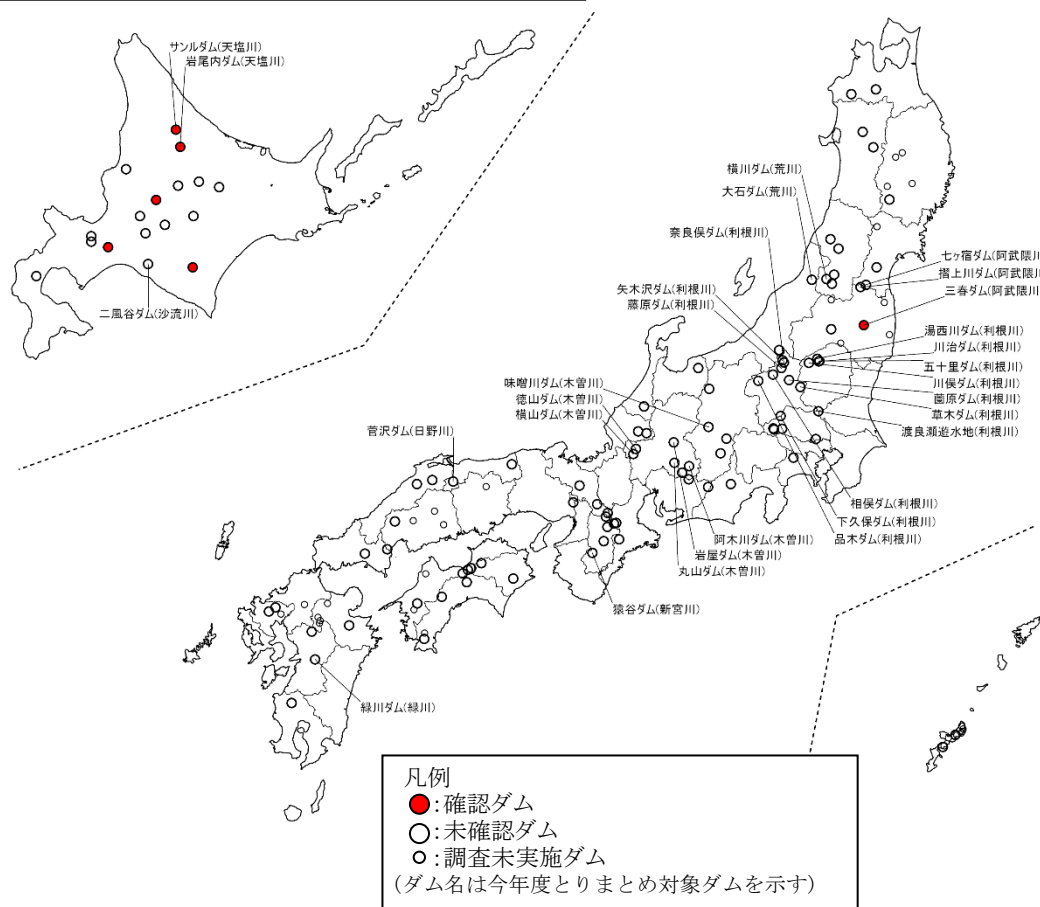
5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



アライグマ（特定外来生物）の確認状況（5 巡目調査）

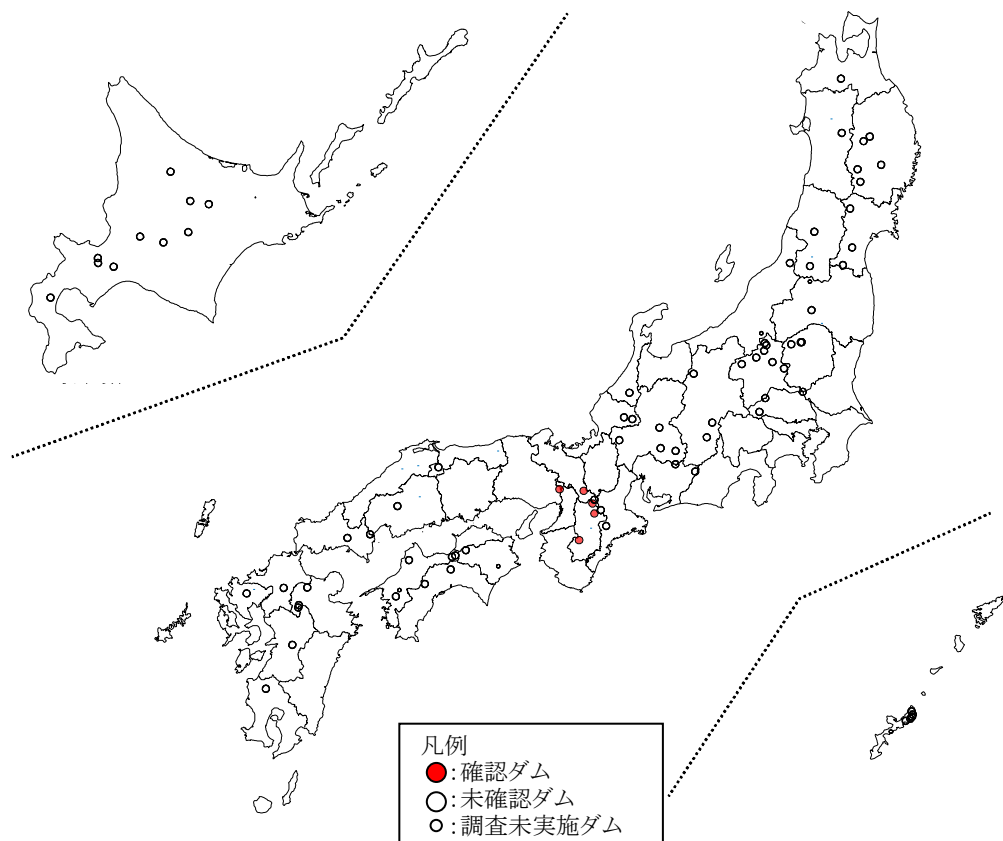
※アライグマは全国的に分布拡大している種であるため、過年度の確認状況もあわせて示した。

5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）

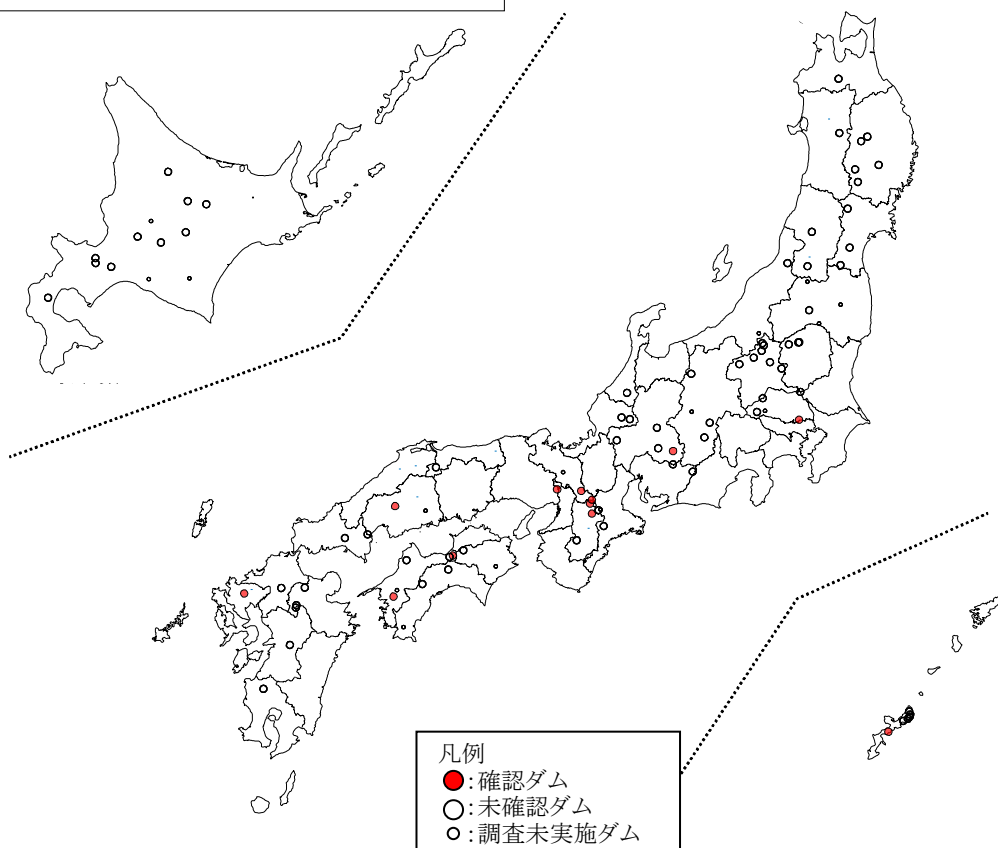


ミンク（特定外来生物）の確認状況（5 巡目調査）

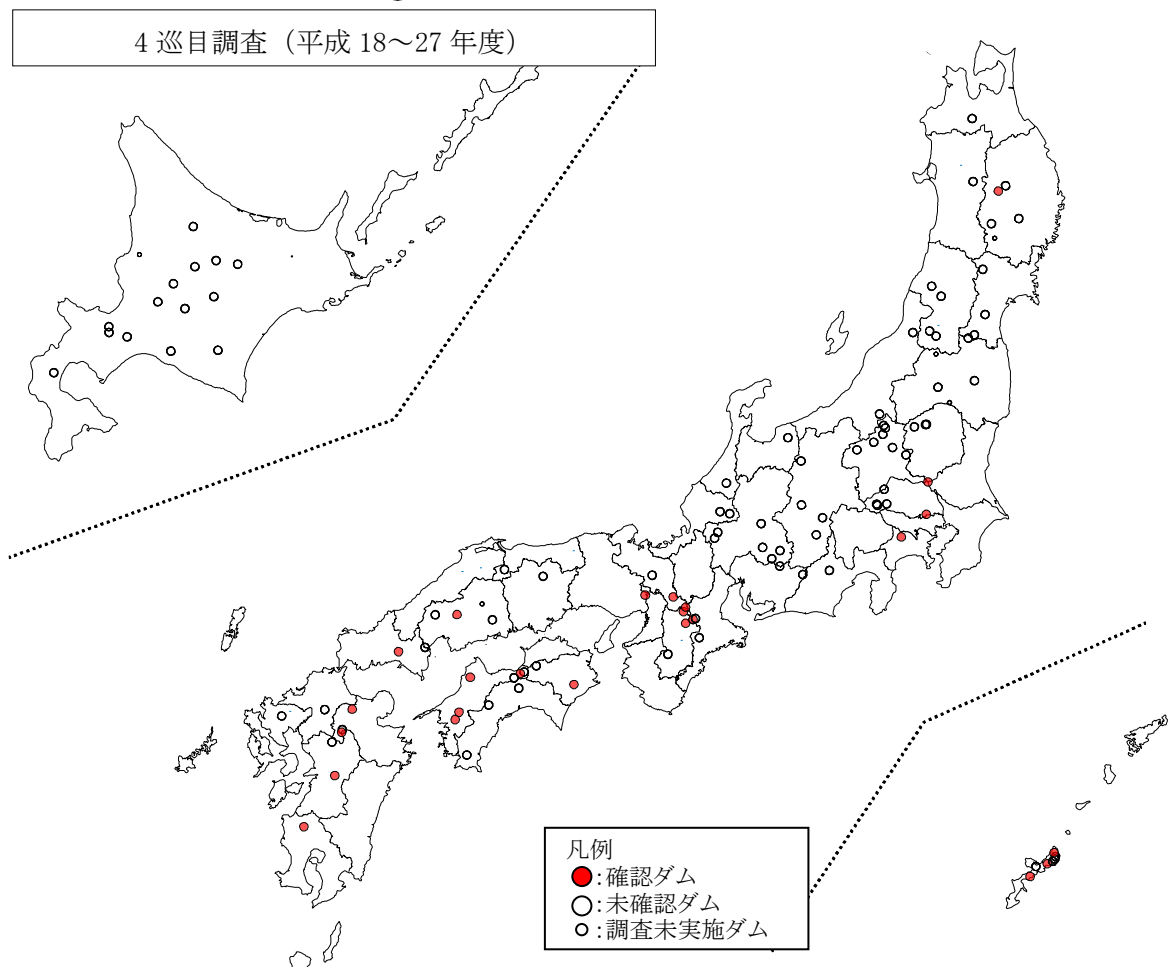
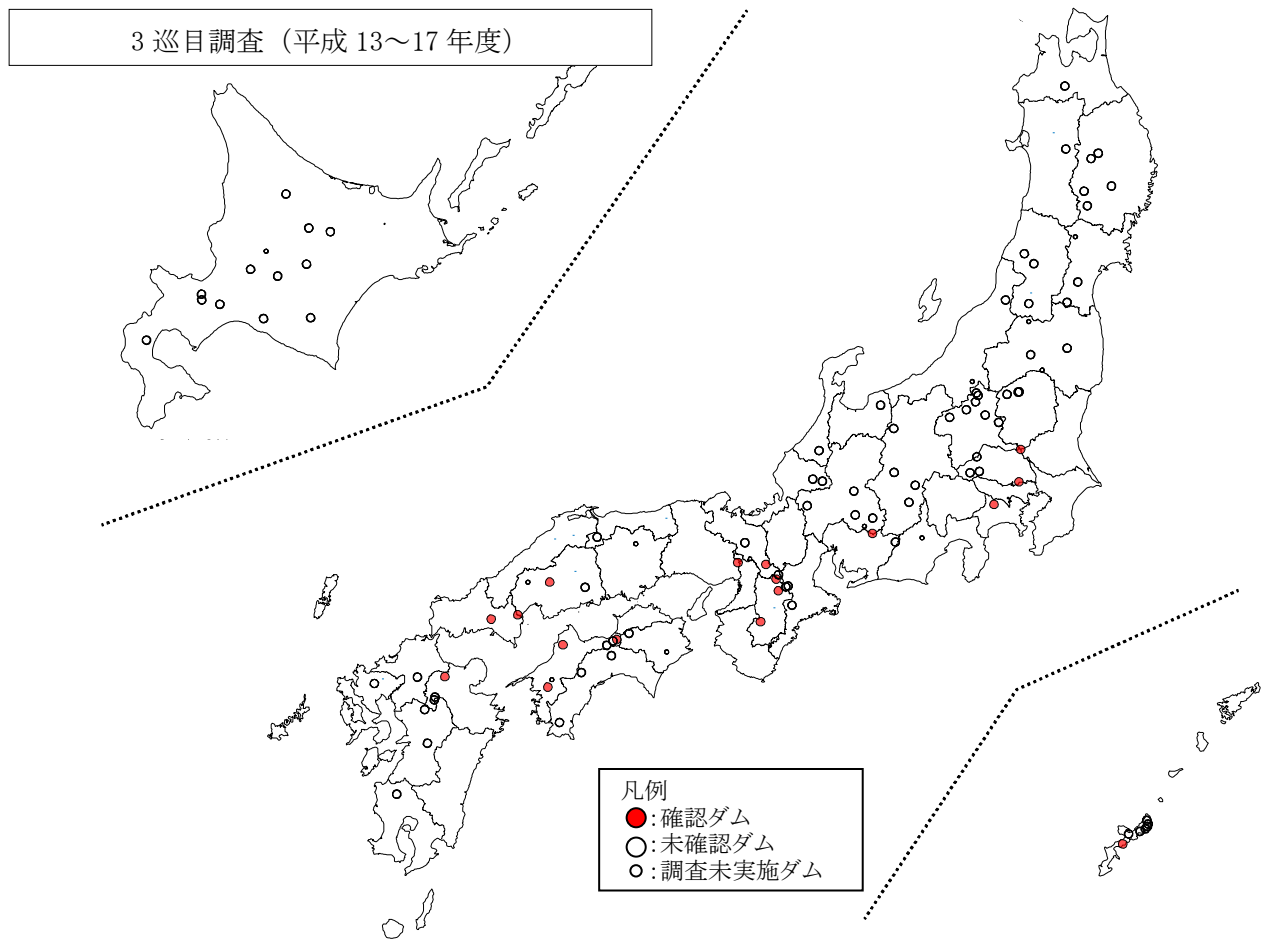
1 巡目調査(平成 2～7 年度)



2 巡目調査 (平成 8～12 年度)

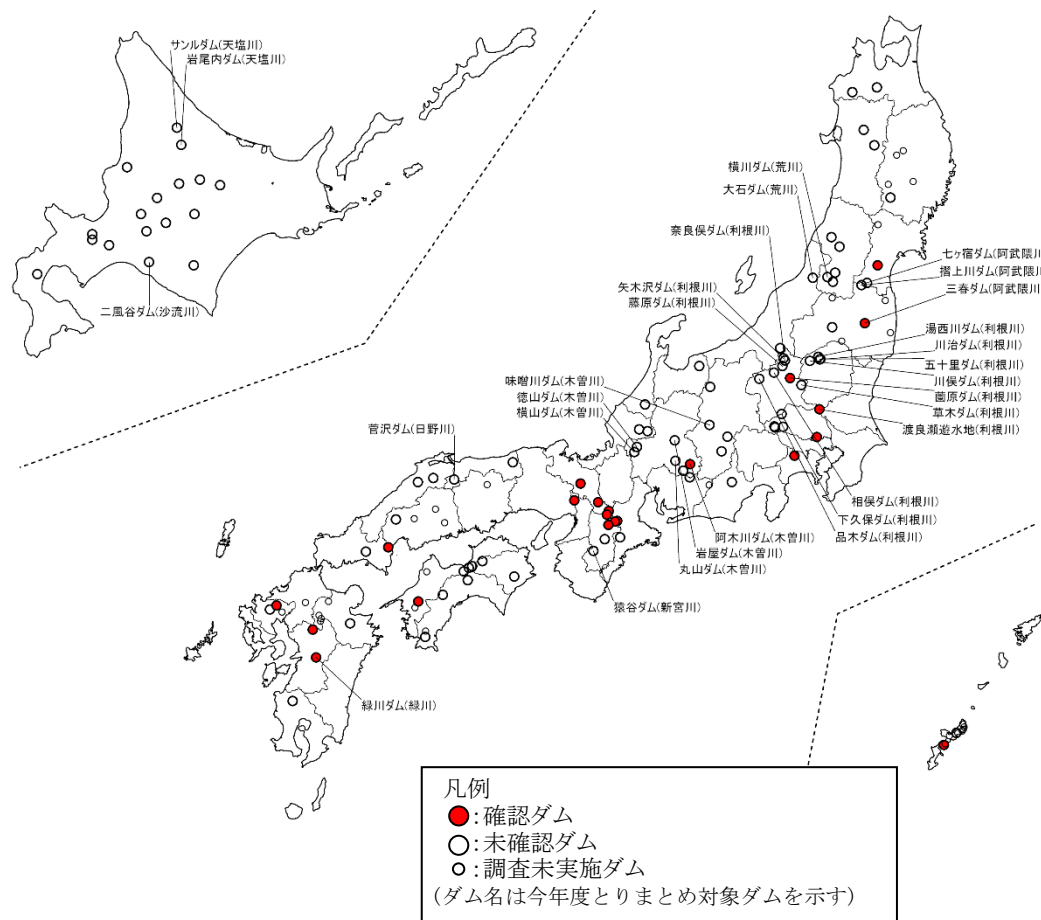


ミシシippアカミミガメ (条件付特定外来生物) の確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査)
 ※ミシシippアカミミガメは全国的に分布拡大している種であるため、過年度の確認状況もあわせて示した。



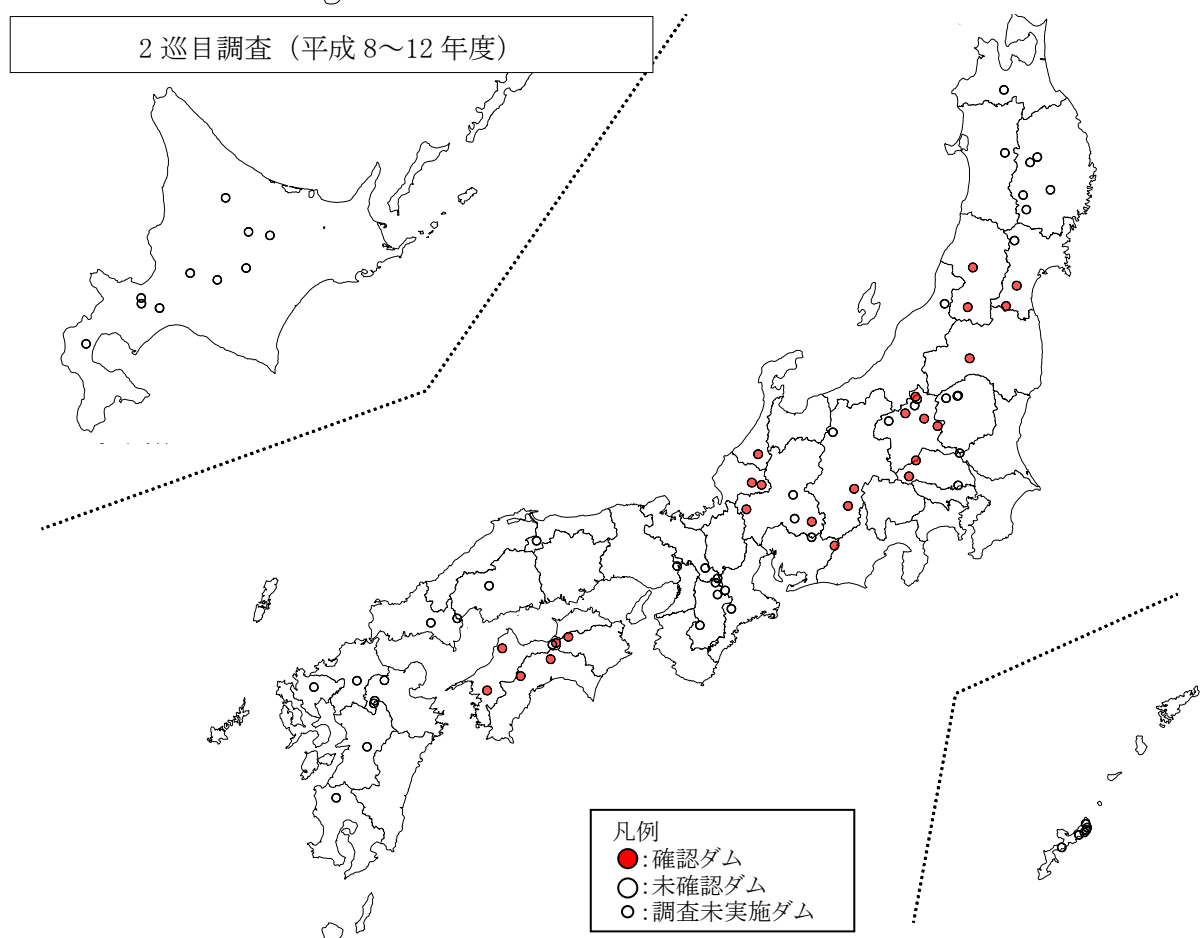
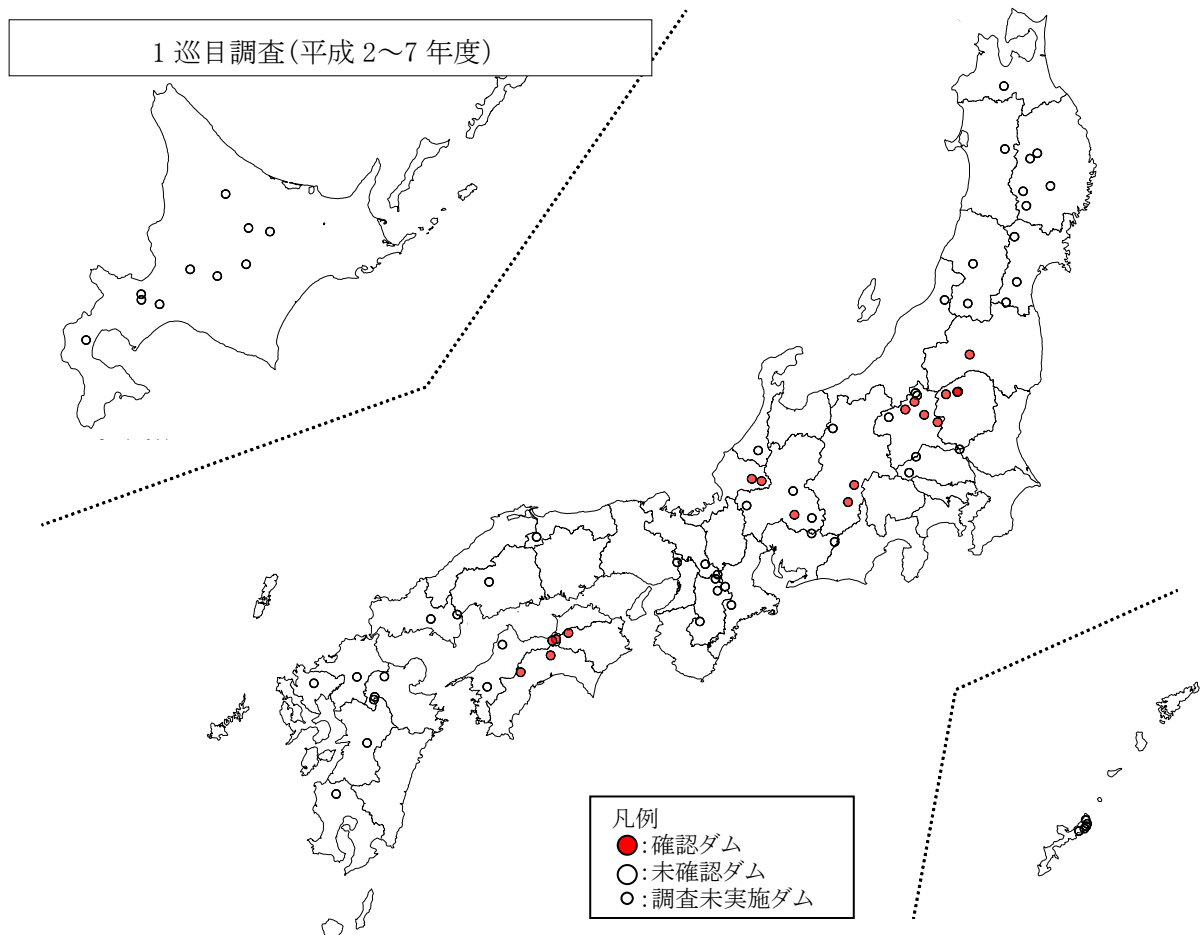
ミシシippiaカミミガメ（条件付特定外来生物）の確認状況（3 巡目調査、4 巡目調査）
 ※ミシシippiaカミミガメは全国的に分布拡大している種であるため、過年度の確認状況もあわせて示した。

5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



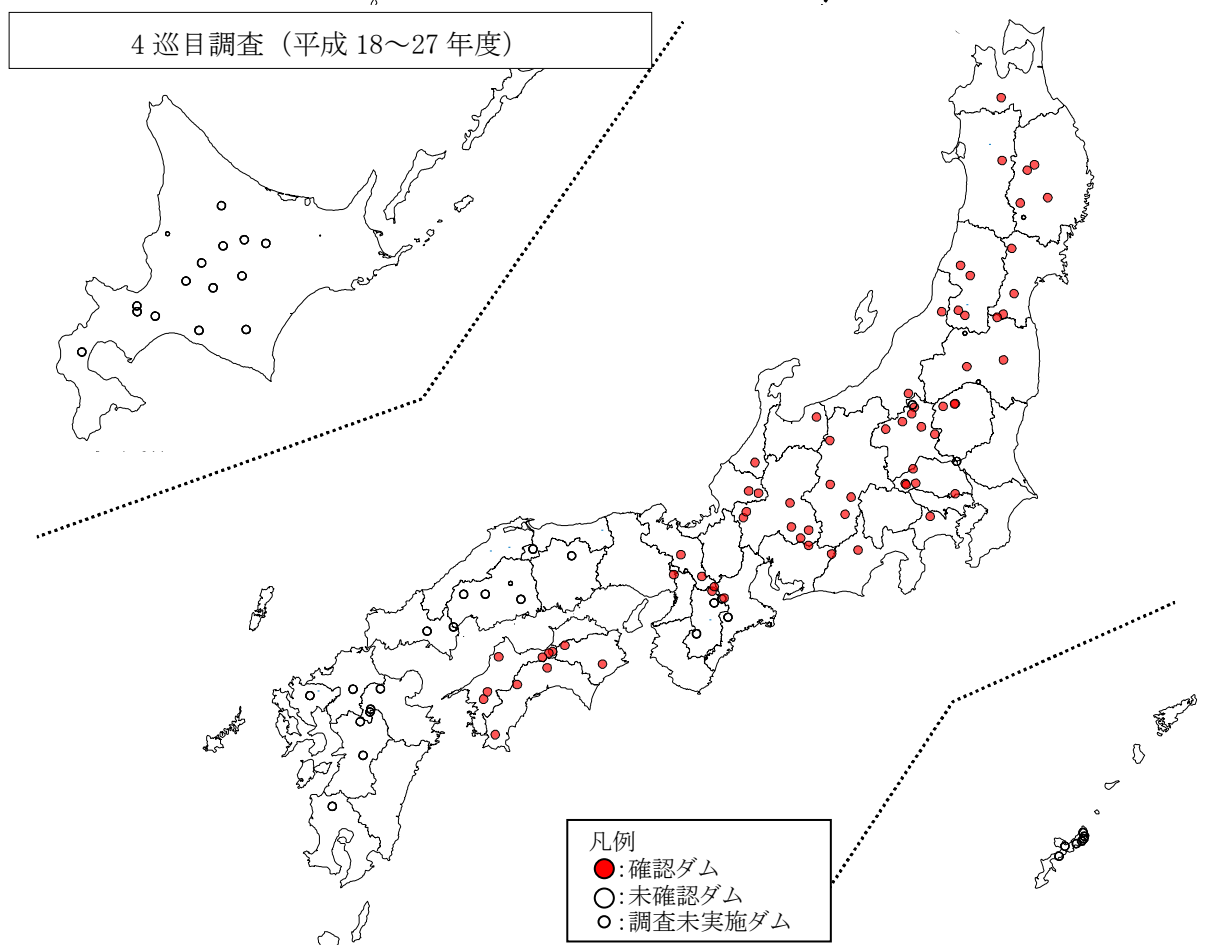
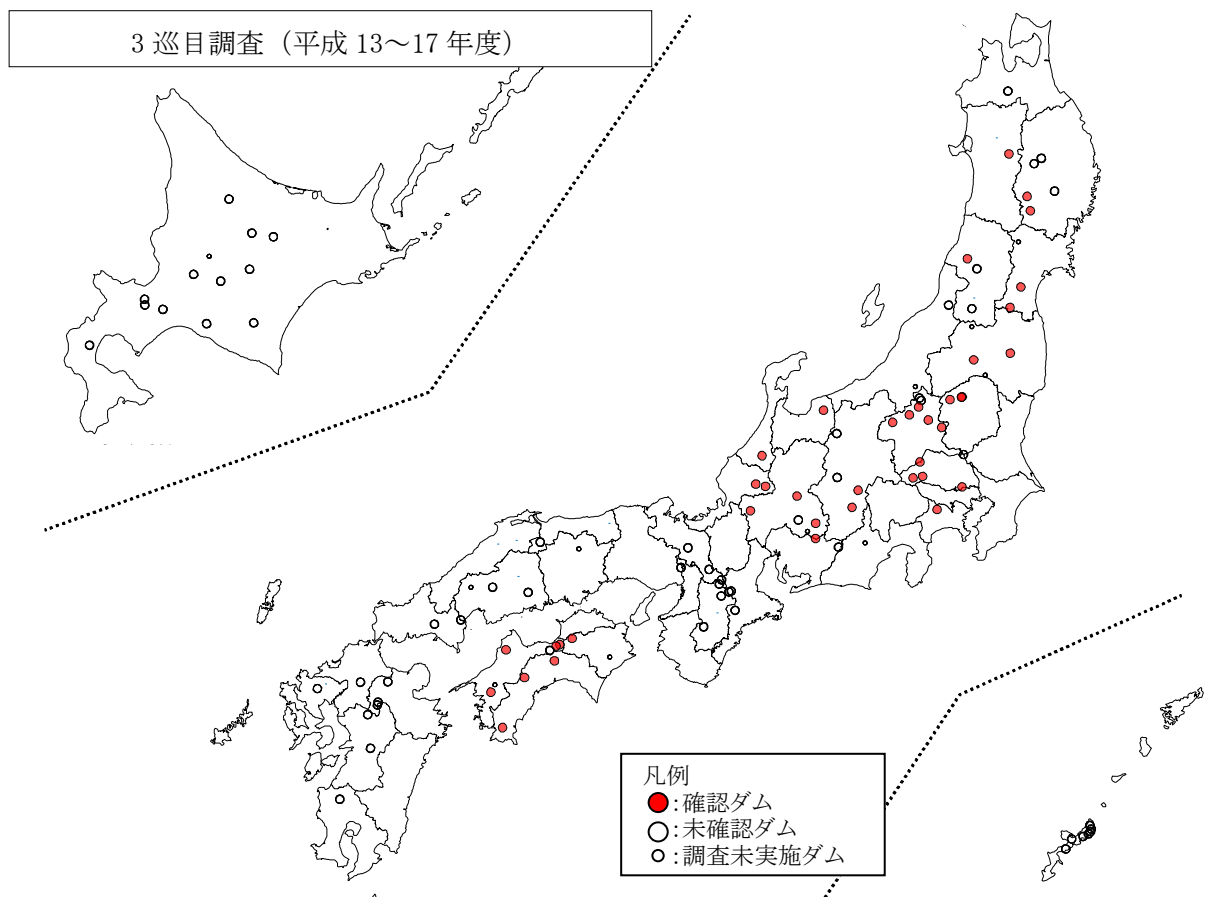
ミシシippアカミミガメ（条件付特定外来生物）の確認状況（5 巡目調査）

※ミシシippアカミミガメは全国的に分布拡大している種であるため、過年度の確認状況もあわせて示した。



ハクビシン（生態系被害防止外来種リスト掲載種）の確認状況（1 巡目調査、2 巡目調査）

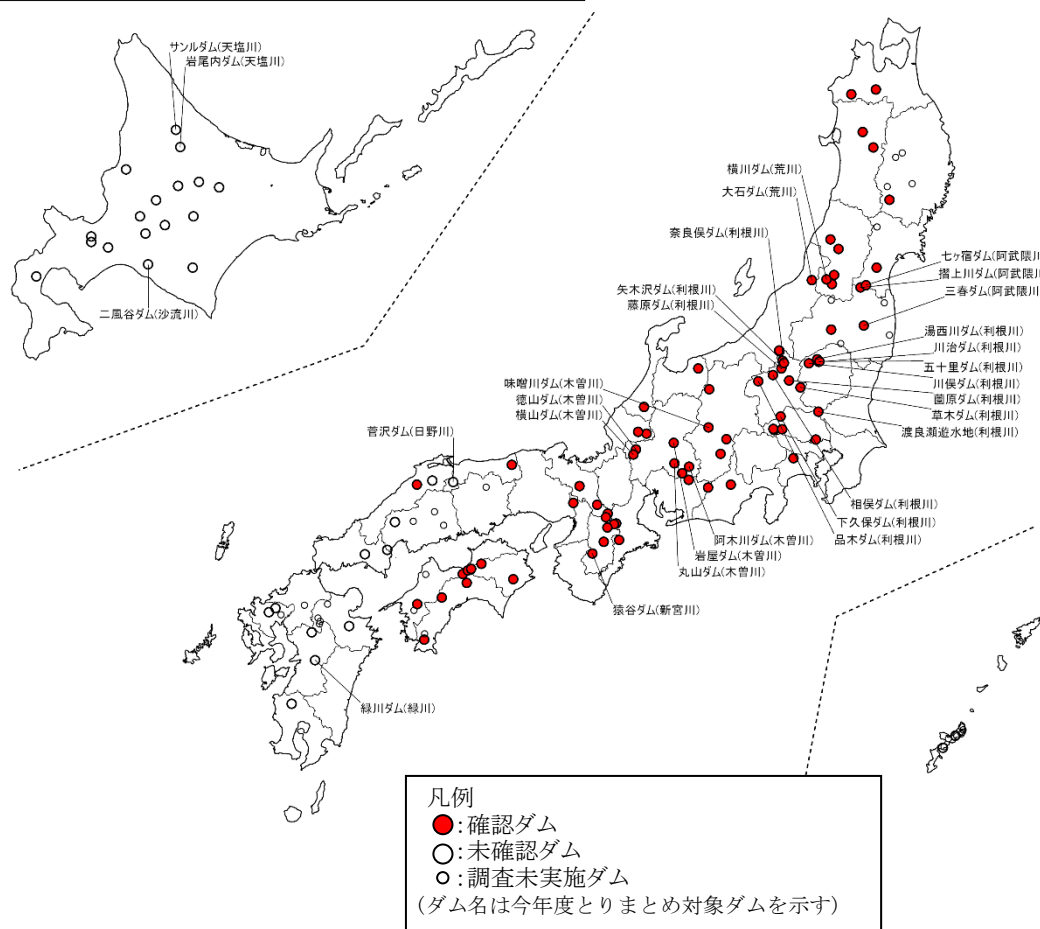
※ハクビシンは全国的に分布拡大している種であるため、過年度の確認状況もあわせて示した。



ハクビシン（生態系被害防止外来種リスト掲載種）の確認状況（3 巡目調査、4 巡目調査）

※ハクビシンは全国的に分布拡大している種であるため、過年度の確認状況もあわせて示した。

5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



ハクビシン（生態系被害防止外来種リスト掲載種）の確認状況（5 巡目調査）

※ハクビシンは全国的に分布拡大している種であるため、過年度の確認状況もあわせて示した。

6.3 注目すべき種の分布状況

(1) 農林業とかかわりが大きい哺乳類（サル、クマ、シカ、イノシシ）の確認状況

- ・ダム湖周辺で、農林業やダム湖周辺の植生に影響を及ぼす大型哺乳類（ニホンザル、ヒグマ、ツキノワグマ、ニホンジカ、イノシシ）を継続して確認
- ・4巡目、5巡目でニホンジカ、イノシシ（ニホンイノシシ）の生息が確認されたダムでは、ほとんどのダムで4巡目調査より確認地区数が増加

農林業とかかわりが大きい哺乳類の確認ダム数の巡目比較

種名	1 巡目調査 (80 ダム)	2 巡目調査 (82 ダム)	3 巡目調査 (96 ダム)	4 巡目調査 (111 ダム)	5 巡目調査 (104 ダム)	今回 確認
ニホンザル	38/65 ダム [58.5%]	38/66 ダム [57.6%]	49/77 ダム [63.6%]	59/89 ダム [66.3%]	63/85 ダム [74.1%]	○
ヒグマ	8/10 ダム [80.0%]	9/10 ダム [90.0%]	11/12 ダム [91.7%]	15/15 ダム [100.0%]	17/17 ダム [100.0%]	○
ツキノワグマ	22/65 ダム [33.8%]	27/66 ダム [40.9%]	34/77 ダム [44.2%]	44/89 ダム [49.4%]	48/85 ダム [56.5%]	○
ニホンジカ	29/75 ダム [38.7%]	36/76 ダム [47.4%]	48/89 ダム [53.9%]	81/104 ダム [77.9%]	86/102 ダム [84.3%]	○
イノシシ (ニホンイノシシ)	32/65 ダム [49.2%]	42/66 ダム [63.6%]	51/77 ダム [66.2%]	72/89 ダム [80.9%]	74/85 ダム [87.1%]	○
(リュウキュウイノシシ)	5/5 ダム [100.0%]	6/6 ダム [100.0%]	7/7 ダム [100.0%]	7/7 ダム [100.0%]	2/2 ダム [100.0%]	

注1) () 内は各巡目において調査を実施しているダムの数を示す。巡目の途中から調査を行っていたり、途中の年度を調査していないダムがあるため、巡目毎の調査ダム数は同じではない。

注2) [] 内は確認ダム数の対象ダム数に対する%を示す。

注3) ニホンザルの対象ダムは本州・四国・九州、ヒグマの対象ダムは北海道、ツキノワグマの対象ダムは本州・四国・九州、ニホンジカの対象ダムは北海道・本州・四国・九州、イノシシ（ニホンイノシシ）の対象ダムは本州・四国・九州、イノシシ（リュウキュウイノシシ）の対象ダムは沖縄のみである。

ダム周辺の自然環境の指標となる大型哺乳類のうち、近年生息域が拡大し、農業被害が深刻化している、ニホンザル、ヒグマ、ツキノワグマ、ニホンジカ、イノシシの確認状況を整理しました。

ニホンザルは、今回とりまとめ対象とした 30 ダムのうち、東北の摺上川ダム、セヶ宿ダム、関東の矢木沢ダム、藤原ダム、奈良俣ダム、相俣ダム、菌原ダム、品木ダム、草木ダム、川俣ダム、川治ダム、五十里ダム、湯西川ダム（今回初めて調査）、北陸の横川ダム、大石ダム、中部の味噌川ダム、丸山ダム、阿木川ダム、岩屋ダム、徳山ダム、横山ダム、近畿の猿谷ダム、中国の菅沢ダム、九州の緑川ダムの 24 ダムで確認されました。関東の湯西川ダム、中部の菅沢ダムでは初めての確認となっています。

ヒグマは、今回とりまとめ対象とした 30 ダムのうち、北海道の岩尾内ダム、サンルダム（今回初めて調査）、二風谷ダムの 3 ダムで確認されました。北海道のサンルダムでは初めての確認となっています。

ツキノワグマは、今回とりまとめ対象とした 30 ダムのうち、東北の摺上川ダム、セヶ宿ダム、関東の矢木沢ダム、藤原ダム、奈良俣ダム、相俣ダム、菌原ダム、品木ダム、草木ダム、川俣ダム、川治ダム、五十里ダム、湯西川ダム（今回初めて調査）、下久保ダム、北陸の横川ダム、大石ダム、中部の味噌川ダム、阿木川ダム、岩屋ダム、徳山ダム、横山ダム、近畿の猿谷ダムの 22 ダムで確認されました。関東の草木ダム、湯西川ダム、中部の阿木川ダム、近畿の猿谷ダムでは初めての確認となっています。

ニホンジカは、今回とりまとめ対象とした 30 ダムのうち、北海道の岩尾内ダム、サンルダ

ム（今回初めて調査）、二風谷ダム、東北の摺上川ダム、七ヶ宿ダム、関東の矢木沢ダム、藤原ダム、奈良俣ダム、相俣ダム、菌原ダム、品木ダム、草木ダム、渡良瀬遊水地、川俣ダム、川治ダム、五十里ダム、湯西川ダム（今回初めて調査）、下久保ダム、中部の味噌川ダム、丸山ダム、阿木川ダム、岩屋ダム、徳山ダム、横山ダム、近畿の猿谷ダム、中国の菅沢ダム、九州の緑川ダムの 27 ダムで確認されました。北海道のサンルダム、東北の七ヶ宿ダム、関東の渡良瀬遊水地、湯西川ダム、中部の阿木川ダム、中国の菅沢ダムでは初めての確認となっています。

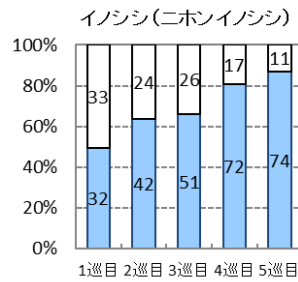
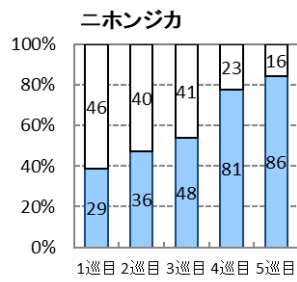
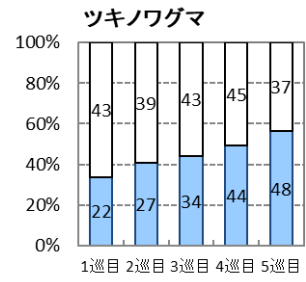
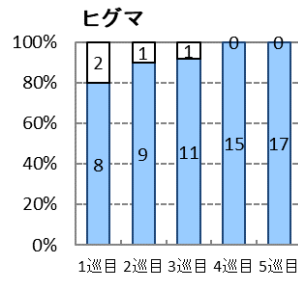
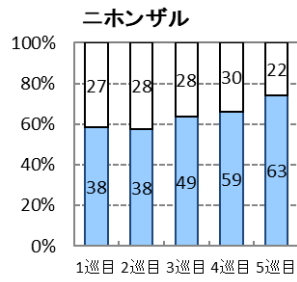
イノシシ（ニホンイノシシ）は、今回とりまとめ対象とした 30 ダムのうち、東北の三春ダム、摺上川ダム、七ヶ宿ダム、関東の矢木沢ダム、藤原ダム、奈良俣ダム、相俣ダム、菌原ダム、品木ダム、草木ダム、渡良瀬遊水地、川俣ダム、川治ダム、五十里ダム、下久保ダム、中部の味噌川ダム、丸山ダム、阿木川ダム、岩屋ダム、徳山ダム、横山ダム、近畿の猿谷ダム、中国の菅沢ダム、九州の緑川ダムの 24 ダムで確認されました。関東の矢木沢ダム、奈良俣ダムでは初めての確認となっています。

ニホンザルは、本州、四国、九州に分布する日本の固有種です。常緑広葉樹林、落葉広葉樹林に生息し、雑食性で果実、種子、昆虫等を食べます。農作物の食害は、野菜や果実の一部のみを摂食して散乱させるため、大きな問題となっています。

クマ類は、ヒグマが北海道に、ツキノワグマが本州以南に生息しています。元々人の目にあまり触れない山地の森林を主な生息場所とし、森林が続く広い行動圏を必要とします。ヒグマは日本国内に生息する野生動物の中でもっとも大きく、雑食性です。ツキノワグマも雑食性ですが、ヒグマよりも植物質のものを多く食べると言われています。農作物の食害としては、トウモロコシ、果樹等の被害が問題となっています。また、大型の肉食獣であるため、人と遭遇した場合の事故も問題となっています。一方で、九州では 2012 年に環境省により絶滅宣言、四国のツキノワグマは、絶滅が心配されています。

ニホンジカは、イネ科草本、木の葉、堅果、ササ類等を採食し、近年は個体数の増加に伴って農作物の食害や、植林木の樹皮剥ぎ等農林業への被害や森林生態系への影響が問題となっています。

イノシシには亜種ニホンイノシシ、リュウキュウイノシシがいます。ニホンイノシシは本州、四国、九州に分布しています。里山の二次林、低山帯と隣接する水田、農耕地、平野部にも広く分布し、雑食性で、地表から地中にかけての各種の植物と動物を掘り返して採食したり、水田を泥浴びするためのヌタ場として利用したりします。このため農作物の食害や稲の倒覆等の被害、畦や河川敷の掘り返し等も問題となっています。リュウキュウイノシシは、ニホンイノシシより小型で、沖縄、奄美大島等に分布しています。



■ 確認ダム □ 未確認ダム

※グラフ中の数字はダム数

令和5年度に調査を実施した30ダムについて、3・4巡目と5巡目のニホンジカ、イノシシ（ニホンイノシシ）の確認地区割合について比較しました。これは、それぞれの種が各ダムの全調査地区に対してどの程度の割合で確認されたかを示したものです。

ニホンジカは今回とりまとめ対象とした30ダムのうち、東北の三春ダム、北陸の横川ダム、大石ダムを除く27ダムで確認されました。関東の菌原ダム、草木ダム、五十里ダム、中部の岩屋ダム、横山ダムでは4巡目と比べて確認地区割合が減少しましたが、その他のダムでは増加傾向か4巡目と同じで維持された状況でした。北海道の岩尾内ダム、サンルダム、二風谷ダム、関東の藤原ダム、相俣ダム、川俣ダム、川治ダム、下久保ダム、中部の阿木川ダム、徳山ダム、近畿の猿谷ダム、九州の緑川ダムでは全調査地区で確認され、調査範囲内に広く分布していると考えられます。東北の七ヶ宿ダム、関東の渡良瀬遊水地、中部の阿木川ダム、中国の菅沢ダムは3・4巡目調査では確認されておらず5巡目で初めて確認されました。中部の丸山ダム、阿木川ダムでは、4巡目から5巡目にかけて確認地区割合が大きく増加しました。これらのダムではニホンジカの分布が拡大していると考えられます。北海道のサンルダム及び関東の湯西川ダムは今回が初めての調査ですが、確認地区割合が高く調査範囲内に広く分布していると考えられます。

イノシシ（ニホンイノシシ）は今回とりまとめ対象とした30ダムのうち北海道の岩尾内ダム、サンルダム、二風谷ダム、関東の湯西川ダム、北陸の横川ダム、大石ダムを除く21ダムで確認されました。関東の品木ダム、中部の徳山ダム、横山ダムでは4巡目と比べて確認地区割合が減少しましたが、その他のダムでは増加傾向か4巡目と同じで維持された状況でした。関東の渡良瀬遊水地、中部の丸山ダム、阿木川ダム、中国の菅沢ダム、九州の緑川ダムでは全調査地区で確認され、調査範囲内に広く分布していると考えられます。関東の矢木沢ダム、奈良俣ダムは3・4巡目調査では確認されておらず5巡目で初めて確認され、イノシシの分布が拡大していると考えられます。

なお、シカについては、農林業への被害のほか、森林植生への食害の影響が全国的に確認されています。シカが増加すると、立木の皮を食べて樹木を枯らしてしまうほか、森林の地表面（林床）の植生を食べることにより、シカの好まない植物のみが繁茂するなど植生が単純化したり、表土を覆う植物自体が減少したりします。このような状態になると、生態系への影響や植生変化による表土の流出が懸念されます。流出した土砂は河川やダム湖へ流入し、治水・利水というダムの機能にも影響を与える可能性があります。

令和5年度調査対象ダムのニホンジカ及びイノシシの確認地区割合

ニホンジカ

地方	ダム名	確認地区割合 (%)		
		3巡目	4巡目	5巡目
北海道	岩尾内ダム	72.7%	88.9%	100.0%
	サンルダム	—	—	100.0%
	二風谷ダム	100.0%	100.0%	100.0%
東北	三春ダム	0.0%	0.0%	0.0%
	摺上川ダム	—	17.6%	26.7%
	七ヶ宿ダム	0.0%	0.0%	26.7%
関東	矢木沢ダム	0.0%	66.7%	87.5%
	藤原ダム	25.0%	58.3%	100.0%
	奈良俣ダム	12.5%	75.0%	87.5%
	相俣ダム	16.7%	50.0%	100.0%
	菌原ダム	71.4%	80.0%	75.0%
	品木ダム	14.3%	14.3%	61.5%
	草木ダム	44.4%	83.3%	81.8%
	渡良瀬遊水地	0.0%	0.0%	40.0%
	川俣ダム	50.0%	81.8%	100.0%
	川治ダム	87.5%	100.0%	100.0%
	五十里ダム	50.0%	100.0%	45.5%
	湯西川ダム	—	—	90.0%
	下久保ダム	33.3%	100.0%	100.0%
北陸	横川ダム	—	0.0%	0.0%
	大石ダム	0.0%	0.0%	0.0%
中部	味噌川ダム	11.1%	36.4%	81.8%
	丸山ダム	12.5%	0.0%	85.7%
	阿木川ダム	0.0%	0.0%	100.0%
	岩屋ダム	70.0%	100.0%	88.9%
	徳山ダム	—	100.0%	100.0%
	横山ダム	31.3%	90.0%	85.7%
近畿	猿谷ダム	38.1%	100.0%	100.0%
中国	菅沢ダム	0.0%	0.0%	25.0%
九州	緑川ダム	85.7%	100.0%	100.0%

イノシシ (ニホンイノシシ)

地方	ダム名	確認地区割合 (%)		
		3巡目	4巡目	5巡目
東北	三春ダム	0.0%	4.8%	80.0%
	摺上川ダム	—	17.6%	73.3%
	七ヶ宿ダム	0.0%	10.5%	80.0%
関東	矢木沢ダム	0.0%	0.0%	62.5%
	藤原ダム	0.0%	8.3%	40.0%
	奈良俣ダム	0.0%	0.0%	37.5%
	相俣ダム	0.0%	75.0%	90.0%
	菌原ダム	0.0%	70.0%	87.5%
	品木ダム	42.9%	85.7%	53.8%
	草木ダム	44.4%	50.0%	72.7%
	渡良瀬遊水地	0.0%	20.0%	100.0%
	川俣ダム	0.0%	27.3%	44.4%
	川治ダム	0.0%	30.0%	44.4%
	五十里ダム	12.5%	36.4%	45.5%
	湯西川ダム	—	—	0.0%
	下久保ダム	44.4%	36.4%	90.0%
北陸	横川ダム	—	0.0%	0.0%
	大石ダム	0.0%	0.0%	0.0%
中部	味噌川ダム	55.6%	27.3%	45.5%
	丸山ダム	100.0%	100.0%	100.0%
	阿木川ダム	71.4%	100.0%	100.0%
	岩屋ダム	60.0%	44.4%	66.7%
	徳山ダム	—	100.0%	85.7%
	横山ダム	62.5%	75.0%	71.4%
近畿	猿谷ダム	19.0%	33.3%	63.6%
中国	菅沢ダム	53.3%	80.0%	100.0%
九州	緑川ダム	85.7%	100.0%	100.0%

【凡例】 —：未調査

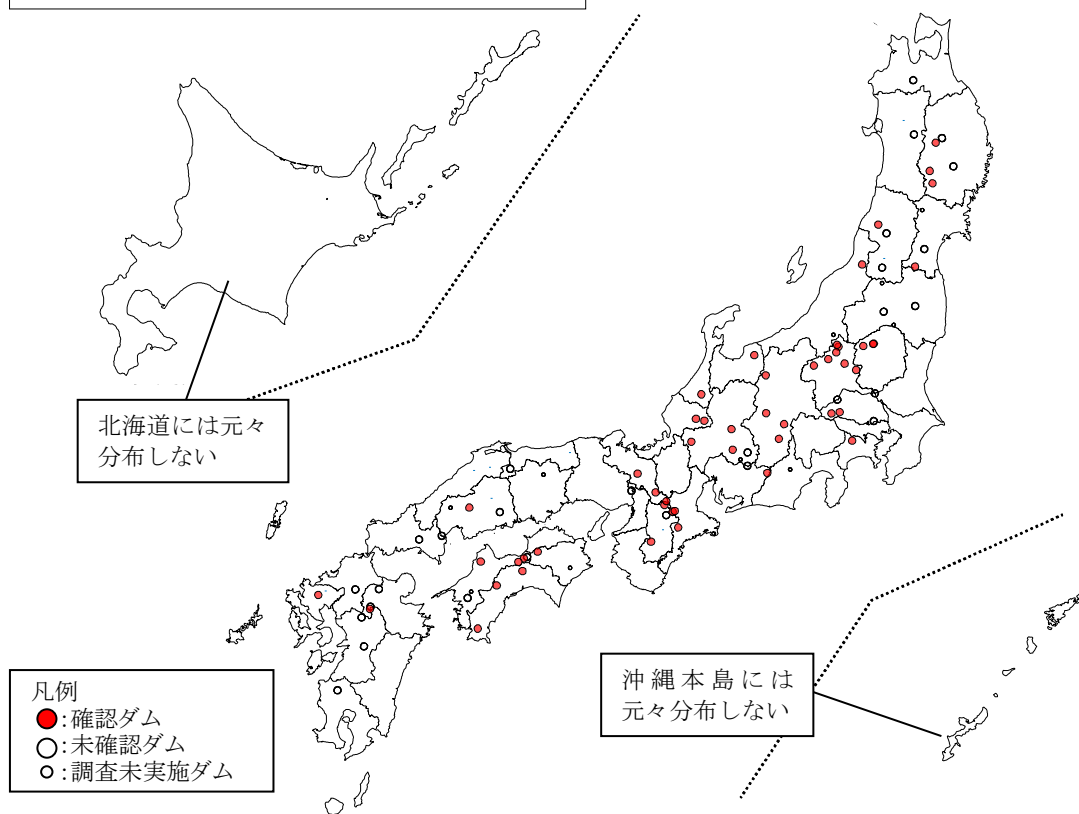
■：前回調査時より確認地区割合が増加又は100%

■：前回調査時より確認地区割合が減少又は0%

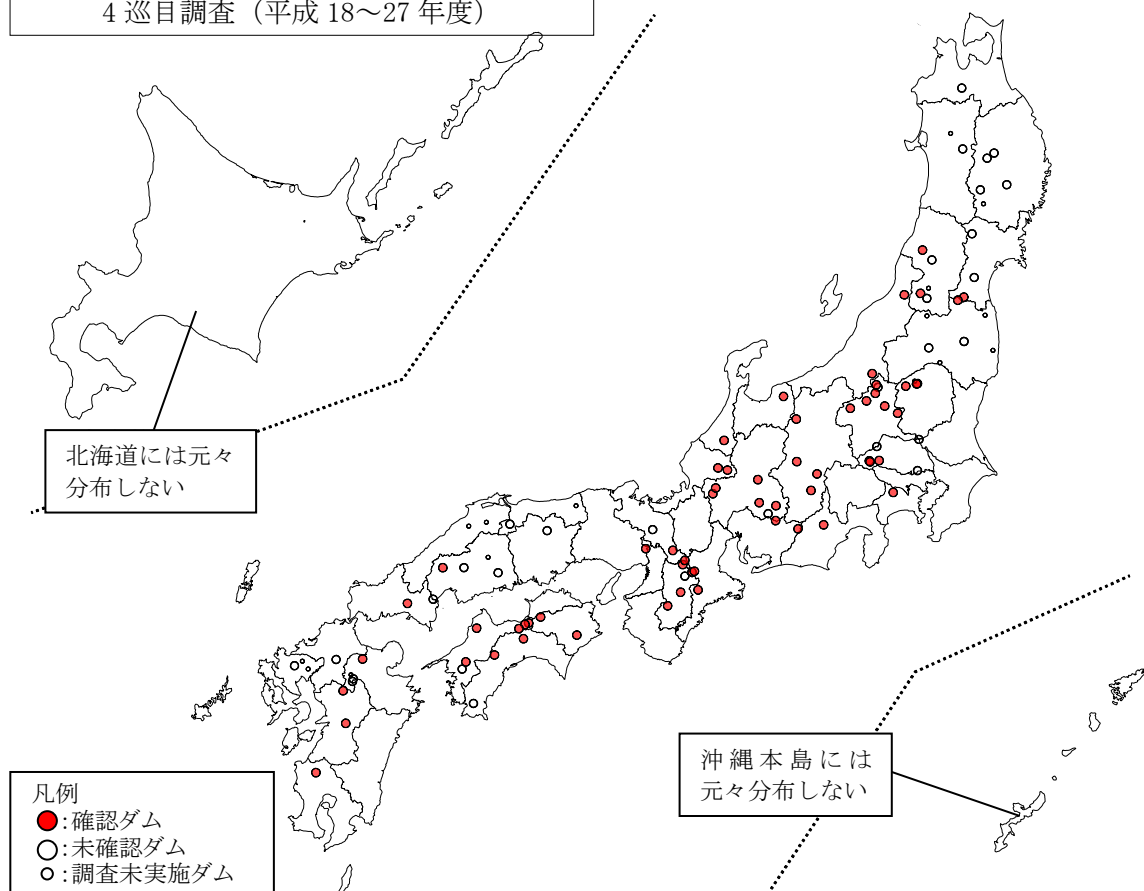
注1) 確認地区割合＝確認地区/全調査地区数として算出。3、4、5巡目の調査地区の位置、数は同じではない。



3 巡目調査（平成 13～17 年度）

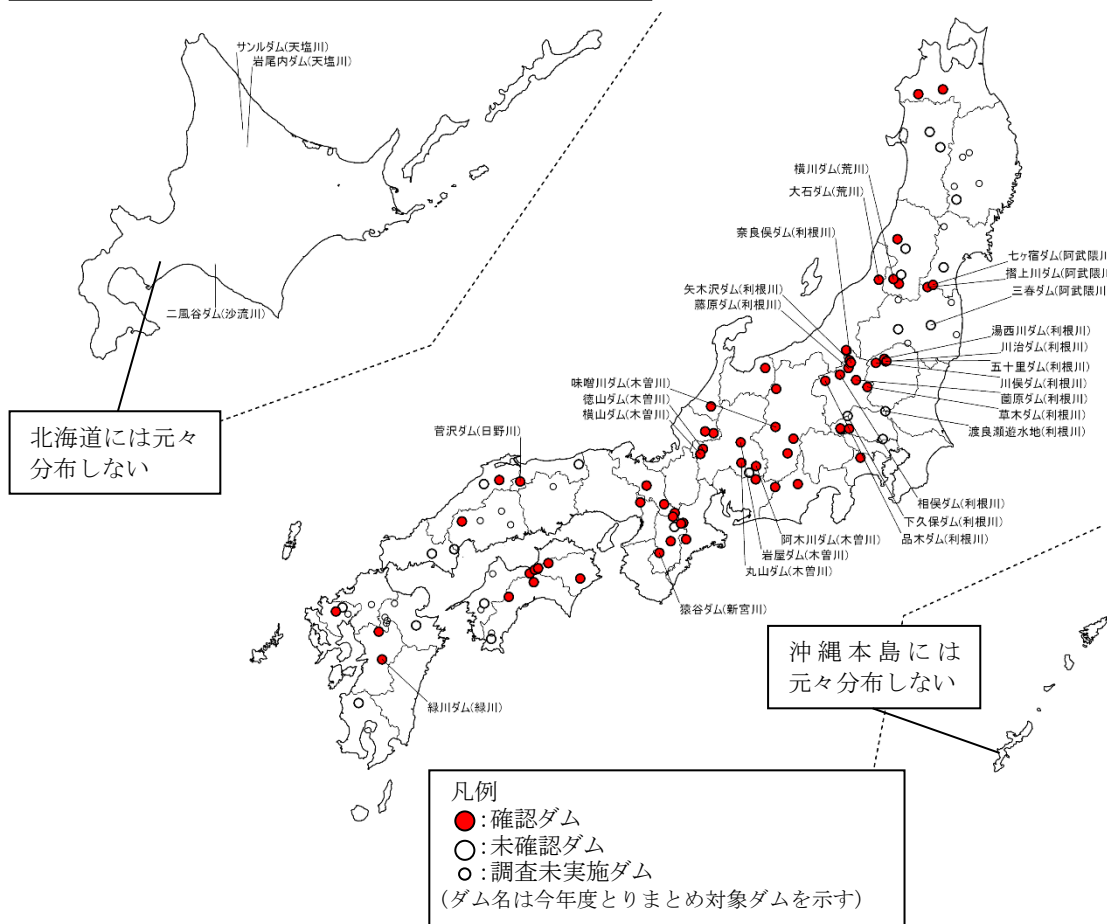


4 巡目調査（平成 18～27 年度）

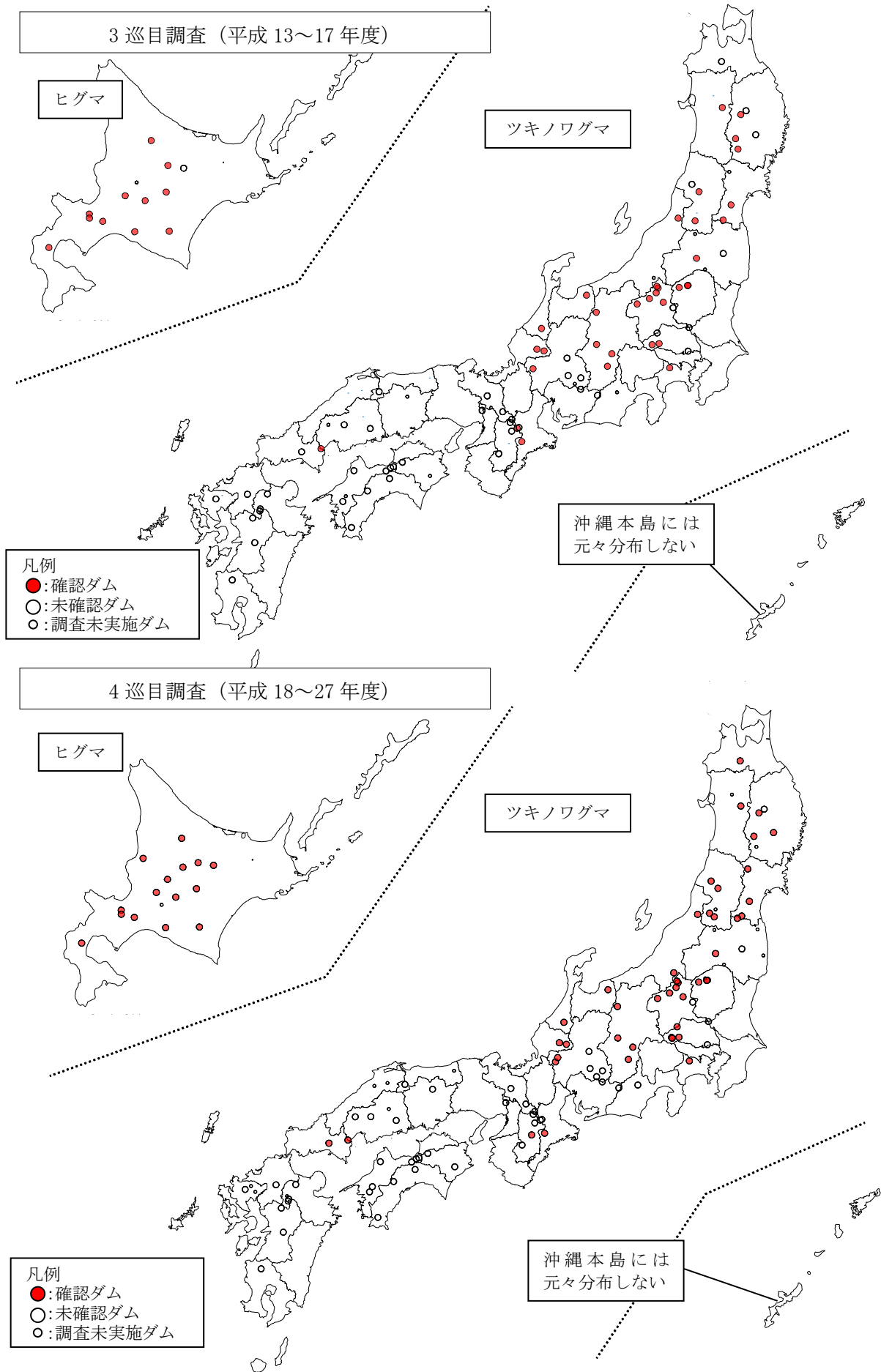


ニホンザルの確認状況（3 巡目調査、4 巡目調査）

5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）

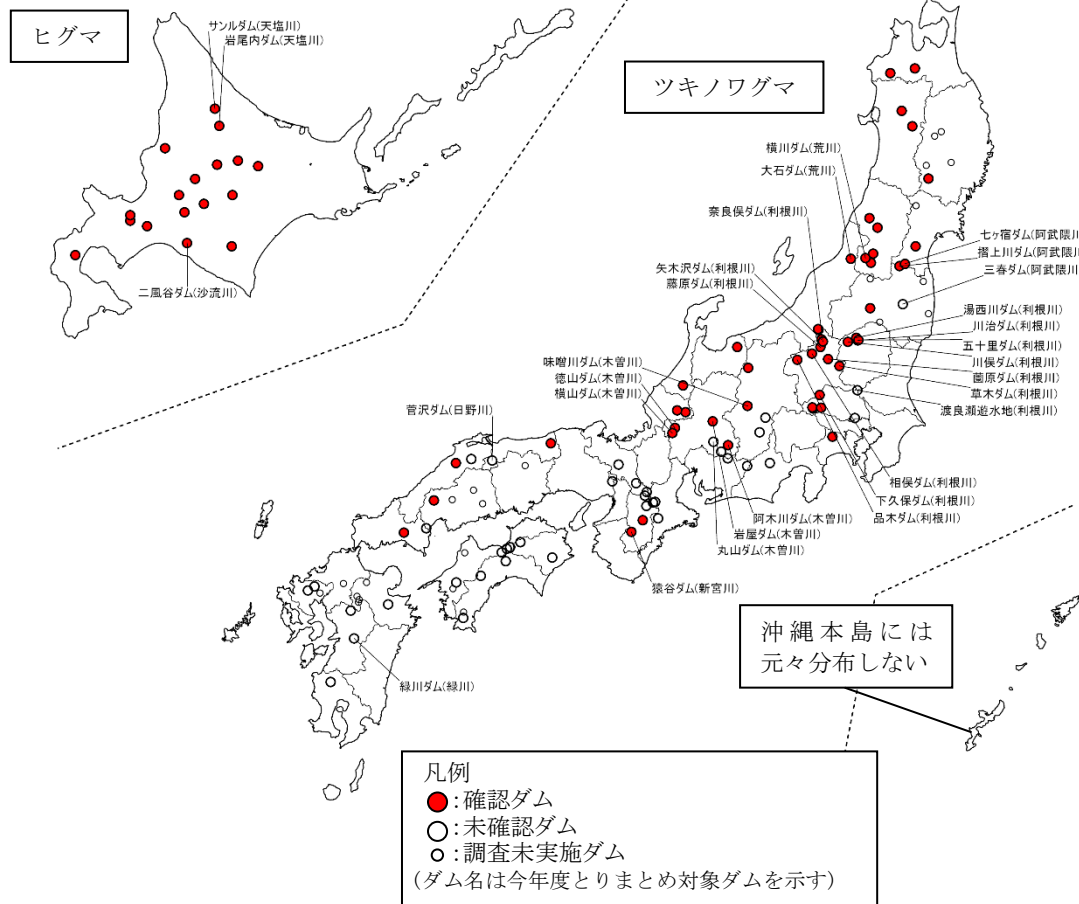


ニホンザルの確認状況（5 巡目調査）

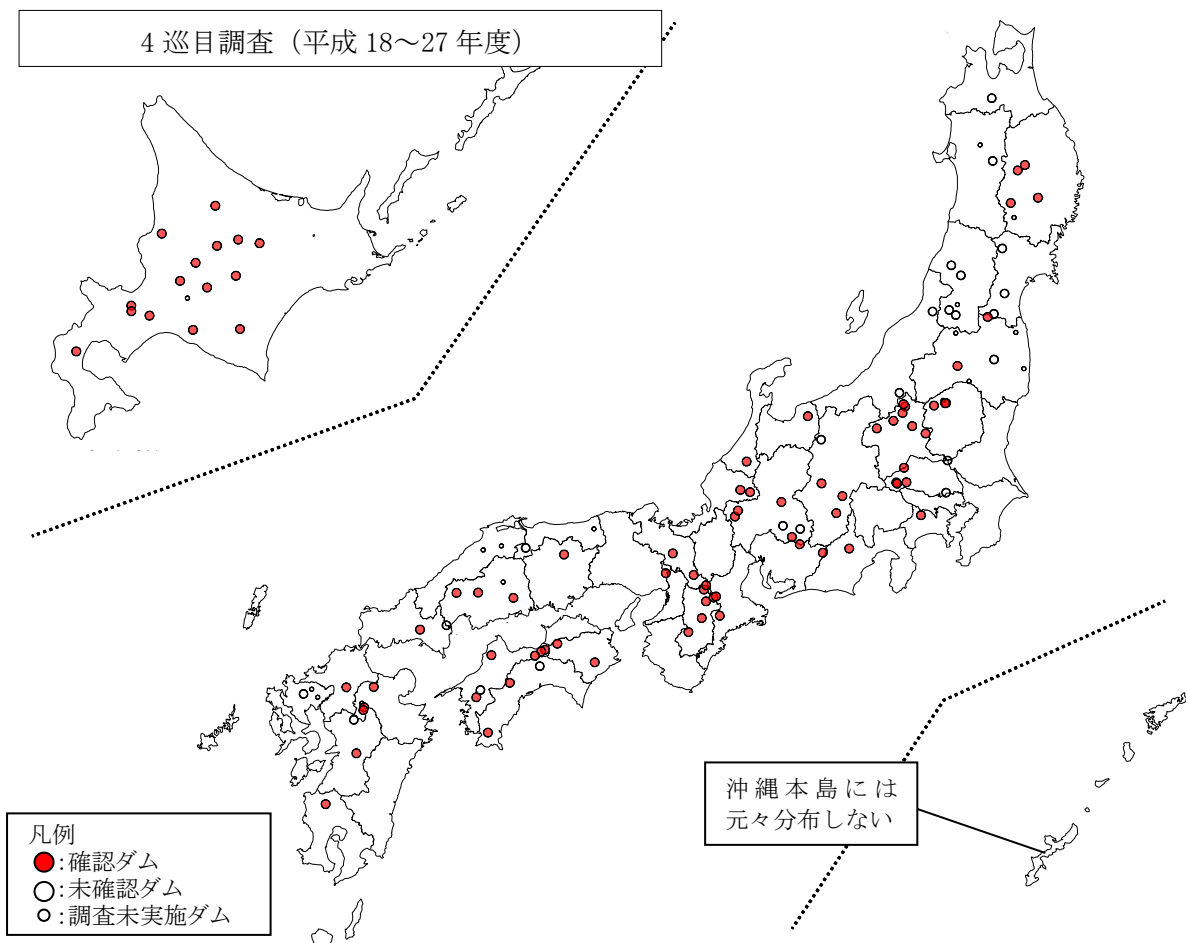
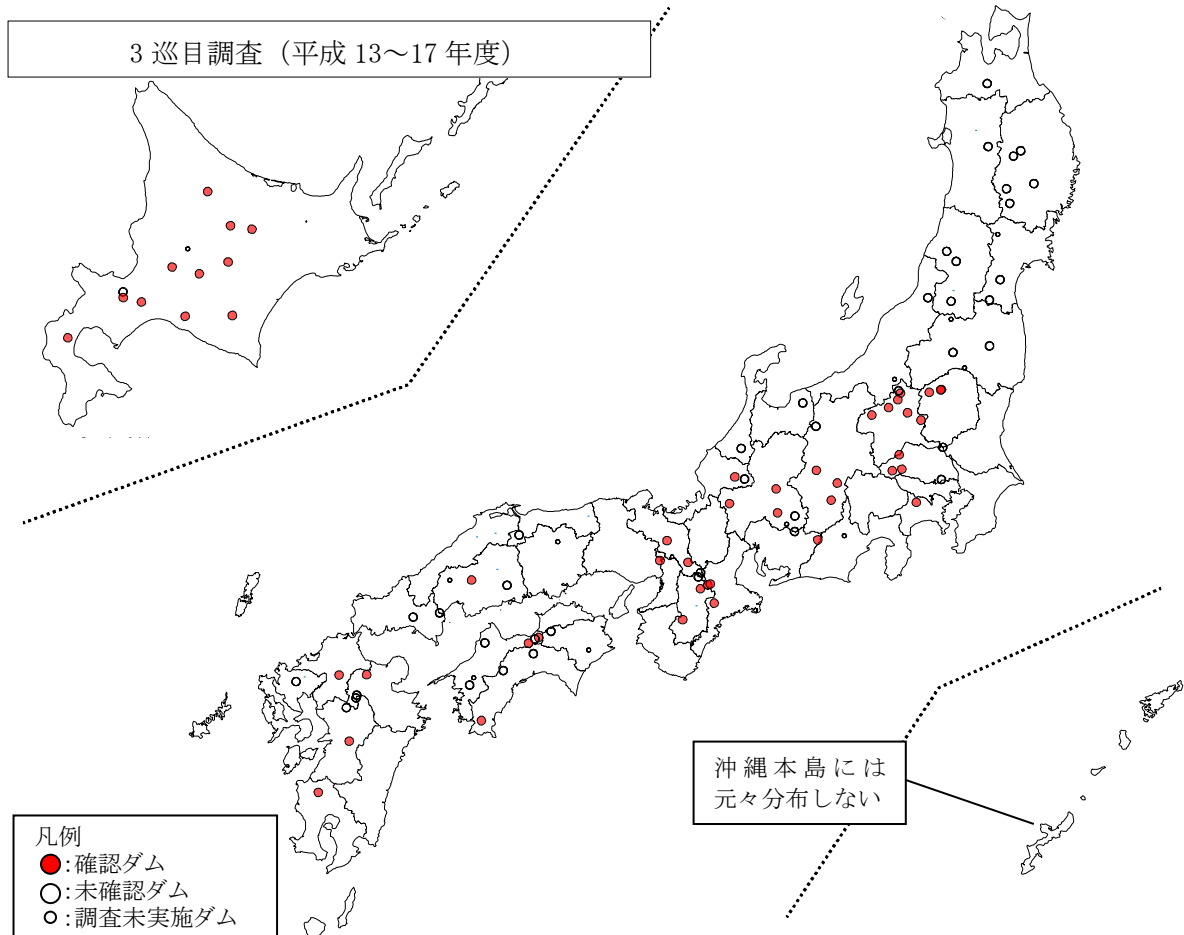


ヒグマ・ツキノワグマの確認状況（3 巡目調査、4 巡目調査）

5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）

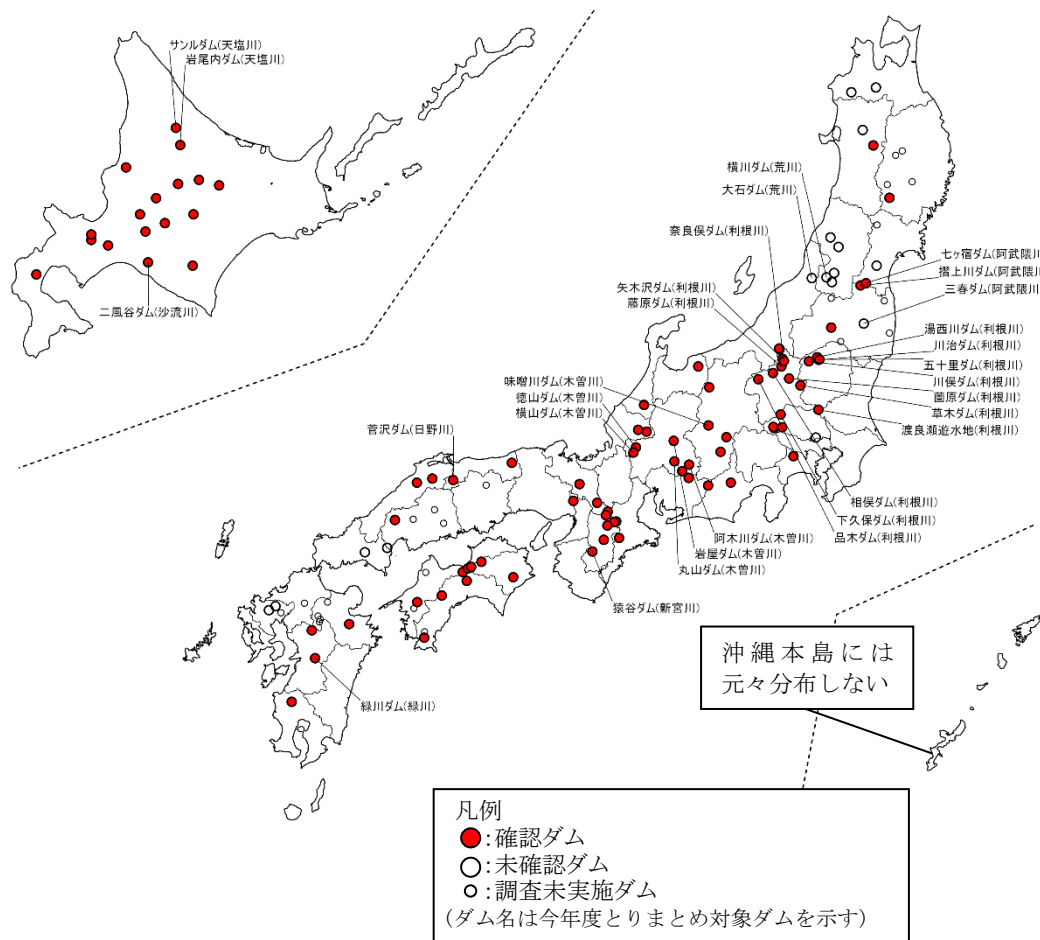


ヒグマ・ツキノワグマの確認状況（5 巡目調査）

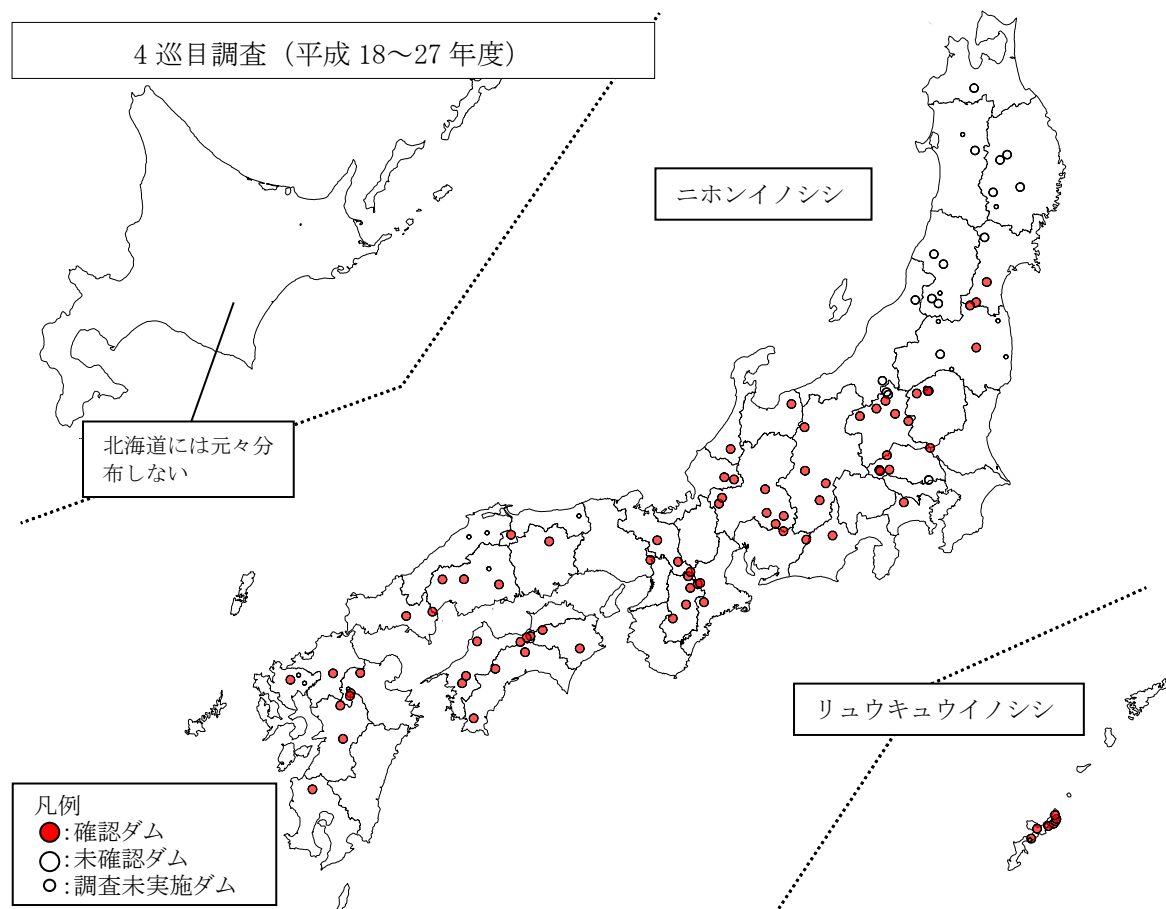
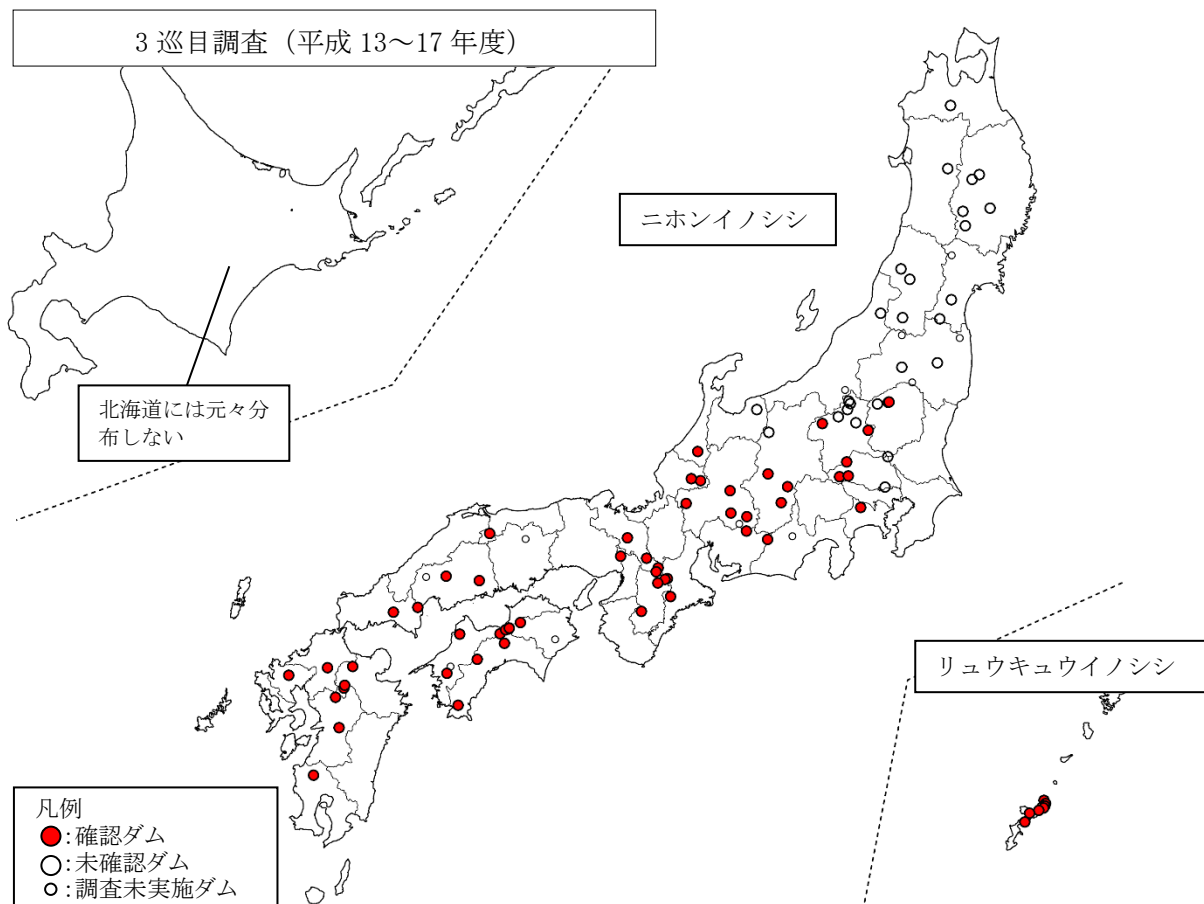


ニホンジカの確認状況（3 巡目調査、4 巡目調査）

5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）

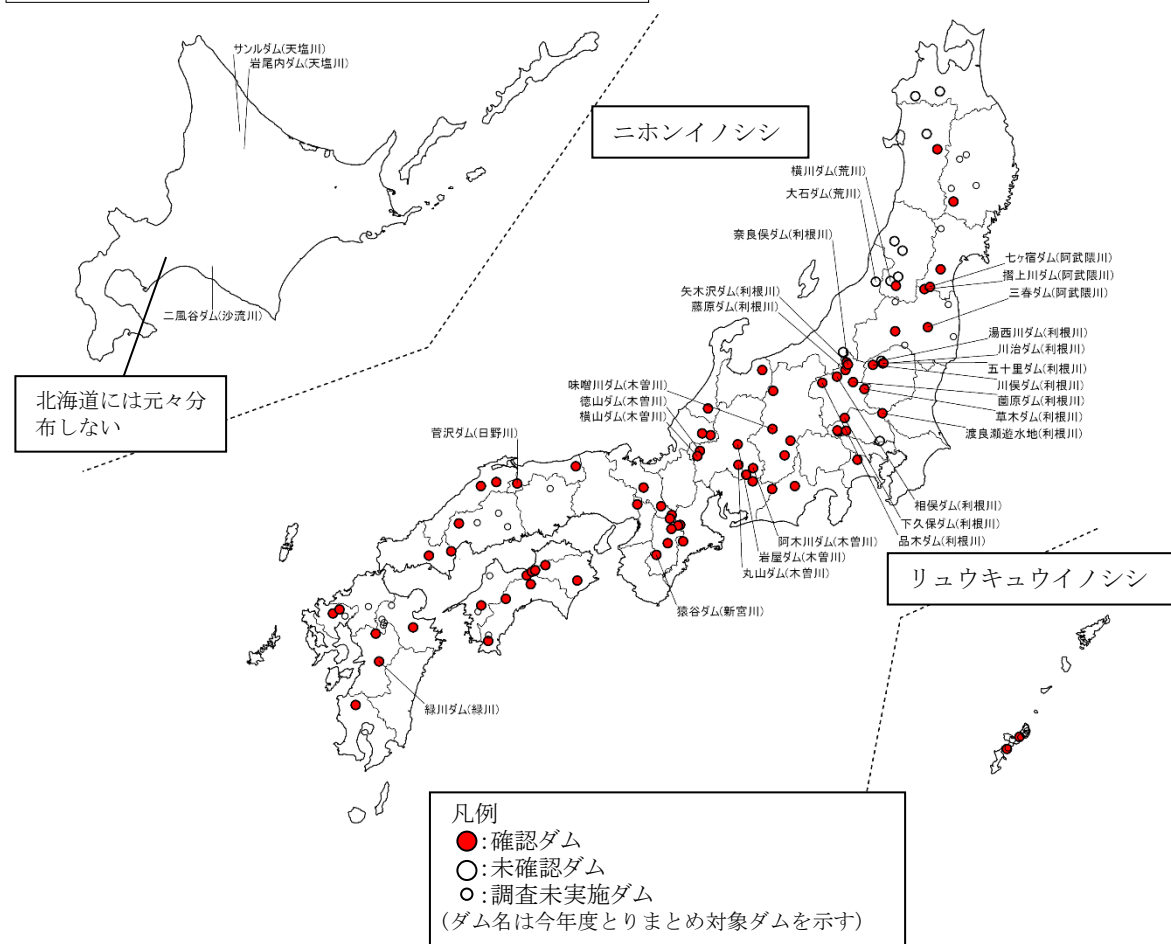


ニホンジカの確認状況（5 巡目調査）



イノシシ（ニホンイノシシ、リュウキュウイノシシ）の確認状況（3 巡目調査、4 巡目調査）

5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



イノシシ（ニホンイノシシ、リュウキュウイノシシ）の確認状況（5 巡目調査）

(2) カメ目（ミシシippアカミミガメ、クサガメ、ニホンイシガメ、ニホンスッポン）の分布状況

・北海道の3ダム、東北の2ダム、関東の11ダム、北陸の2ダム、中部の3ダム、中国の1ダムの22ダムではカメ目が確認されませんでした。

近年確認数が減少傾向にあるカメ目について、確認状況を整理しました。今回とりまとめを行った30ダムのうち、ミシシippアカミミガメは東北の三春ダム、関東の菌原ダム、渡良瀬遊水地、中部の阿木川ダム、九州の緑川ダムの5ダムで、クサガメは東北の三春ダム、近畿の猿谷ダムの2ダムで、ニホンイシガメは中部の阿木川ダム、徳山ダム、近畿の猿谷ダムの3ダムで、ニホンスッポンは九州の緑川ダムの1ダムで確認されました。また、イシガメとクサガメの交雑種が中部の丸山ダム、近畿の猿谷ダムの2ダムで確認されました。

カメ目の確認ダム数の巡目比較

種名	1 巡目調査 (80 ダム)	2 巡目調査 (82 ダム)	3 巡目調査 (96 ダム)	4 巡目調査 (111 ダム)	5 巡目調査 (104 ダム)	今回 確認
ミシシippアカミミガメ	5 ダム [6.3%]	12 ダム [14.6%]	17 ダム [17.7%]	24 ダム [21.6%]	21 ダム [20.4%]	○
クサガメ	8 ダム [10.0%]	10 ダム [12.2%]	9 ダム [9.4%]	18 ダム [16.2%]	15 ダム [14.4%]	○
ニホンイシガメ	15 ダム [23.1%]	13 ダム [19.7%]	11 ダム [14.3%]	23 ダム [20.7%]	23 ダム [22.1%]	○
ニホンスッポン	3 ダム [4.0%]	3 ダム [3.9%]	9 ダム [7.9%]	11 ダム [9.9%]	13 ダム [12.5%]	○

注1) ()内は各巡目において調査を実施しているダムの数を示す。巡目の途中から調査を行っていたり、途中の年度を調査していないダムがあるため、巡目毎の調査ダム数は同じではない。

注2) []内は確認ダム数の対象ダム数に対する%を示す。なお、ニホンイシガメの対象ダムについては、北海道、沖縄を含まない。また、ニホンスッポンの対象ダムについては沖縄を含まない。

注3) 生態系被害防止外来種リストには、亜種ミシシippアカミミガメを含む種アカミミガメが掲載されている。

今回とりまとめを行った30ダムでは、カメ目のうち、ミシシippアカミミガメ、クサガメ、ニホンイシガメ、ニホンスッポンの4種が確認されました。

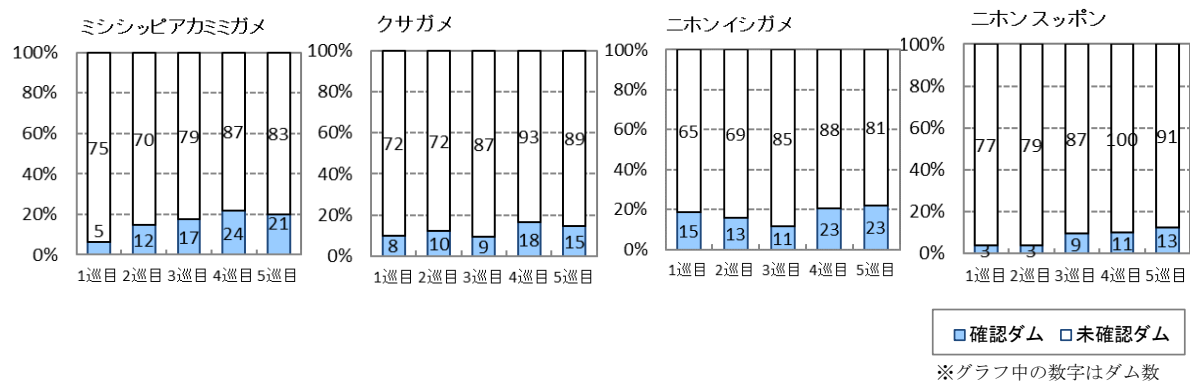
ミシシippアカミミガメは、今回とりまとめを行った30ダム中、東北の三春ダム、関東の菌原ダム、渡良瀬遊水地、中部の阿木川ダム、九州の緑川ダムの5ダムで確認されました。東北の三春ダム、関東の菌原ダムでは初めての確認となっています。

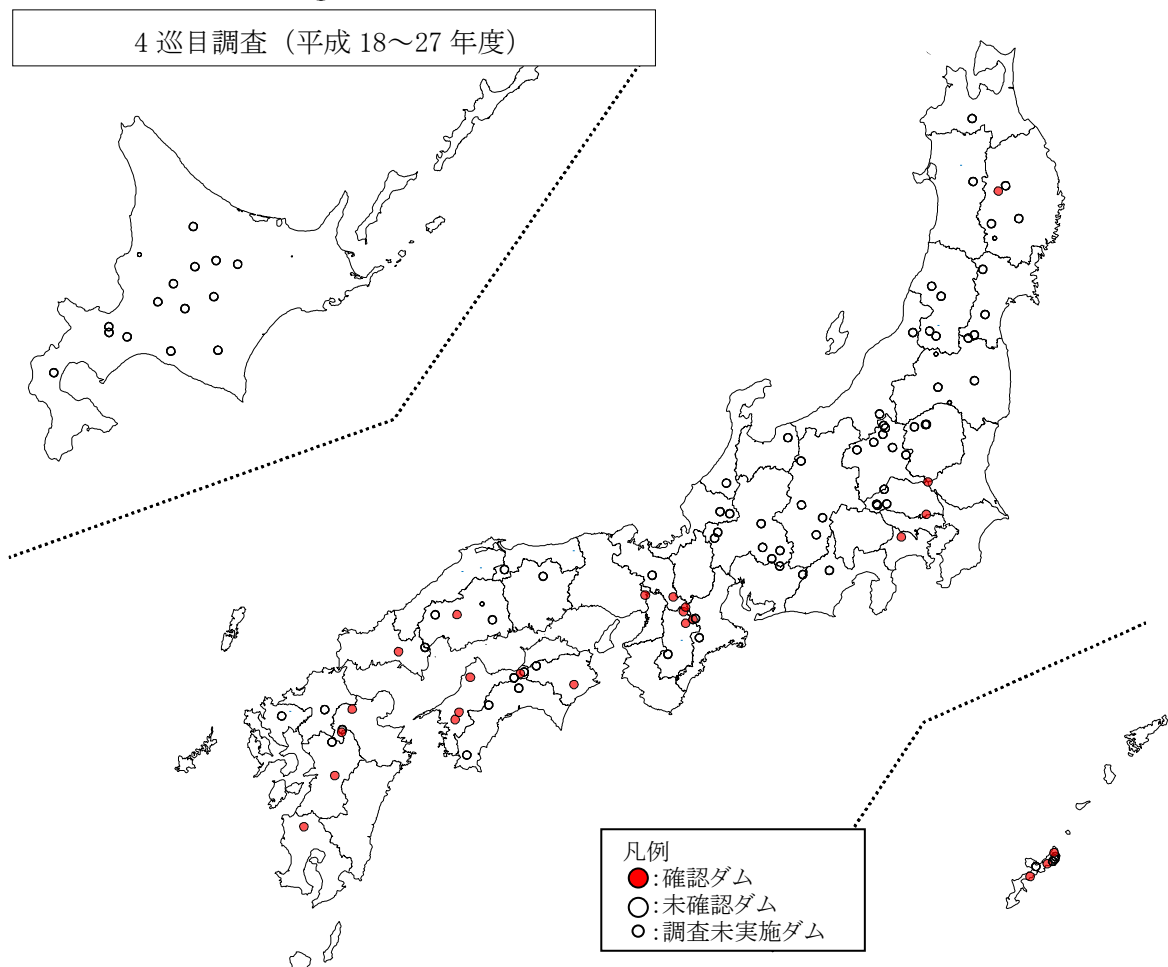
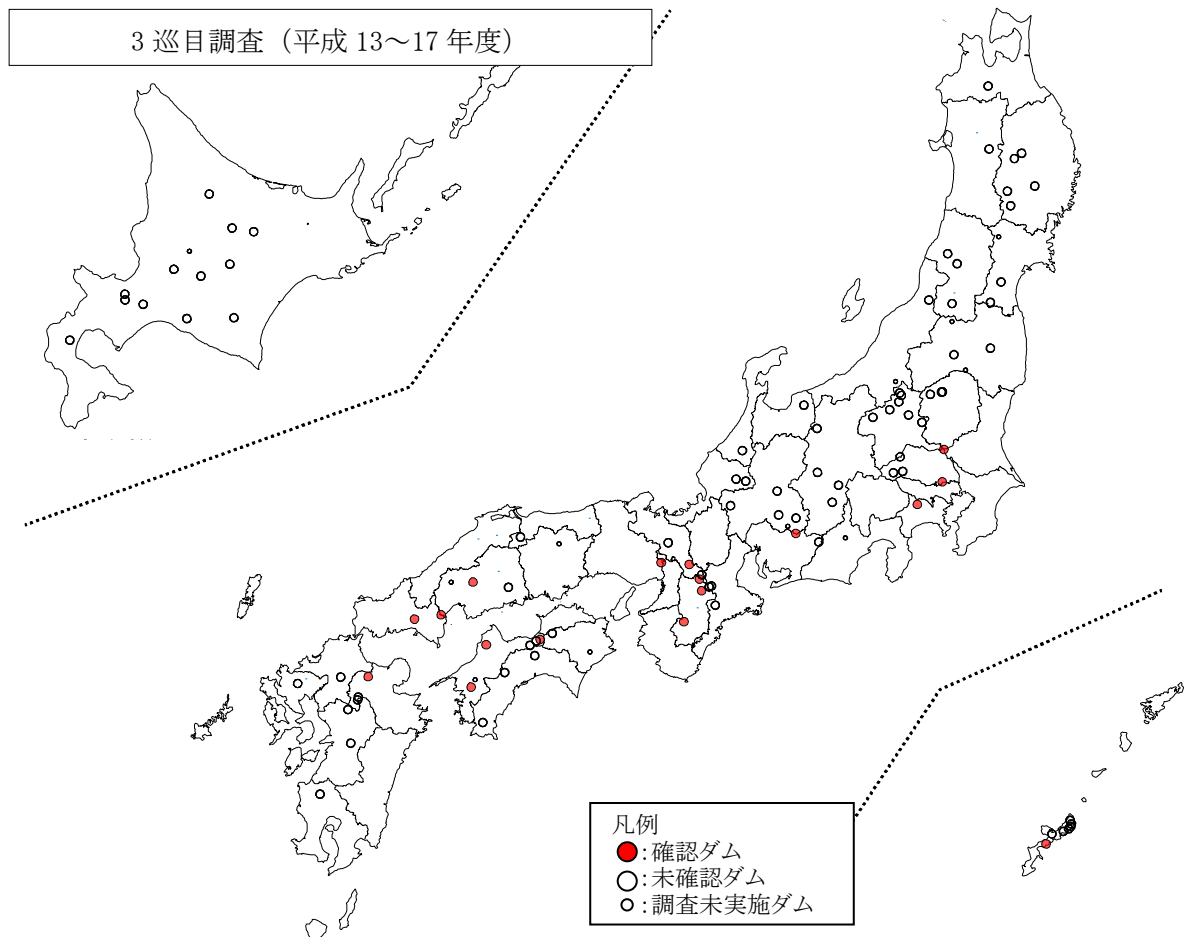
クサガメは、今回とりまとめを行った30ダム中、東北の三春ダム、近畿の猿谷ダムの2ダムで確認されました。東北の三春ダムでは初めての確認となっています。

ニホンイシガメは、今回とりまとめを行った30ダムのうち中部の阿木川ダム、徳山ダム、近畿の猿谷ダムの3ダムで確認されました。中部の徳山ダム、近畿の猿谷ダムでは4巡目以降継続して確認されています。

ニホンスッポンは、今回とりまとめを行った30ダム中、九州の緑川ダムの1ダムで確認されました。緑川ダムでは3巡目以降継続して確認されています。

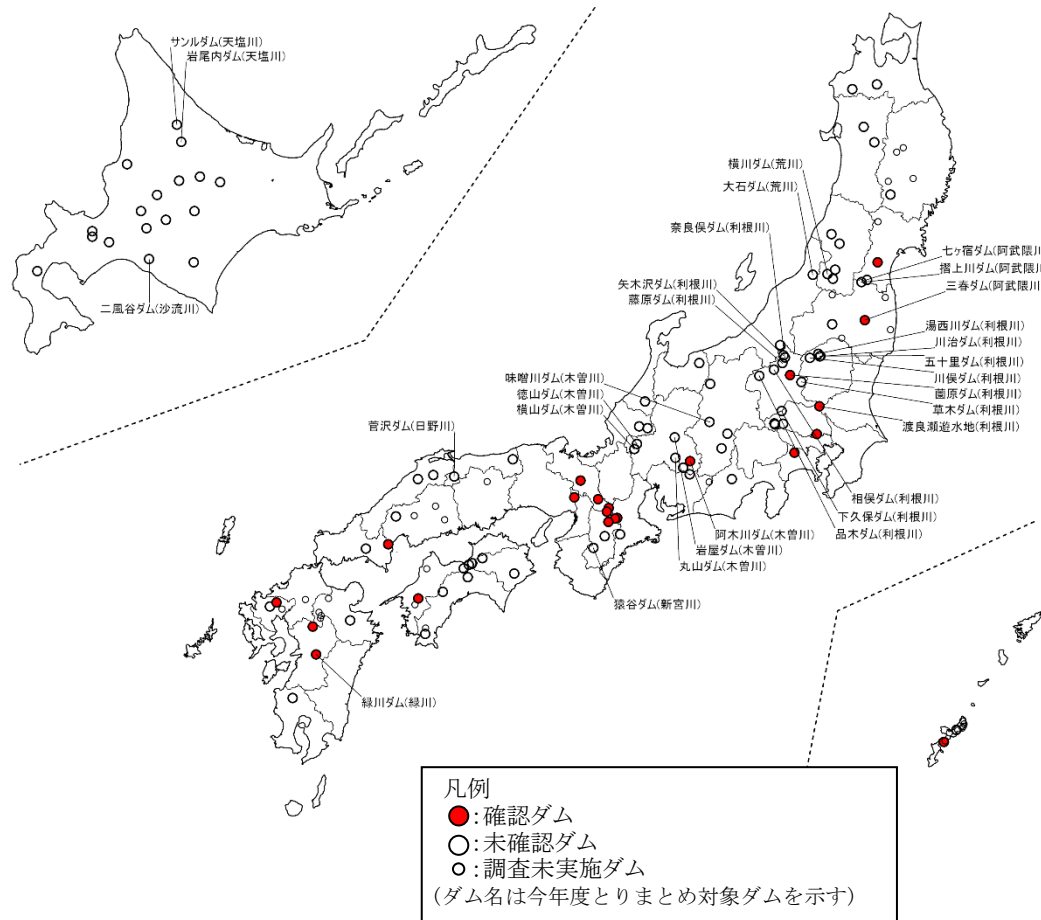
外来種であるミシシippアカミミガメ等の増加により、日本在来のニホンイシガメの減少が懸念されています。





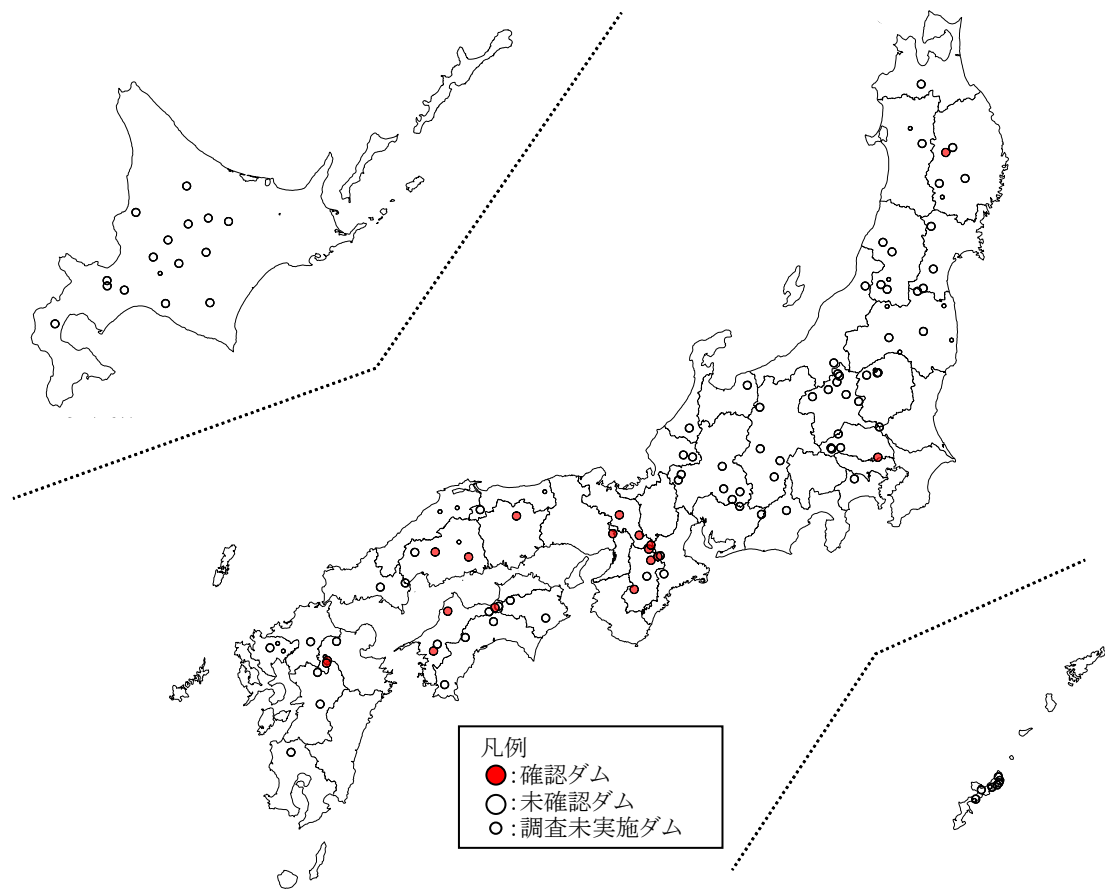
ミシシippiaカミミガメの確認状況（3 巡目調査、4 巡目調査）

5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）

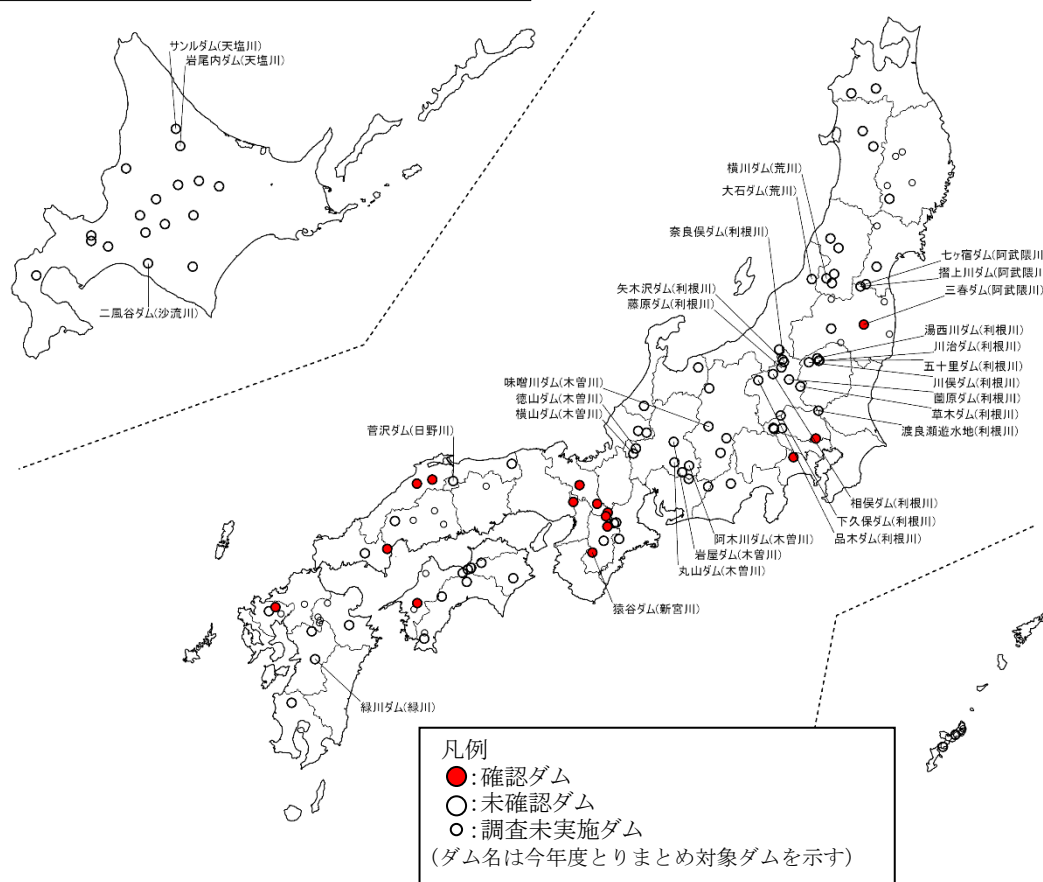


ミシシippiaカミミガメの確認状況（5 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）

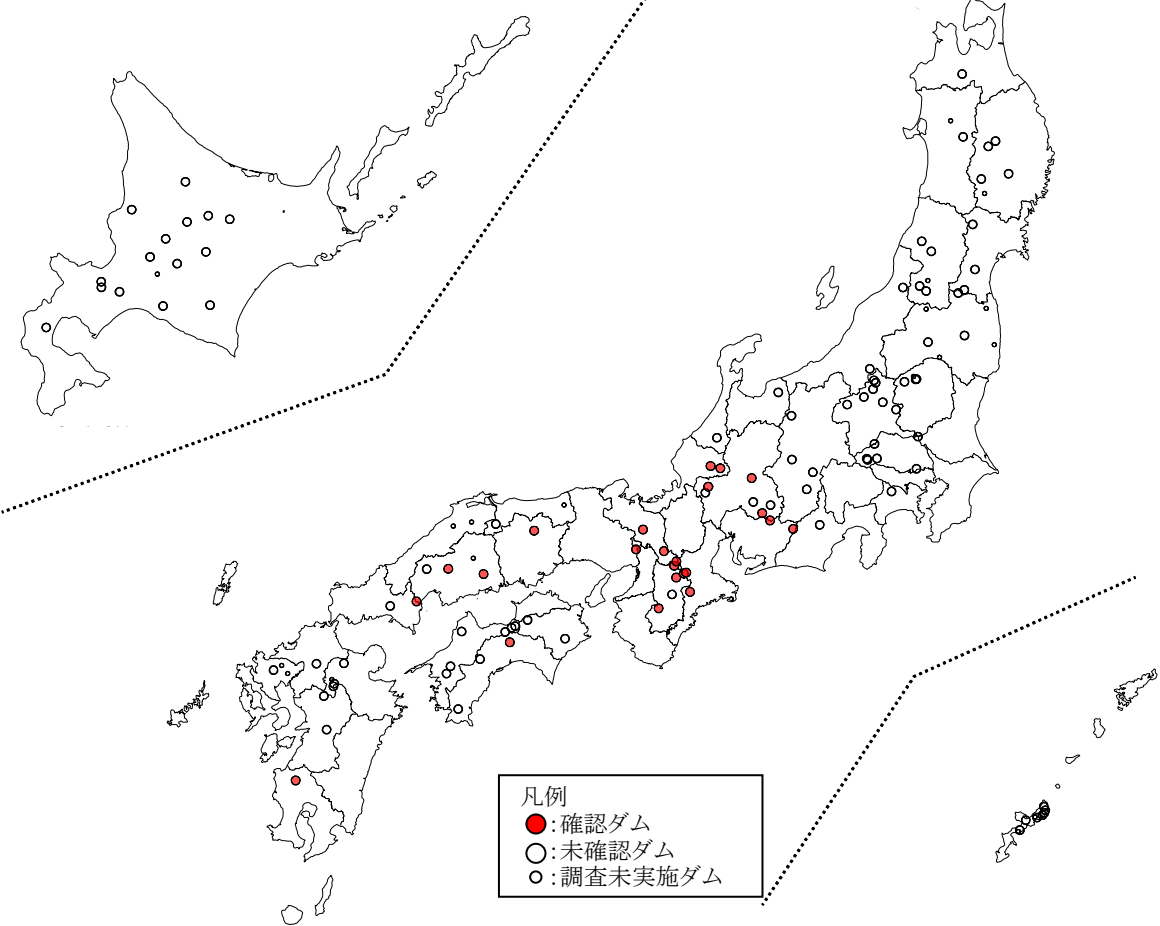


5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）

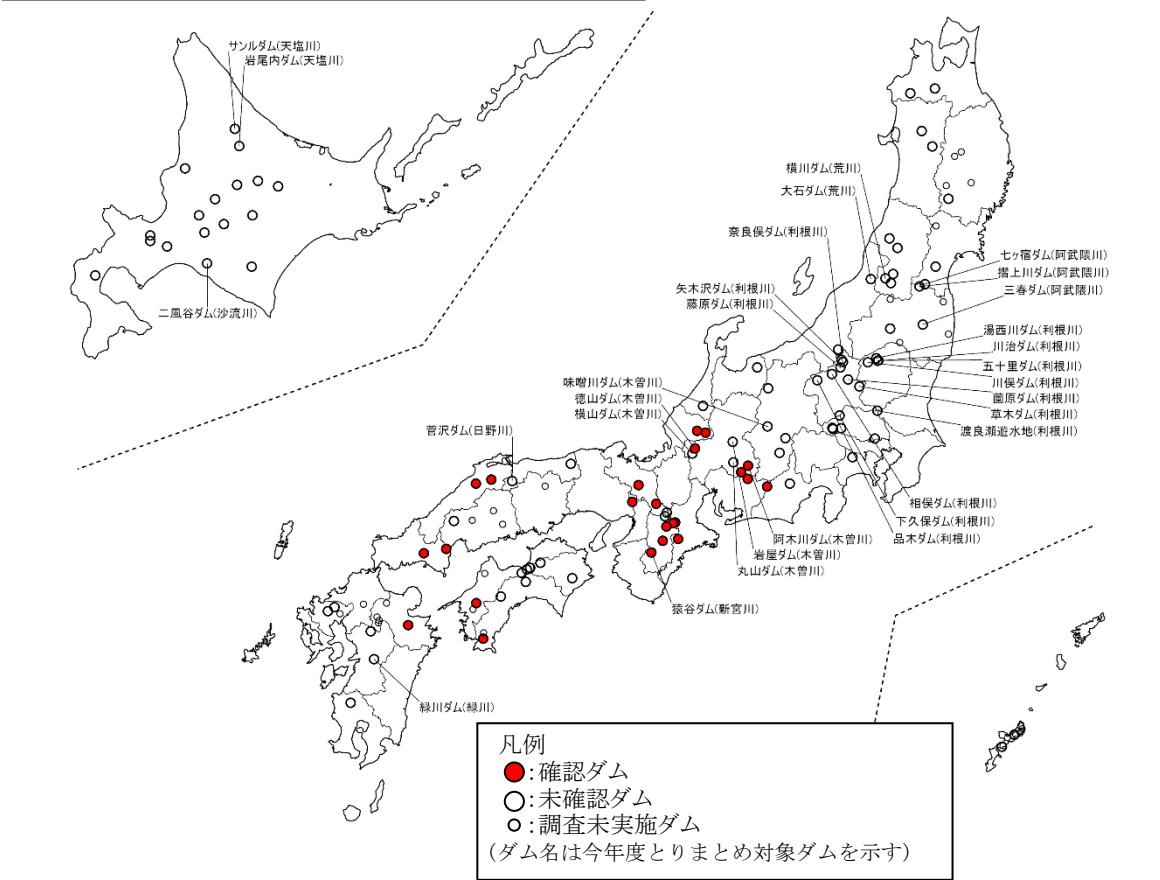


クサガメの確認状況（4 巡目調査、5 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）

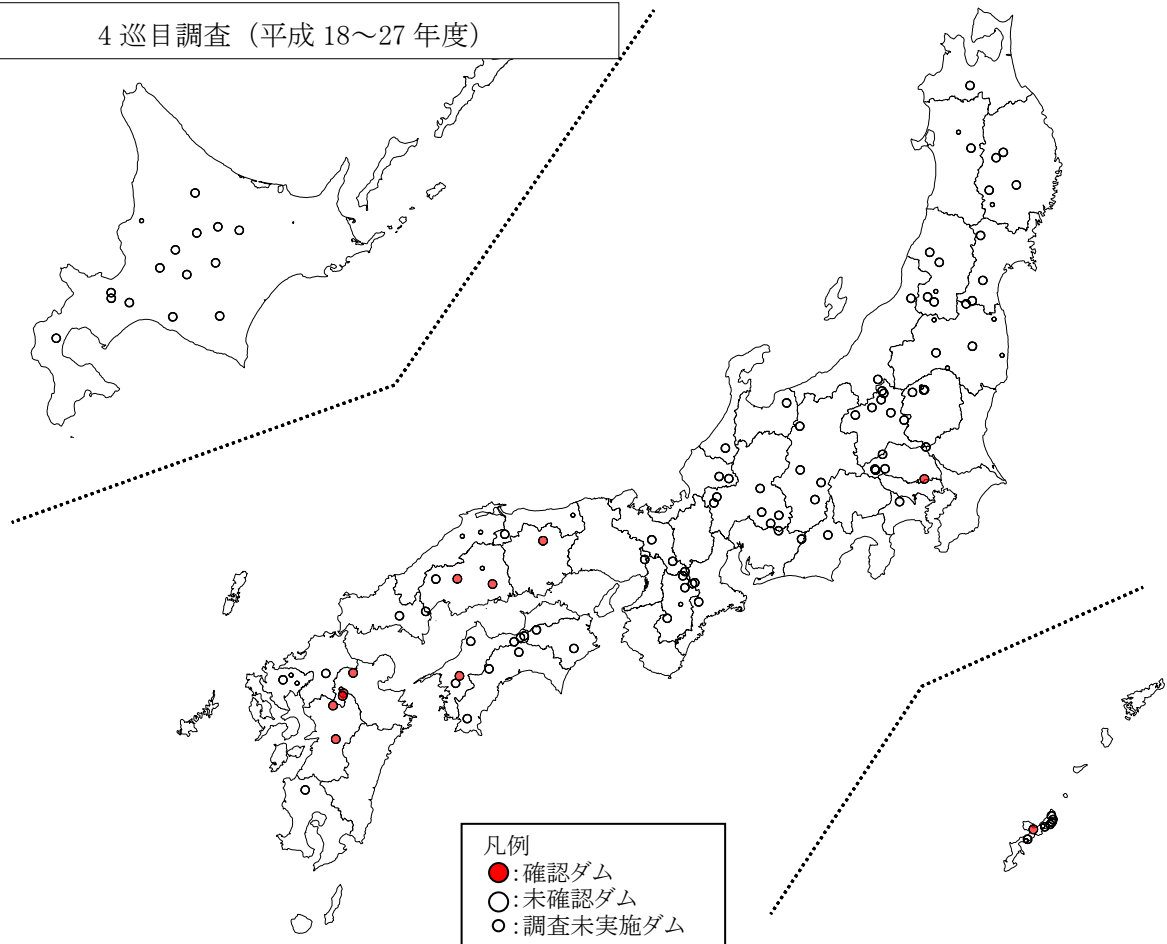


5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）

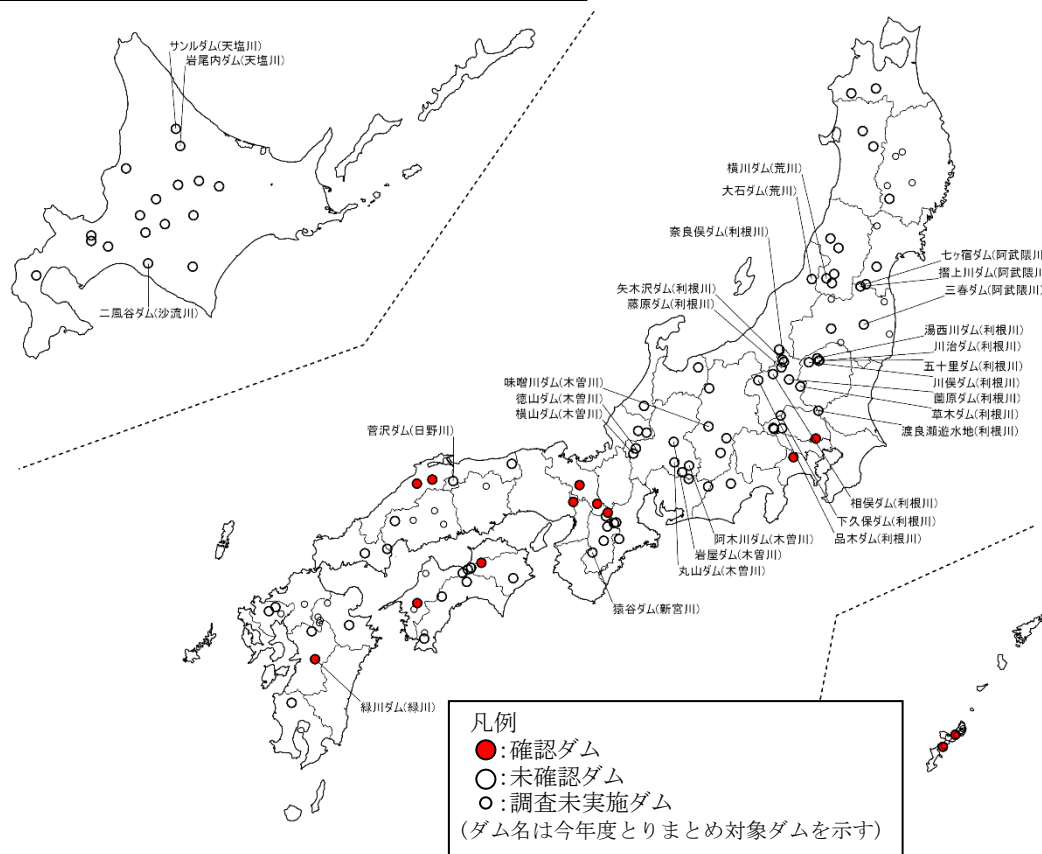


ニホンイシガメの確認状況（4 巡目調査、5 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



ニホンスッポンの確認状況（4 巡目調査、5 巡目調査）

6.4 ダム管理との関わり（ダム湖周辺の生物相）

（1）ダム湖周辺の自然度・健全度

ここでは、ダム湖周辺の生態系について、溪流環境の指標となる両生類及び哺乳類の確認状況を整理しました。ダム湖周辺は良好な自然が残されている場所が多く、ダム管理を行っていく上でも多様な自然に配慮していく必要があります。

なお、1 巡目から 5 巡目調査では、調査の範囲や時期、回数等の条件が必ずしも同一ではありません。また、移動性の高い種や、限られた季節にしかみられない種もあることから、1 巡目から 5 巡目調査の比較は同一ダムでの消長を示すものではなく、全国的な傾向を把握するための参考です。

1) 溪流環境の指標となる両生類・哺乳類の確認状況

・溪流環境の指標となる両生類 7 種 1 属及び哺乳類 1 種のうち、30 ダムで計 4 種 1 属を確認

ダム湖周辺の溪流環境の指標となる両生類 7 種 1 属及び哺乳類のカワネズミの確認状況を整理しました。

両生類では、コガタブチサンショウウオ（マホロバサンショウウオ）、ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオ属（ハコネサンショウウオ及びバンダイハコネサンショウウオ）、カジカガエルの 3 種 1 属が確認されました。

カワネズミは、今回とりまとめた 30 ダムのうち、東北の摺上川ダム、七ヶ宿ダム、関東の矢木沢ダム、藤原ダム、奈良俣ダム、川俣ダム、川治ダム、五十里ダム、湯西川ダム、下久保ダム、中部の徳山ダム、横山ダム、近畿の猿谷ダム、九州の緑川ダムの 14 ダムで確認されました。

ダム周辺に生息する溪流性の両生類及び哺乳類は、多くのダムにおいて生息可能な環境が維持されていると考えられます。

溪流環境の指標となる両生類の確認ダム数の巡目比較

種名	1 巡目調査 (80 ダム)	2 巡目調査 (82 ダム)	3 巡目調査 (96 ダム)	4 巡目調査 (111 ダム)	5 巡目調査 (104 ダム)	今回 確認
ブチサンショウウオ・ コガタブチサンショウウオ ^{注4)}	2/65 ダム [3.1%]	9/66 ダム [13.6%]	8/77 ダム [10.4%]	15/89 ダム [16.8%]	13/85 ダム [15.3%]	○
ヒダサンショウウオ ^{注4)}	9/65 ダム [13.8%]	9/66 ダム [13.6%]	10/77 ダム [13.0%]	14/89 ダム [15.7%]	14/85 ダム [16.5%]	○
ハコネサンショウウオ属 ^{注4)}	16/65 ダム [24.6%]	17/66 ダム [25.8%]	24/77 ダム [31.2%]	25/89 ダム [28.1%]	26/85 ダム [30.6%]	○
ハナサキガエル	5/5 ダム [100%]	5/6 ダム [83.3%]	5/7 ダム [71.4%]	5/7 ダム [71.4%]	0/2 ダム [0.0%]	
ナミエガエル	5/5 ダム [100%]	4/6 ダム [66.7%]	5/7 ダム [71.4%]	5/7 ダム [71.4%]	0/2 ダム [0.0%]	
オキナワイシカワガエル	4/5 ダム [80.0%]	5/6 ダム [83.3%]	4/7 ダム [57.1%]	5/7 ダム [71.4%]	0/2 ダム [0.0%]	
カジカガエル	55/65 ダム [84.6%]	57/66 ダム [86.4%]	64/77 ダム [83.1%]	80/89 ダム [89.8%]	79/85 ダム [92.9%]	○

注1) 巡目調査の下() は、各巡目で調査をしていたダムの数を示す。各巡目に該当する年次に完成していないダムや調査未実施の巡目があるダムは、各巡目の計数に含まれていないため、巡目毎の調査実施ダム数は同じではない。

注2) [] 内は確認ダム数の対象ダム数に対する%を示す。対象ダム数は、各種の分布域を考慮したダム数であるため種毎に異なる。

注3) ブチサンショウウオ、コガタブチサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオ属、カジカガエルの対象ダムは、北海道、沖縄を含まない。

注4) コガタブチサンショウウオは4巡目調査の途中よりブチサンショウウオから独立した種であり、以前は同じ種とみなされていたため、ブチサンショウウオとあわせて示している。なお、ブチサンショウウオは平成31年にチュウゴクブチサンショウウオ(中国地方の集団)とチクシブチサンショウウオ(九州北東部の集団)が新種として独立し3種となった。コガタブチサンショウウオは令和元年にマホロバサンショウウオ(中部・近畿地方の集団)、ツルギサンショウウオ(徳島県剣山周辺の集団)、イヨシマサンショウウオ(その他四国地方の集団)が新種として独立し4種となった。また、ヒダサンショウウオについては、平成30年にヒガシヒダサンショウウオ(関東地方西部・中部地方(東海地方を除く)の集団)が新種として独立し2種となった。これらは、過年度結果では区別できないため、あわせて示している。ハコネサンショウウオ属についても、以前ハコネサンショウウオとされていた種より複数の種に分かれており、過年度結果では区別できないため、あわせて示している。

注5) ハナサキガエル、ナミエガエル、オキナワイシカワガエルの対象ダムは、沖縄のみである。

溪流環境の指標となる哺乳類の確認ダム数の巡目比較

種名	1 巡目調査 (80 ダム)	2 巡目調査 (82 ダム)	3 巡目調査 (96 ダム)	4 巡目調査 (111 ダム)	5 巡目調査 (104 ダム)	今回 確認
カワネズミ	9/58 ダム [15.5%]	4/59 ダム [6.8%]	14/68 ダム [20.6%]	20/78 ダム [26.0%]	29/76 ダム [38.2%]	○

注1) 巡目調査の下() は、各巡目で調査をしていたダムの数を示す。各巡目に該当する年次に完成していないダムや調査未実施の巡目があるダムは、各巡目の計数に含まれていないため、巡目毎の調査実施ダム数は同じではない。

注2) [] 内は確認ダム数の対象ダム数に対する%を示す。

注3) カワネズミの対象ダムは、北海道、四国、沖縄を含まない。

今回とりまとめを行った30ダムのうち、北海道の岩尾内ダム、サンルダム、二風谷ダム、東北の三春ダム、関東の奈良俣ダム、相俣ダム、菌原ダム、草木ダム、渡良瀬遊水地、九州の緑川ダムを除く20ダムで溪流環境の指標となる両生類を確認しました。今回確認されたのは、溪流環境を指標とする種として選定した種のうち、両生類ではコガタブチサンショウウオ(マホロバサンショウウオ)、ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオ属(ハコネサンショウウオ、バンダイハコネサンショウウオ)、カジカガエルの3種1属です。

コガタブチサンショウウオは、中部(マホロバサンショウウオ)の丸山ダム、岩屋ダム、徳山ダム、横山ダム、近畿(マホロバサンショウウオ)の猿谷ダムの5ダムで確認されました。コガタブチサンショウウオは本州南部、四国、九州地方の山地に分布し、長い間ブチサンショウウオと同種とされていましたが、遺伝的交流がないことから平成20年に別種とされ、さらに平成31年に再分類され、近畿地方個体群がマホロバサンショウウオ、四国個体群がイヨシマサンショウウオ及びツルギサンショウウオとして新種記載されました。生態はいずれも似て

おり、溪流付近の森林に生息し、産卵は溪流の細い流れや伏流水中などで行われます。

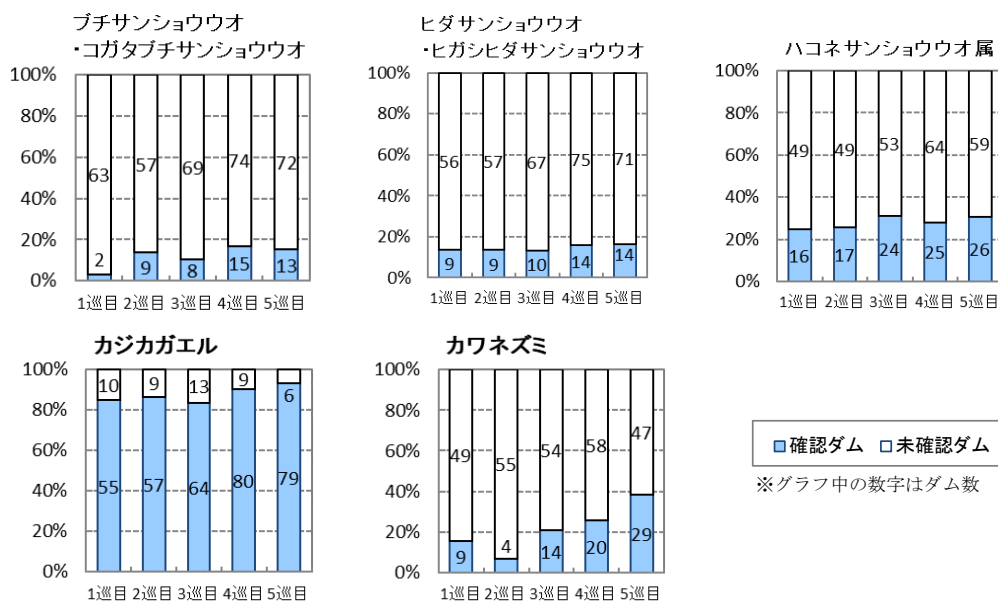
ヒダサンショウウオは中部（ヒダサンショウウオ）の味噌川ダム、丸山ダム、阿木川ダム、岩屋ダム、徳山ダム、横山ダムの6ダムで確認されました。

ハコネサンショウウオ属は、東北（バンダイハコネサンショウウオ）の摺上川ダム、七ヶ宿ダム、関東（ハコネサンショウウオ）の矢木沢ダム、藤原ダム、品木ダム、川俣ダム、川治ダム、五十里ダム、湯西川ダム（今回初めて調査）、北陸（バンダイハコネサンショウウオ）の横川ダム、大石ダム、中部（ハコネサンショウウオ）の味噌川ダム、岩屋ダムの13ダムで確認されました。関東の湯西川ダムでは初めての確認となっています。

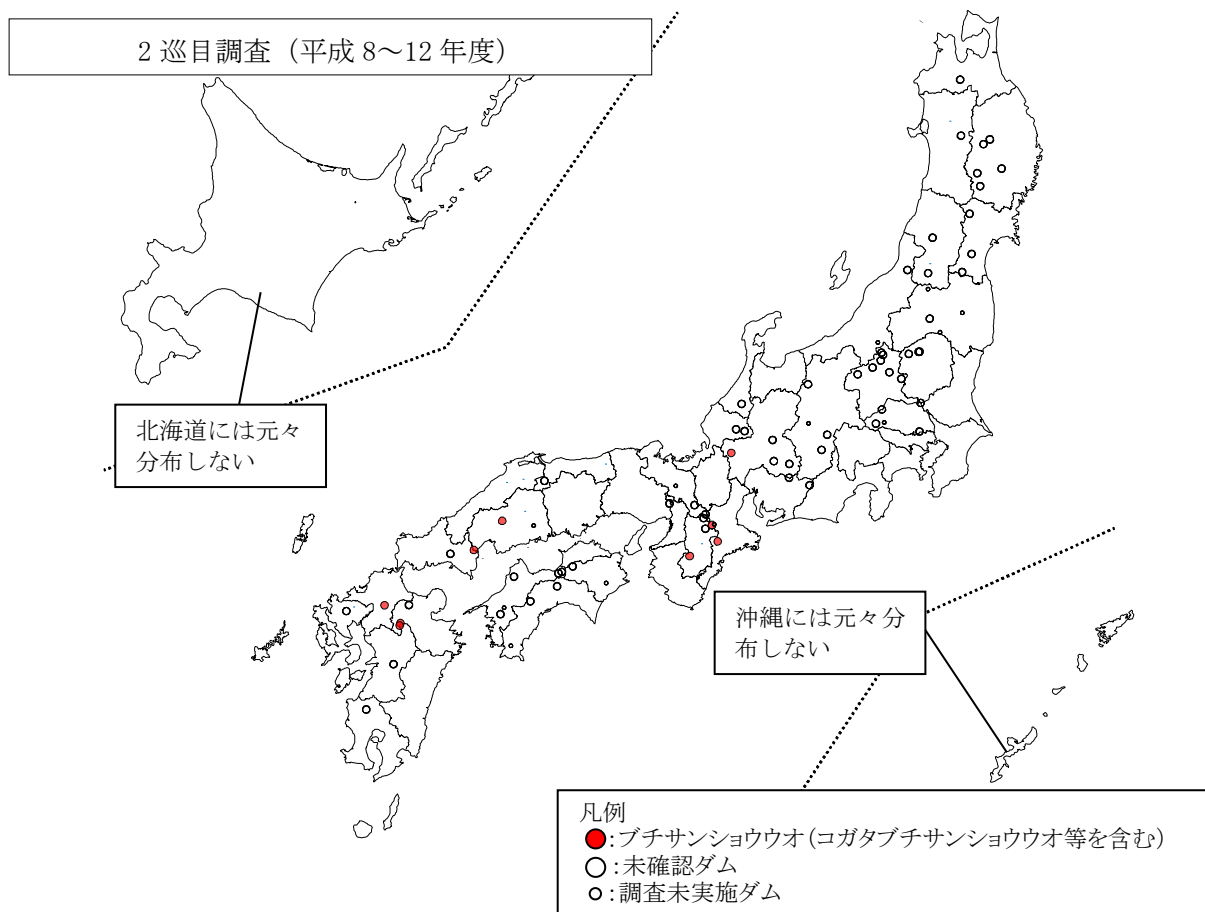
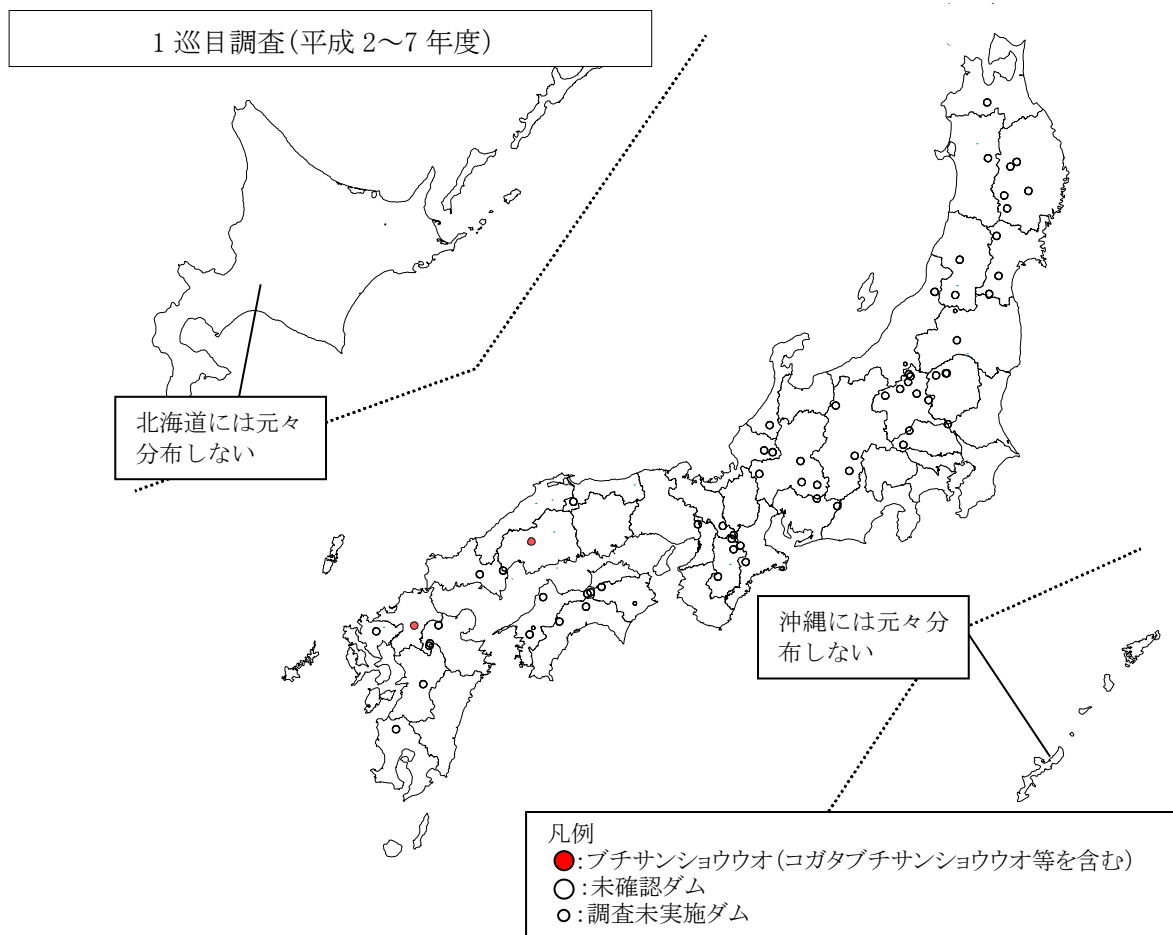
カジカガエルは、今回とりまとめを行った30ダムのうち、東北の摺上川ダム、七ヶ宿ダム、関東の矢木沢ダム、藤原ダム、奈良俣ダム、相俣ダム、菌原ダム、品木ダム、草木ダム、川俣ダム、川治ダム、五十里ダム、湯西川ダム（今回初めて調査）、下久保ダム、北陸の横川ダム、大石ダム、中部の味噌川ダム、丸山ダム、岩屋ダム、徳山ダム、横山ダム、近畿の猿谷ダム、中国の菅沢ダム、九州の緑川ダムの24ダムで確認されました。過年度の調査結果では、多くのダムで確認されており、溪流性の両生類としては最もよくみられる種だと考えられます。本種は本州・四国・九州に分布し、比較的川幅が広くて開けた溪流に棲み、流水部の石の下に卵を産みつけます。カジカガエルのダム湖周辺の経年的な状況を見ると、今回が初めての調査となる湯西川ダムを除く23ダムでは調査開始以降継続して確認されています。

溪流環境の指標となる哺乳類のカワネズミは、東北の摺上川ダム、七ヶ宿ダム、関東の矢木沢ダム、藤原ダム、奈良俣ダム、川俣ダム、川治ダム、五十里ダム、湯西川ダム（今回初めて調査）、下久保ダム、中部の徳山ダム、横山ダム、近畿の猿谷ダム、九州の緑川ダムの14ダムで確認されました。

以上の確認状況より、ダム周辺に生息する溪流性の両生類及び哺乳類は、多くのダムにおいて生息可能な環境が維持されていると考えられます。

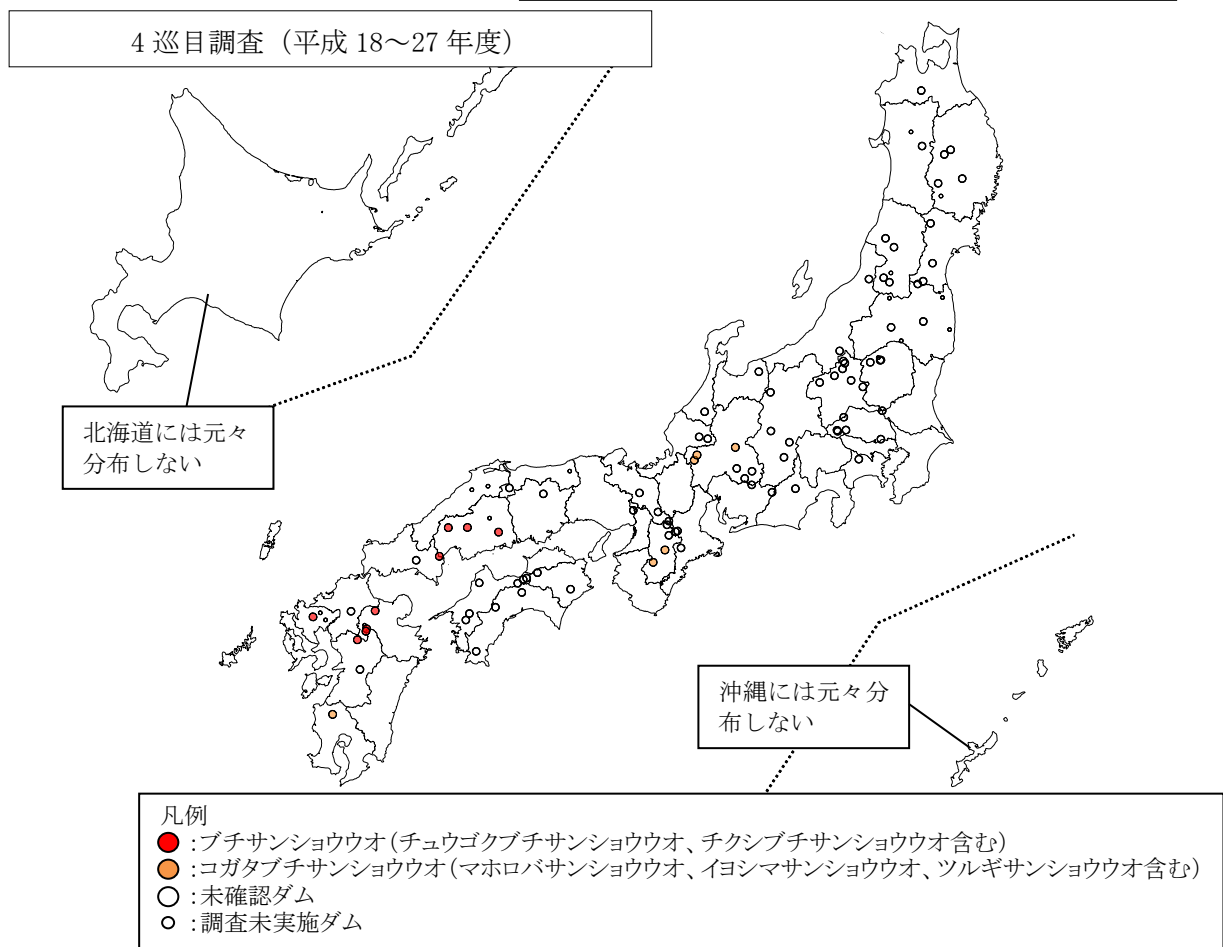
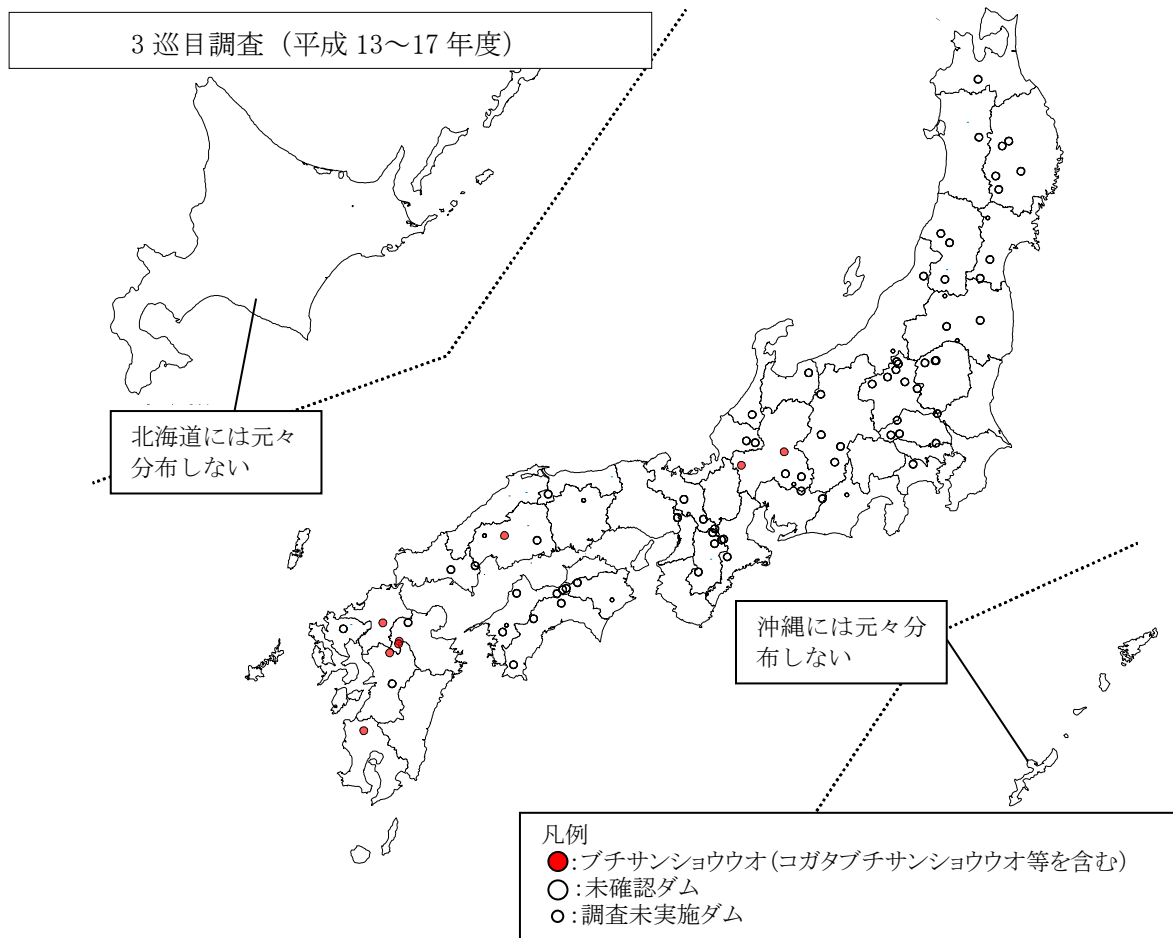






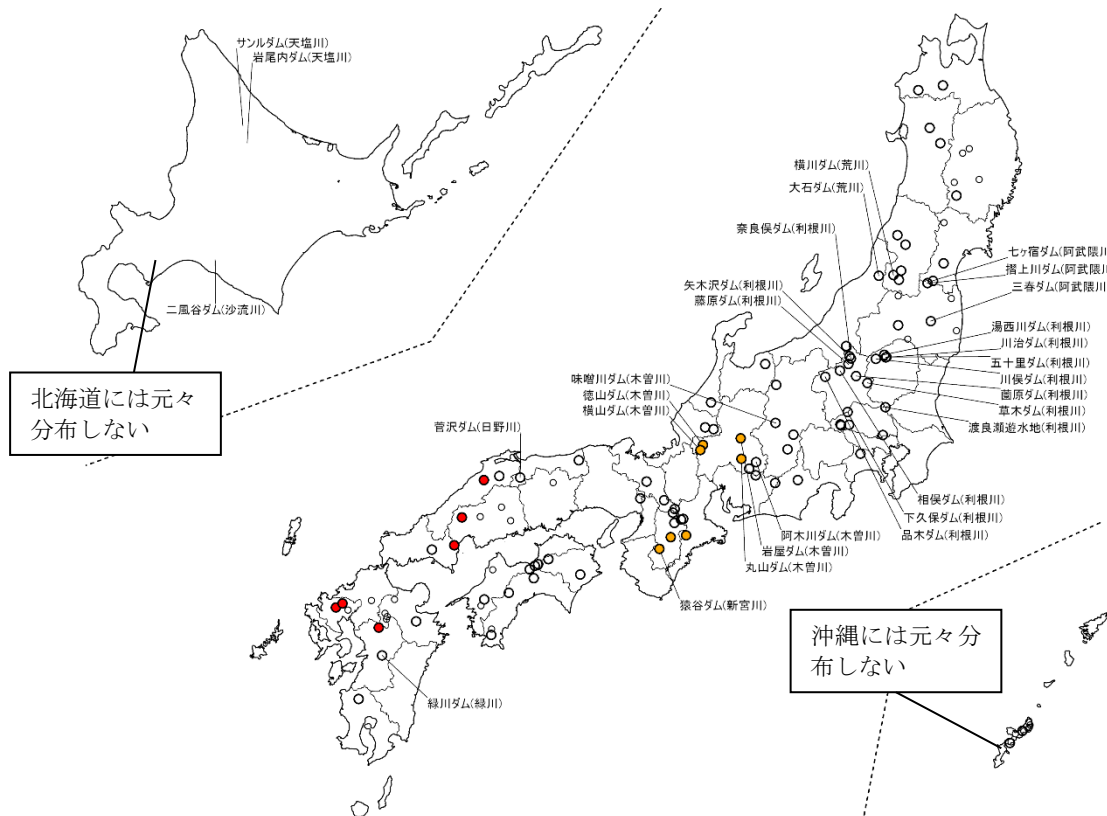
ブチサンショウウオ・コガタブチサンショウウオの確認状況(1 巡目調査、2 巡目調査)

※ブチサンショウウオ・コガタブチサンショウウオ等は近年複数種にわかれたため、過年度の確認状況もあわせて示した。



ブチサンショウウオ・コガタブチサンショウウオの確認状況（3 巡目調査、4 巡目調査）
 ※ブチサンショウウオ・コガタブチサンショウウオ等は近年複数種にわかれたため、過年度の確認状況もあわせて示した。

5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



凡例

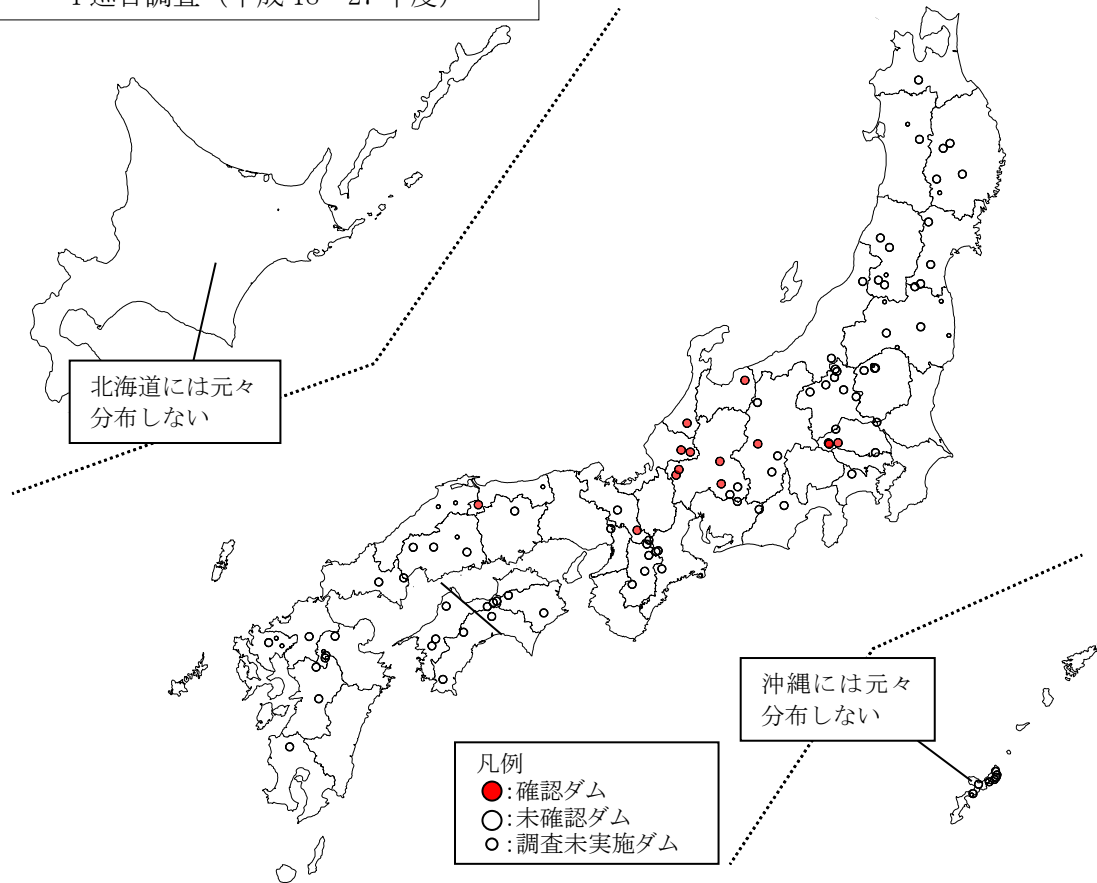
- : ブチサンショウウオ (チュウゴクブチサンショウウオ、チクシブチサンショウウオ含む)
 - : コガタブチサンショウウオ (マホロバサンショウウオ、イヨシマサンショウウオ、ツルギサンショウウオ含む)
 - : 未確認ダム
 - : 調査未実施ダム
- (ダム名は今年度とりまとめ対象ダムを示す)

ブチサンショウウオ・コガタブチサンショウウオの確認状況（5 巡目調査）

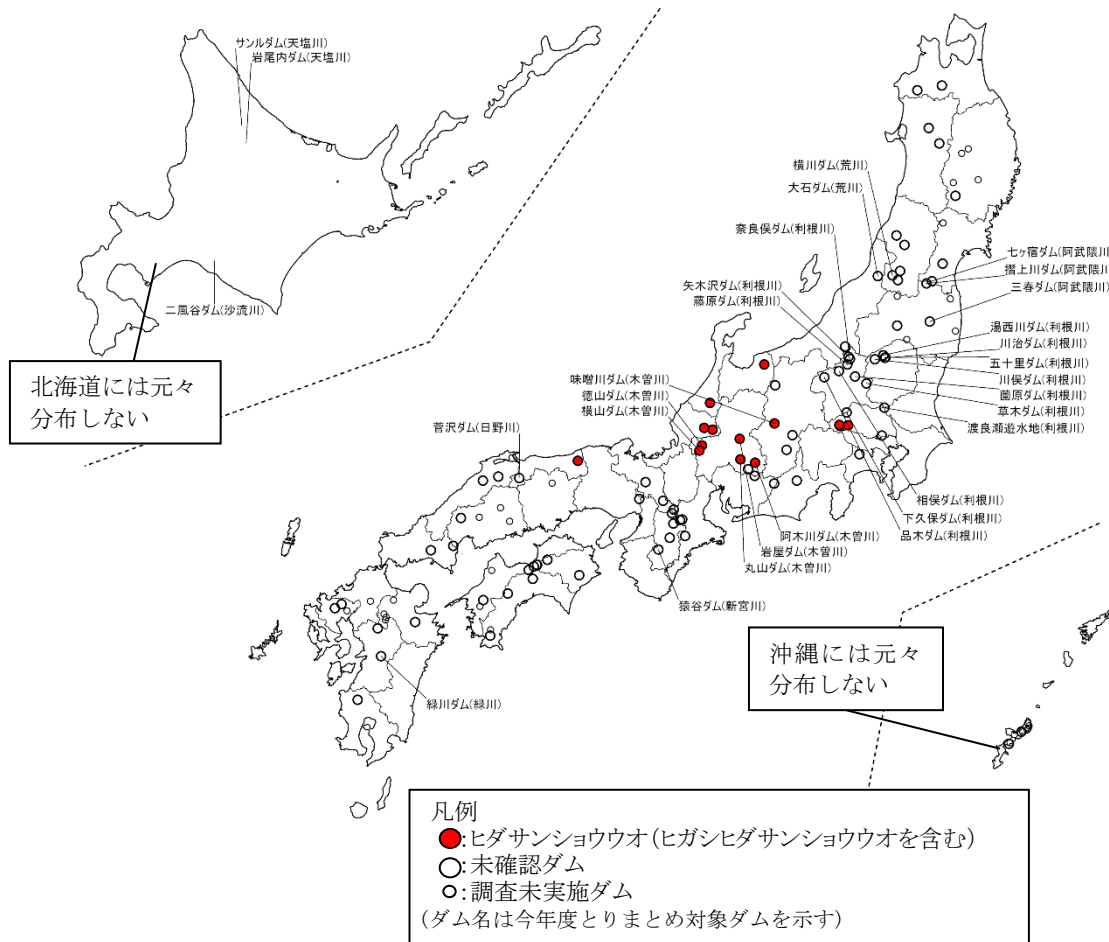
※ブチサンショウウオ・コガタブチサンショウウオ等は近年複数種にわかれたため、過年度の確認状況もあわせて示した。

注：コガタブチサンショウウオ (*Hynobius stejnegeri*) は、平成 20 年にブチサンショウウオ (*H. naevius*) とは別種として新種記載され、その後、平成 31 年に近畿地方個体群がマホロバサンショウウオ (*H. guttatus*)、四国個体群がイヨシマサンショウウオ (*H. kuishiensis*) 及びツルギサンショウウオ (*H. tsurugiensis*) として新種記載されました。またブチサンショウウオはさらに複数種に分かれ、平成 31 年に中国地方個体群がチュウゴクブチサンショウウオ (*H. sematonotos*)、九州北東部個体群がチクシブチサンショウウオ (*H. oyamai*) として新種記載されました。過去の調査結果については同定がされていないこと等を踏まえて、それぞれの種を併せて図示しています。

4 巡目調査（平成 18～27 年度）

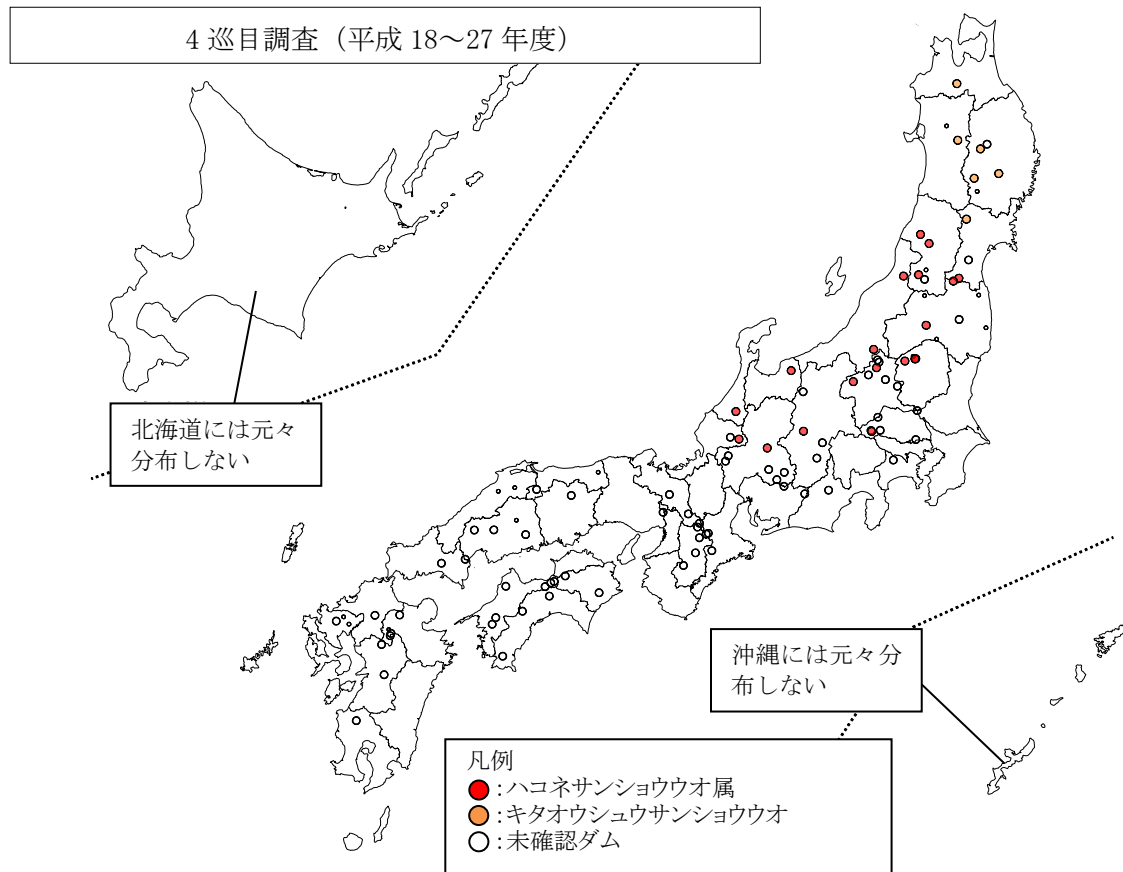


5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）

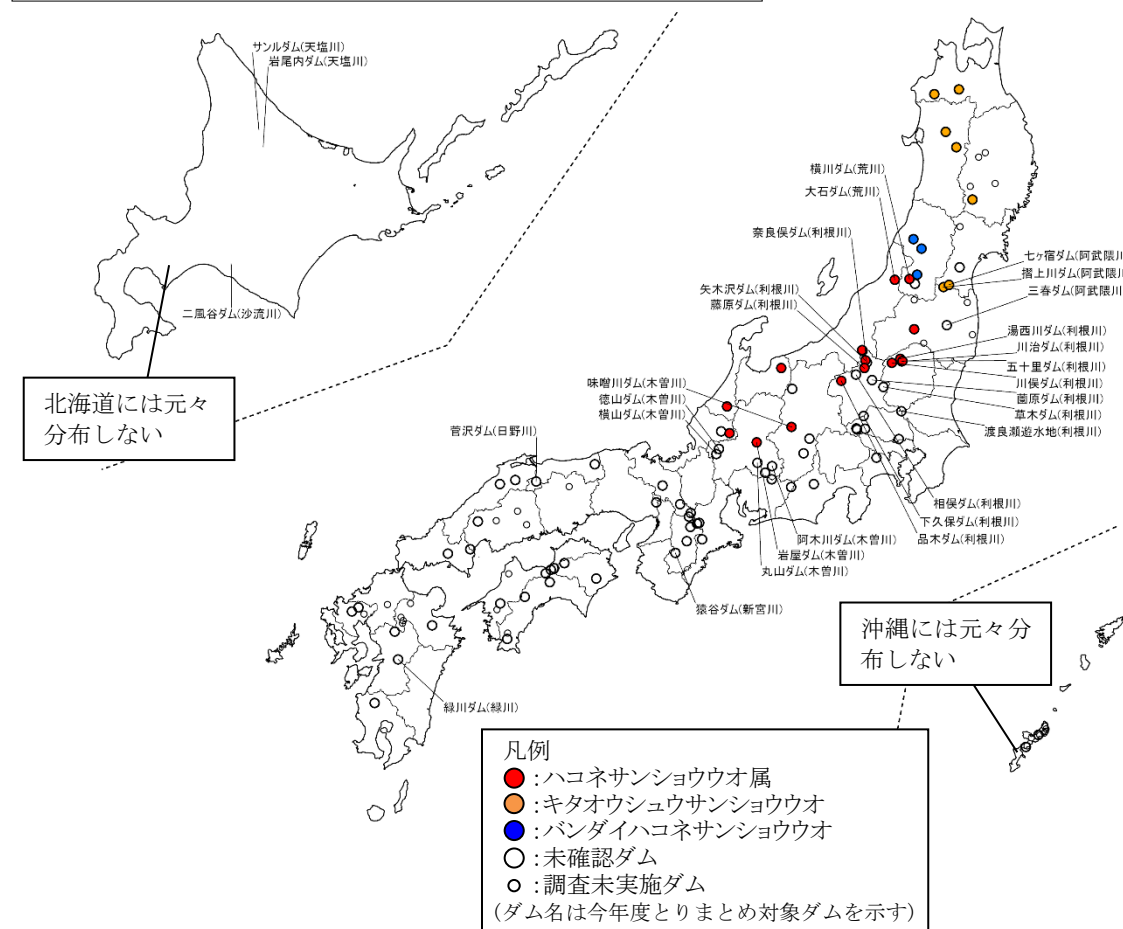


ヒダサンショウウオの確認状況（4 巡目調査、5 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



ハコネサンショウウオ属の確認状況（4 巡目調査、5 巡目調査）

1 巡目調査(平成 2～7 年度)

北海道には元々
分布しない

沖縄には元々分
布しない

凡例
●:確認ダム
○:未確認ダム
○:調査未実施ダム

2 巡目調査 (平成 8～12 年度)

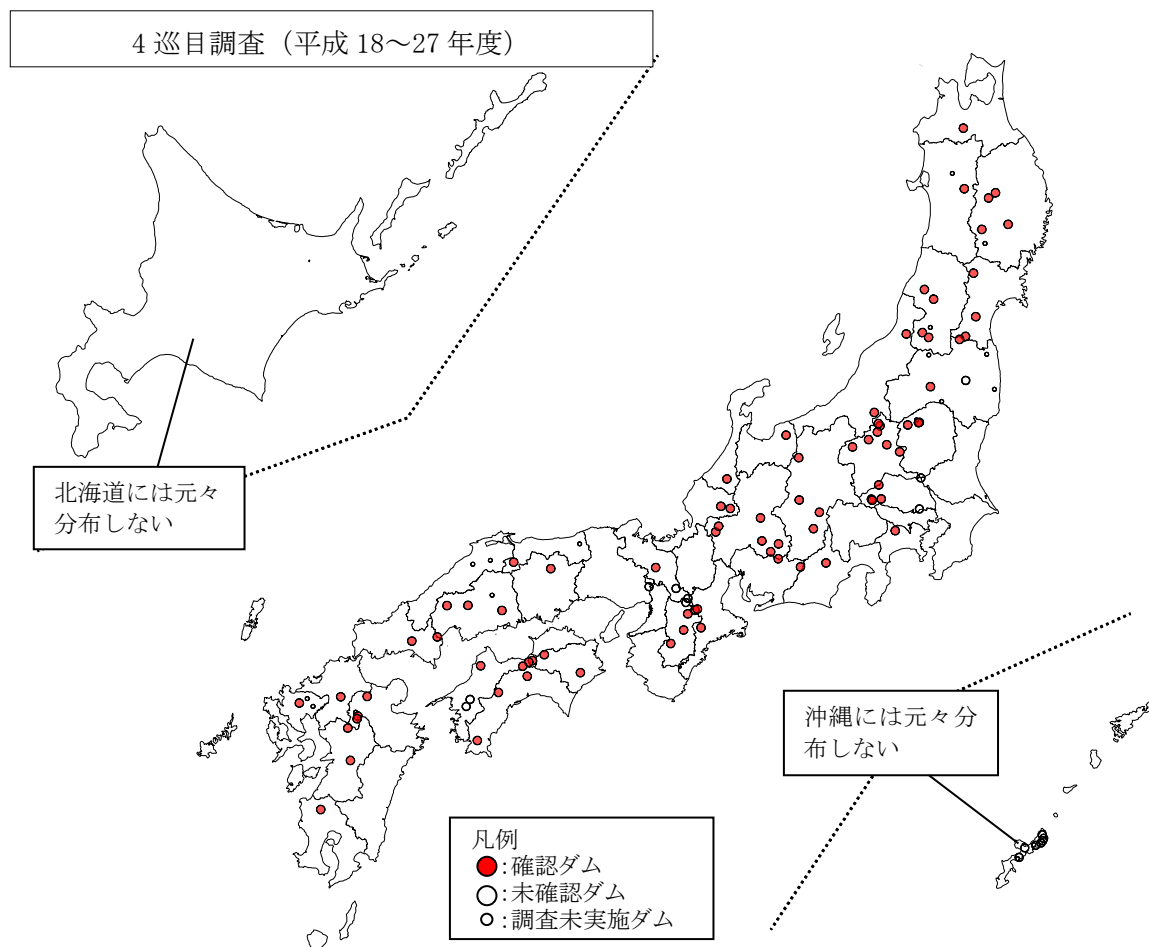
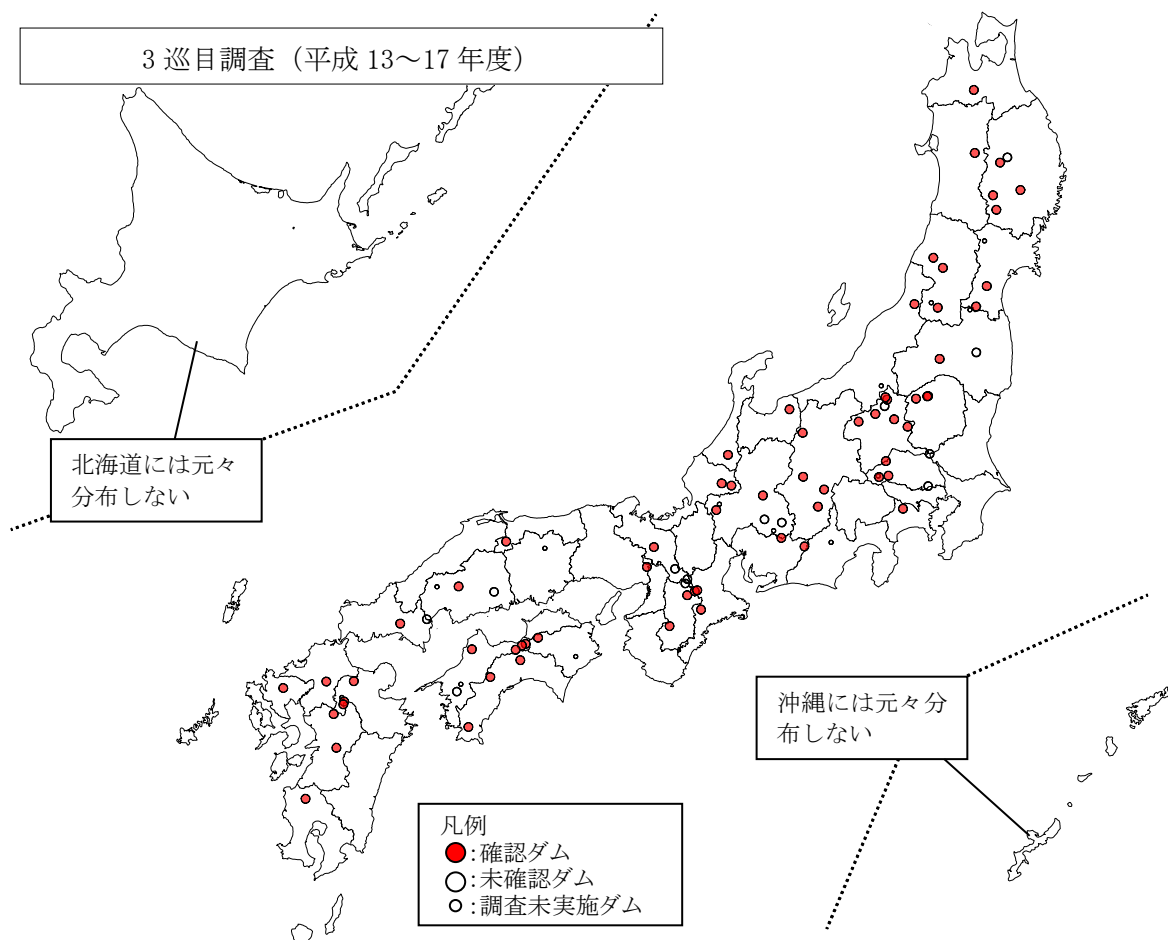
北海道には元々
分布しない

沖縄には元々分
布しない

凡例
●:確認ダム
○:未確認ダム
○:調査未実施ダム

カジカガエルの確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査)

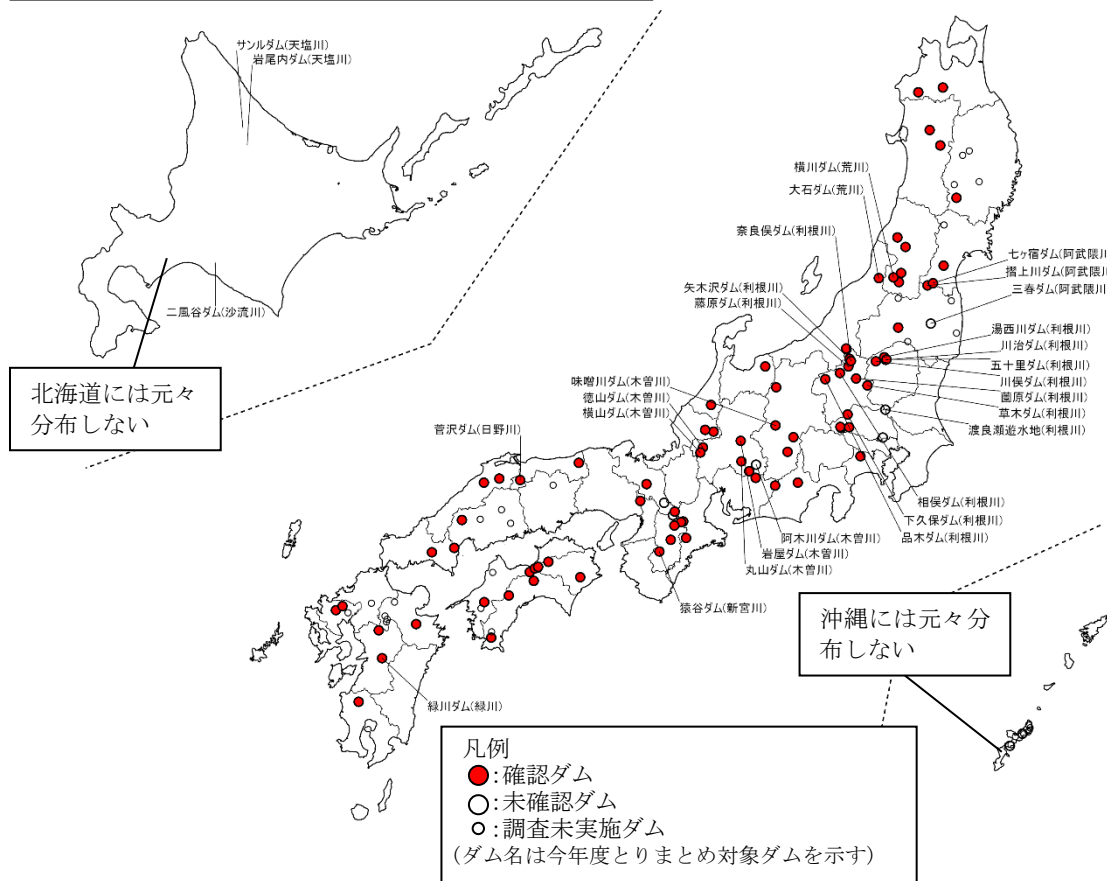
※カジカガエルは全国的に分布している種であるため、過年度の確認状況もあわせて示した。



カジカガエルの確認状況（3 巡目調査、4 巡目調査）

※カジカガエルは全国的に分布している種であるため、過年度の確認状況もあわせて示した。

5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



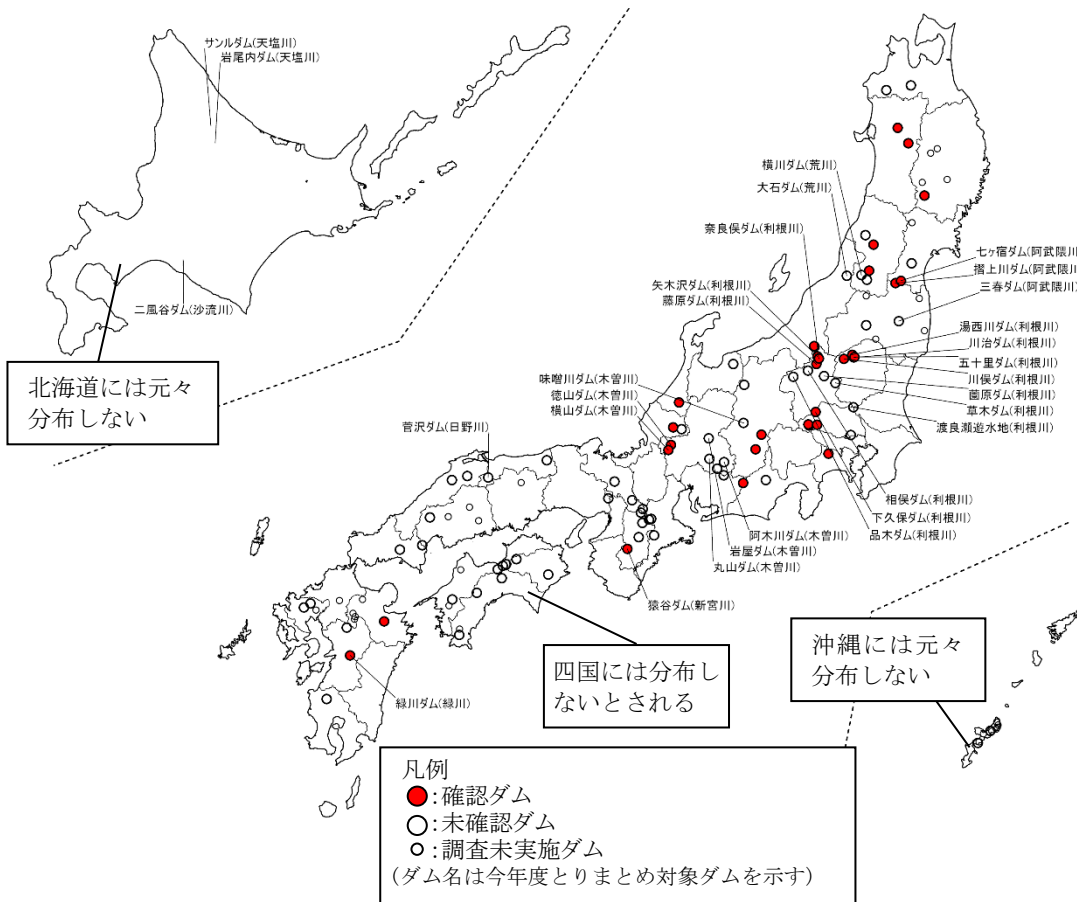
カジカガエルの確認状況（5 巡目調査）

※カジカガエルは全国的に分布している種であるため、過年度の確認状況もあわせて示した。

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



カワネズミの確認状況（4 巡目調査、5 巡目調査）

(2) 新しい環境の生物相

ダムでは建設に伴い、地形の改変が行われます。また、ダム堤体や周辺道路等によって改変・消失した環境の代償として、生物の生息・生育環境の創出等も行っています。

5 巡目の調査からは、ダムによって作られた新しい環境である地形改変箇所（ダム建設に伴う一般的な地形改変箇所としては、貯水池、ダム堤体のほか、原石採取跡地、建設発生土受入地、大規模な掘削法面等があります）や、環境創出箇所（生物の生息・生育環境を創出する目的で整備されたビオトープ等）に調査地区を設定し、環境への影響、又は効果を検証するため、生物の生息・生育環境を確認することとしています。ここでは、その調査結果を整理しました。

なお本項目で示す重要種及び外来種は、各ダムの基準で重要種及び外来種に該当する種を含みます。

1) 地形改変箇所における確認状況

・地形改変箇所が両生類・爬虫類・哺乳類の生息場となっていることを確認

ダム建設に伴い改変された箇所における両生類、爬虫類、哺乳類の確認状況を整理しました。今回とりまとめを行った 30 ダムのうち、地形改変箇所の調査が行われたのは東北の摺上川ダムで 1 調査地区、七ヶ宿ダムで 1 調査地区、関東の矢木沢ダムで 1 調査地区、奈良俣ダムで 1 調査地区、品木ダムで 2 調査地区、草木ダムで 1 調査地区、湯西川ダムで 1 調査地区、下久保ダムで 1 調査地区、中部の味噌川ダムで 2 調査地区、阿木川ダムで 1 調査地区、横山ダムで 1 調査地区、九州の緑川ダムで 1 調査地区でした。

東北の摺上川ダムの原石山跡地では、両生類は重要種のカジカガエルを含む 2 種、爬虫類は重要種のヒガシニホントカゲ、ヤマカガシを含む 3 種、哺乳類は重要種のカモシカを含む 11 種が確認されました。

東北の七ヶ宿ダムの原石山では、両生類は重要種のトウホクサンショウウオ、アカハライモリ、タゴガエルを含む 4 種、爬虫類はニホンカナヘビ、ニホンマムシの 2 種、哺乳類は重要種のカモシカ、外来種のハクビシンを含む 12 種が確認されました。

関東の矢木沢ダムのダム堤体左岸法面では、両生類は重要種のタゴガエルを含む 2 種、爬虫類はニホンカナヘビ、アオダイショウの 2 種、哺乳類は重要種のニホンモモンガ、ツキノワグマ、カモシカを含む 16 種が確認されました。

関東の奈良俣ダムの残土処理場では、両生類は重要種のタゴガエル、モリアオガエルを含む 3 種、爬虫類はニホンカナヘビの 1 種、哺乳類は重要種のニホンモモンガ、ツキノワグマ、カモシカ、外来種のハクビシンを含む 14 種が確認されました。

関東の品木ダムの A 土捨場では、両生類は重要種のタゴガエル、モリアオガエルを含む 4 種、爬虫類はヒガシニホントカゲ、カナヘビ、ヤマカガシの 3 種、哺乳類は重要種のツキノワグマ、カモシカ、外来種のハクビシンを含む 15 種が確認されました。

関東の品木ダムの B 土捨場では、両生類はアズマヒキガエル、ムカシツチガエルの 2 種、爬虫類はニホンカナヘビ、ヤマカガシの 2 種、哺乳類は重要種のカモシカ、外来種のハクビシンを含む 10 種が確認されました。

関東の草木ダムの原石採取跡地では、両生類は重要種のタゴガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエルを含む 6 種、爬虫類はニホンカナヘビ、シマヘビ、ヤマカガシの 3 種、哺乳類は重要種のツキノワグマを含む 9 種が確認されました。

関東の湯西川ダムの建設発生土処理場では、両生類は重要種のトウホクサンショウウオ、アズマヒキガエル、ヤマアカガエル、ムカシツチガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル、カジカガエルを含む8種、爬虫類は重要種のヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、アオダイショウの3種、哺乳類は重要種のニホンイタチ、カモシカ、外来種のハクビシンを含む13種が確認されました。

関東の下久保ダムの原石山跡地では、両生類は確認されず、爬虫類は重要種のヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビの2種、哺乳類は外来種のアライグマ、ハクビシンを含む11種が確認されました。

中部の味噌川ダムの矢詰原石山では、両生類は重要種のアカハライモリを含む3種、爬虫類は確認されず、哺乳類はツキノワグマを含む12種が確認されました。

中部の味噌川ダムの笹尾沢土捨て場では、両生類はタゴガエルの1種、爬虫類は確認されず、哺乳類はツキノワグマを含む11種が確認されました。

中部の阿木川ダムの残土処理場では、両生類は重要種のニホンアカガエル、トノサマガエルを含む7種、爬虫類はニホンカナヘビ、ニホンマムシの2種、哺乳類は重要種のカヤネズミ、外来種のハクビシンを含む12種が確認されました。

中部の横山ダムのダム堤体内では、両生類及び爬虫類は確認されず、哺乳類はコキクガシラコウモリ、キクガシラコウモリ、モモジロコウモリのコウモリ類3種、外来種のハクビシンを含む6種が確認されました。

九州の緑川ダムの大福橋左岸下流では、両生類は重要種のアカハライモリ、トノサマガエル、カジカガエルを含む8種、爬虫類はニホンヤモリ、シマヘビ等を含む5種、哺乳類は重要種のコキクガシラコウモリ、カヤネズミを含む13種が確認されました。

地形改変箇所とダムの確認種数の比較

ダム名	地形改変箇所 内容	両生類		爬虫類		哺乳類	
		ダム湖周辺	地形改変	ダム湖周辺	地形改変	ダム湖周辺	地形改変
摺上川ダム	原石山跡地	10	2	10	3	29	11
七ヶ宿ダム	原石山	12	4	7	2	22	12
矢木沢ダム	ダム堤体左岸法面	5	2	3	2	18	16
奈良俣ダム	残土処理場	5	3	6	1	21	14
品木ダム	A土捨場	6	4	5	3	22	15
	B土捨場		2		2		10
草木ダム	原石採取跡地	5	6	7	3	19	9
湯西川ダム	建設発生土処理場	9	8	8	3	26	13
下久保ダム	原石山跡地	4	0	9	2	23	11
味噌川ダム	矢詰原石山	6	3	7	0	21	12
	笹尾沢土捨場		1		0		11
阿木川ダム	残土処理場	11	7	8	2	20	12
横山ダム	ダム堤体内	11	0	9	0	22	6
緑川ダム	大福橋左岸下流	11	8	8	5	17	13

各ダムの地形改変箇所における生物の確認状況（1）

ダム名	確認状況	
摺上川ダム (平成 17 年竣工)	【原石山跡地】 造成裸地にケヤマハンノキ等を造林した平坦地に位置し、表土を欠き、水はけの悪い湿地が見られます。植林されたオオバヤシャブシ、ケヤマハンノキ群落等の若い落葉広葉樹林を主体とし、イタチハギ群落、ススキ草地等の草地が分布しています。 両生類 2 種、爬虫類 3 種、哺乳類 11 種、合計 16 種が確認されました。 両生類は重要種のカジカガエルを含む 2 種、爬虫類は重要種のヒガシニホントカゲ、ヤマカガシを含む 3 種、哺乳類は重要種のカモシカを含む 11 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して、両生類、爬虫類、哺乳類ともに少ない結果となっていました。	 写真出典: 令和 5 年度 摺上川ダム水辺現地調査(両生類・爬虫類・哺乳類)業務 (令和 6 年 3 月)
七ヶ宿ダム (平成 3 年 竣工)	【原石山】 大梁川上流部に位置する原石山周辺です。地形改変後に形成された植生が広がっており、露岩帯も見られますが、ススキ等の草地のほか、部分的にアカマツ等の低木が生育しています。 両生類 4 種、爬虫類 2 種、哺乳類 12 種、合計 18 種が確認されました。 両生類は重要種のトウホクサンショウウオ、アカハライモリ、タゴガエルを含む 4 種、爬虫類はニホンカナヘビ、ニホンマムシの 2 種、哺乳類は重要種のカモシカ、外来種のハクビシンを含む 12 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して、両生類、爬虫類、哺乳類ともに少ない結果となっていました。特に両生類、爬虫類の確認種数が少なく、ダム湖周辺の地点で確認されているカエル類、ヘビ類の確認種数が少ない結果となっていました。	 写真出典: 七ヶ宿ダム水辺現地調査(両生類・爬虫類・哺乳類)業務 報告書 (令和 6 年 3 月)

注 1) 表中の重要種及び外来種は、各ダムの基準で重要種及び外来種に該当する種を含む。

各ダムの地形改変箇所における生物の確認状況 (2)

ダム名	確認状況
矢木沢ダム (昭和 42 年竣工)	【ダム堤体左岸法面】 ダム堤体左岸の調査地区です。法面整備工事で改変されており、在来種を植栽されています。調査地区は、植栽樹林群とその後背地の成熟したブナ-ミズナラ群落が生育しています。 両生類 2 種、爬虫類 2 種、哺乳類 16 種、合計 20 種が確認されました。 両生類は重要種のタゴガエルを含む 2 種、爬虫類はニホンカナヘビ、アオダイショウの 2 種、哺乳類は重要種のニホンモモンガ、ツキノワグマ、カモシカを含む 16 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して、爬虫類は 1 種少なく、両生類、哺乳類は少ない結果となりました。  写真出典: 矢木沢・奈良俣河川水辺の国勢調査業務 報告書(令和 6 年 3 月)
奈良俣ダム (平成 3 年 竣工)	【残土処理場】 小檜俣沢周辺の地形改変箇所(建設残土受入地)の調査地区です。調査地区の主な植生はヤマハンノキ類植林、ブナ-ミズナラ群落が生育しています。 両生類 3 種、爬虫類 1 種、哺乳類 14 種、合計 18 種が確認されました。 両生類は重要種のタゴガエル、モリアオガエルを含む 3 種、爬虫類はニホンカナヘビの 1 種、哺乳類は重要種のニホンモモンガ、ツキノワグマ、カモシカ、外来種のハクビシンを含む 14 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して、両生類、爬虫類、哺乳類ともに少ない結果となりました。特に爬虫類の確認種数が少なく、ダム湖周辺の地点で確認されているヘビ類が確認されませんでした。  写真出典: 矢木沢・奈良俣河川水辺の国勢調査業務 報告書(令和 6 年 3 月)

注 1) 表中の重要種及び外来種は、各ダムの基準で重要種及び外来種に該当する種を含む。

各ダムの地形改変箇所における生物の確認状況 (3)

ダム名	確認状況	
品木ダム (昭和 40 年竣工)	【A 土捨場】 ダム湖西側にある浚渫土埋立地。埋立が終了しておりシロツメクサ等の低茎草地となっています。前回調査からヤマハンノキ等の樹林が生長しており、植生に変化がみられます。 両生類 4 種、爬虫類 3 種、哺乳類 15 種、合計 22 種が確認されました。 両生類は重要種のタゴガエル、モリアオガエルを含む 4 種、爬虫類はヒガシニホントカゲ、カナヘビ、ヤマカガシの 3 種、哺乳類は重要種のツキノワグマ、カモシカ、外来種のハクビシンを含む 15 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して両生類、爬虫類、哺乳類ともに少ない結果となっていました。	 写真出典: R5 品木ダム河川水辺の国勢調査(両生類・爬虫類・哺乳類)業務 報告書(令和 6 年 2 月)
	【B 土捨場】 ダム湖西側にある浚渫土埋立地。埋立が完了しておりオオブタクサやアメリカセンダングサ等の帰化植物が生育しています。前回調査からヤナギ等の樹林が生長しており、植生に変化がみられます。 両生類 2 種、爬虫類 2 種、哺乳類 10 種、合計 14 種が確認されました。 両生類はアズマヒキガエル、ムカシツチガエルの 2 種、爬虫類はニホンカナヘビ、ヤマカガシの 2 種、哺乳類は重要種のカモシカ、外来種のハクビシンを含む 10 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して両生類、爬虫類、哺乳類ともに少ない結果となっていました。	 写真出典: R5 品木ダム河川水辺の国勢調査(両生類・爬虫類・哺乳類)業務 報告書(令和 6 年 2 月)
草木ダム (昭和 52 年竣工)	【原石採取跡地】 ダム湖左岸にある原石採取跡地。下部にはススキ草地が広がっています。 両生類 6 種、爬虫類 3 種、哺乳類 9 種、合計 18 種が確認されました。 両生類は重要種のタゴガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエルを含む 6 種、爬虫類はニホンカナヘビ、シマヘビ、ヤマカガシの 3 種、哺乳類は重要種のツキノワグマを含む 9 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して、両生類は 1 種多く、爬虫類及び哺乳類は少ない結果となっていました。モリアオガエルは全調査地点中、本調査地点でのみ確認されました。	 写真出典: 草木ダム河川水辺の国勢調査(両生類・爬虫類・哺乳類)業務 報告書(令和 6 年 3 月)

注 1) 表中の重要種及び外来種は、各ダムの基準で重要種及び外来種に該当する種を含む。

各ダムの地形改変箇所における生物の確認状況（4）

ダム名	確認状況
湯西川ダム （平成 24 年竣工）	【建設発生土処理場】 湯西川湖右岸のオクダブリ沢沿いに位置しています。湯西川ダム建設時には建設発生土処理場として利用されていたが、現在は広大な砂礫環境が広がっています。 両生類 8 種、爬虫類 3 種、哺乳類 13 種、合計 24 種が確認されました。 両生類は重要種のトウホクサンショウウオ、アズマヒキガエル、ヤマアカガエル、ムカシツチガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル、カジカガエルを含む 8 種、爬虫類は重要種のヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、アオダイショウの 3 種、哺乳類は重要種のニホンイタチ、カモシカ、外来種のハクビシンを含む 13 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して、両生類は 1 種少なく、爬虫類、哺乳類はともに少ない結果となっていました。特に爬虫類の確認種数が少なく、ダム湖周辺の地点で確認されているヘビ類の確認種数が少ない結果となっていました。  写真出典: R5 鬼怒川ダム水辺現地調査(両生類・爬虫類・哺乳類)業務 報告書(令和 6 年 3 月)
下久保ダム （昭和 44 年竣工）	【原石山跡地】 ダム湖右岸側の原石山跡地の作業道に沿って樹林地と草地に接するように設けた地区です。樹林地は表土が薄く、また、比較的大きな石礫が多くみられます。 両生類は 0 種、爬虫類 2 種、哺乳類 11 種、合計 13 種が確認されました。 両生類は確認されず、爬虫類は重要種のヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビの 2 種、哺乳類は外来種のアライグマ、ハクビシンを含む 11 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して、両生類、爬虫類、哺乳類ともに少ない結果となりました。特に両生類の確認種数が少なく、ダム湖周辺の地点で確認されているカエル類が確認されませんでした。  写真出典: 下久保ダム河川水辺の国勢調査業務 報告書(令和 6 年 3 月)

注 1) 表中の重要種及び外来種は、各ダムの基準で重要種及び外来種に該当する種を含む。

各ダムの地形改変箇所における生物の確認状況 (5)

ダム名	確認状況	
味噌川ダム (平成 8 年 竣工)	【矢詰原石山】 掘削部は、勾配がきつく、そのほとんどがコンクリート枠で補強されています。ススキ等の草本が生育しています。ダム建設時の坑道が 2 か所あります。 両生類 3 種、爬虫類 0 種、哺乳類は 12 種、合計 15 種が確認されました。 両生類は重要種のアカハライモリを含む 3 種、爬虫類は確認されず、哺乳類はツキノワグマを含む 12 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して、両生類、爬虫類、哺乳類ともに少ない結果となっていました。特に爬虫類は確認されませんでした。	 写真出典: 令和 5 年度味噌川ダム河川水辺の国勢調査業務 報告書(令和 6 年 3 月)
	【笹尾沢土捨場】 土捨場にヤマハンノキやヒノキが植栽されています。 両生類 1 種、爬虫類 0 種、哺乳類 11 種、合計 12 種が確認されました。 両生類はタゴガエルの 1 種、爬虫類は確認されず、哺乳類はツキノワグマを含む 11 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して、両生類、爬虫類、哺乳類ともに少ない結果となっていました。特に爬虫類は確認されませんでした。	 写真出典: 令和 5 年度味噌川ダム河川水辺の国勢調査業務 報告書(令和 6 年 3 月)
阿木川ダム (平成 2 年 竣工)	【残土処理場】 阿木川ダム建設発生土受入地。整地された平場や法面にはススキやセイタカアワダチソウなどの草本類が分布しており、木本類はほとんど見られません。 両生類 7 種、爬虫類 2 種、哺乳類 12 種、合計 21 種が確認されました。 両生類は重要種のニホンアカガエル、トノサマガエルを含む 7 種、爬虫類はニホンカナヘビ、ニホンマムシの 2 種、哺乳類は重要種のカヤネズミ、外来種のハクビシンを含む 12 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して、両生類、爬虫類、哺乳類ともに少ない結果となっていました。特に爬虫類の確認種数が少なく、ダム湖周辺の地点で確認されているヘビ類の確認種数が少ない結果となっていました。	 写真出典: 阿木川ダム管理所河川水辺の国勢調査業務 報告書(令和 6 年 3 月)

注 1) 表中の重要種及び外来種は、各ダムの基準で重要種及び外来種に該当する種を含む。

各ダムの地形改変箇所における生物の確認状況（6）

ダム名	確認状況
横山ダム (昭和 39 年竣工)	【ダム堤体内】 横山ダム堤体内。地形改変箇所には該当しませんが、過年度調査で確認されているコウモリ類の生息場所として継続設定されているため整理することとしました。地下 3 階までの構造で、内部は薄暗く、広い空間が広がっています。季節による内部の気温変化は少なく、ところどころ水が流れています。 両生類 0 種、爬虫類 0 種、哺乳類 6 種、合計 6 種が確認されました。 両生類及び爬虫類は確認されず、哺乳類はコキクガシラコウモリ、キクガシラコウモリ、モモジロコウモリのコウモリ類 3 種、外来種のハクビシンを含む 6 種が確認されました。 今回の調査では 3 種のコウモリ類が確認され、いずれも集団利用は見られず、単独での確認のみとなりました。従ってコウモリ類はダム堤体内を休息場として利用していると考えられました。
緑川ダム (昭和 46 年竣工)	【大福橋左岸下流】 大福橋左岸に位置し、周辺は主に水田になります。 両生類 8 種、爬虫類 5 種、哺乳類 13 種、合計 26 種が確認されました。 両生類は重要種のアカハライモリ、トノサマガエル、カジカガエルを含む 8 種、爬虫類はニホンヤモリ、シマヘビ等を含む 5 種、哺乳類は重要種のコキクガシラコウモリ、カヤネズミを含む 13 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して、両生類、爬虫類、哺乳類ともに少ない結果となっていました。



写真出典:令和 5 年度 横山ダム水辺現地調査(両生類・爬虫類・哺乳類)業務報告書(令和 6 年 3 月)



写真出典:令和5年度緑川ダム水辺現地調査(魚類等)業務 報告書(令和 6 年 5 月)

注 1) 表中の重要種及び外来種は、各ダムの基準で重要種及び外来種に該当する種を含む。

2) 環境創出箇所における確認状況

・環境創出箇所が両生類、爬虫類及び哺乳類の生息場となっていることを確認

ダム建設に伴い整備された環境創出箇所（ビオトープ等）における両生類、爬虫類、哺乳類の確認状況を整理しました。今回とりまとめを行った 30 ダムのうち、環境創出箇所の調査が行われたのは、北海道のサンルダムで 1 調査地区、東北の三春ダムで 1 調査地区、摺上川ダムで 1 調査地区、七ヶ宿ダムで 1 調査地区、関東の藤原ダムで 1 調査地区、奈良俣ダムで 1 調査地区、相俣ダムで 1 調査地区、北陸の横川ダム 1 調査地区でした。

北海道のサンルダムの造成池では、両生類は重要種のエゾサンショウウオを含む 3 種、爬虫類は確認されず、哺乳類は外来種のアライグマ、ミンクを含む 12 種が確認されました。

東北の三春ダムの蛇石ビオトープでは、両生類は重要種のアカハライモリ、ニホンアカガエル、外来種のウシガエルを含む 5 種、爬虫類はニホンカナヘビの 1 種、哺乳類は外来種のアライグマ、ミンク、ハクビシンを含む 8 種が確認されました。

東北の摺上川ダムの名号親水公園では、両生類は重要種のカモシカを含む 8 種が確認されました。

東北の七ヶ宿ダムの七ヶ宿公園では、両生類は重要種のカモシカを含む 8 種が確認されました。

関東の藤原ダムの湿地では、両生類は重要種のアカハライモリ、タゴガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエルを含む 6 種、爬虫類はニホンカナヘビ、シマヘビ、ヤマカガシの 3 種、哺乳類は重要種のカモシカを含む 14 種が確認されました。

関東の奈良俣ダムのビオトープでは、両生類は重要種のアカハライモリ、タゴガエル、モリアオガエルを含む 5 種、爬虫類はニホンカナヘビの 1 種、哺乳類は重要種のカモシカ、外来種のアライグマを含む 15 種が確認されました。

関東の相俣ダムのホテル保護地では、両生類は重要種のアカハライモリ、タゴガエル、シュレーゲルアオガエルを含む 5 種、爬虫類は重要種のカモシカを含む 5 種、哺乳類は重要種のカモシカを含む 12 種が確認されました。

北陸の横川ダムの叶水ふれあい生物村では、両生類は重要種のカモシカを含む 11 種、爬虫類はニホンカナヘビ、ニホンマムシの 2 種、哺乳類は重要種のカモシカ、外来種のアライグマを含む 15 種が確認されました。

環境創出箇所とダムの確認種数の比較

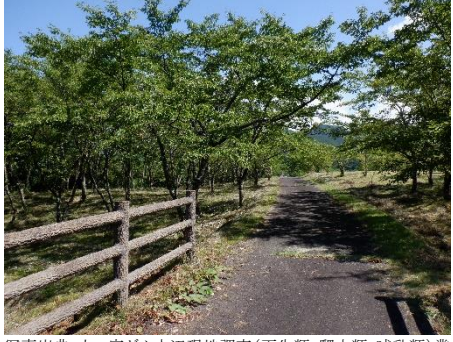
ダム名	環境創出箇所 内容	両生類		爬虫類		哺乳類	
		ダム湖周辺	環境創出	ダム湖周辺	環境創出	ダム湖周辺	環境創出
サンルダム	造成池	3	3	2	0	18	12
三春ダム	蛇石ビオトープ（特殊な環境）	8	5	8	1	18	8
摺上川ダム	名号親水公園（ビオトープ）	10	5	10	1	29	8
七ヶ宿ダム	七ヶ宿公園	12	9	7	4	22	11
藤原ダム	湿地	10	6	10	3	30	14
奈良俣ダム	ビオトープ（矢田沢地区、水位変動域）	5	5	6	1	21	15
相俣ダム	ホタル保護地	11	5	10	5	19	12
横川ダム	叶水ふれあい生物村	11	11	4	2	20	15

各ダムの環境創出箇所における生物の確認状況（1）

ダム名	確認状況	
サンルダム (平成 30 年竣工)	【造成池】 貯水地上流端のサンル川本川左岸に位置しています。水路や止水域からなり、沈水植物抽水植物が生育しています。樹林内のワンドやたまりが多く、人工構造物に起因するたまりでも確認されました。 両生類 3 種、爬虫類 0 種、哺乳類 12 種、合計 15 種が確認されました。 両生類は重要種のエゾサンショウウオを含む 3 種、爬虫類は確認されず、哺乳類は外来種のアライグマ、ミンクを含む 12 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して、両生類は同程度、爬虫類及び哺乳類は少ない結果となっていました。特に爬虫類は確認されませんでした。	 写真出典：堰堤維持の内 サンルダム環境調査業務 報告書（令和 6 年 3 月）
三春ダム (平成 10 年竣工)	【蛇石ビオトープ】 ビオトープとして人工的に整備された場所です。近年は草刈り等の管理を行っておらず、湿地の上にヨシ原が成立したような環境となっています。 両生類 5 種、爬虫類 1 種、哺乳類 8 種、合計 14 種が確認されました。 両生類は重要種のアカハライモリ、ニホンアカガエル、外来種のウシガエルを含む 5 種、爬虫類はニホンカナヘビの 1 種、哺乳類は外来種のアライグマ、ミンク、ハクビシンを含む 8 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して、両生類、爬虫類、哺乳類ともに少ない結果となっていました。特に爬虫類の確認種数が少なく、ダム湖周辺の地点で確認されているヘビ類が確認されませんでした。	 写真出典：令和 5 年度 三春ダム水辺現地調査(両生類・爬虫類・哺乳類)業務 報告書(令和 6 年 3 月)

注 1) 表中の重要種及び外来種は、各ダムの基準で重要種及び外来種に該当する種を含む。

各ダムの環境創出箇所における生物の確認状況（2）

ダム名	確認状況	
摺上川ダム (平成 17 年竣工)	【名号親水公園(ビオトープ)】 名号親水公園周辺からダム湖岸の水位変動域までを含めた範囲に位置しています。ススキ群落などの草地を主体とし、アカメガシワやケヤマハンノキ群落等の落葉広葉樹林、湖岸の自然裸地などが混在しています。 両生類 5 種、爬虫類 1 種、哺乳類 8 種、合計 14 種が確認されました。 両生類は重要種のトウホクサンショウウオ、アカハライモリ、ムカシツチガエルを含む 5 種、爬虫類は重要種のジムグリの 1 種、哺乳類は重要種のカモシカを含む 14 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して、両生類、爬虫類、哺乳類ともに結果となっていました。特に爬虫類の確認種数が少なく、ダム湖周辺の地点で確認されているヘビ類が確認されませんでした。	 写真出典: 令和 5 年度 摺上川ダム水辺現地調査(両生類・爬虫類・哺乳類調査)業務 報告書(令和 6 年 3 月)
七ヶ宿ダム (平成 3 年竣工)	【七ヶ宿公園】 ダム湖左岸に造成された公園で、開放的な環境であり、植栽木と背の低い草地があります。水路が流れており、場所によっては水際に湿性草地を形成しています。草地は刈り込み等の管理がされていますが、水路の下流部周辺は比較的繁茂しています。 両生類 9 種、爬虫類 4 種、哺乳類 11 種、合計 24 種が確認されました。 両生類は重要種のトウホクサンショウウオ、アカハライモリ、ヤマアカガエル、外来種のウシガエルを含む 9 種、爬虫類は 4 種、哺乳類は外来種のハクビシンを含む 11 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して、両生類、爬虫類、哺乳類ともに少ない結果となっていました。	 写真出典: 七ヶ宿ダム水辺現地調査(両生類・爬虫類・哺乳類)業務 報告書(令和 6 年 3 月)

注 1) 表中の重要種及び外来種は、各ダムの基準で重要種及び外来種に該当する種を含む。

各ダムの環境創出箇所における生物の確認状況 (3)

ダム名	確認状況	
藤原ダム (昭和 33 年竣工)	【湿地】 ダム湖右岸側に整備された西地区公園です。公園内には、ビオトープやグラウンド、遊歩道が整備されており、ビオトープ内は、湿地環境となっておりガマやヨシが繁茂しています。下流側には、広葉樹林環境と高茎草本環境が広く分布し、その中に遊歩道が整備されています。 両生類 6 種、爬虫類 3 種、哺乳類 14 種、合計 23 種が確認されました。 両生類は重要種のアカハライモリ、タゴガエル、シレーゲルアオガエル、モリアオガエルを含む 6 種、爬虫類はニホンカナヘビ、シマヘビ、ヤマカガシの 3 種、哺乳類は重要種のツキノワグマを含む 14 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して、両生類、爬虫類、哺乳類ともに少ない結果となっていました。	 写真出典: R5 利根川ダム水辺現地調査(両生類・爬虫類・哺乳類)業務 報告書(令和 6 年 3 月)
奈良俣ダム (平成 3 年 竣工)	【ビオトープ(矢田沢地区,水位変動域)】 矢田沢ビオトープの調査地区です。ビオトープは水位変動域に位置しているため、ダムの運用により水没と干出を繰り返す特徴があります。主な植生は、オノエヤナギ群落、ヨシ群落、ヒシ群落、ウリカワ・コナギ群集が生育し多様な環境が存在しています。 両生類 5 種、爬虫類 1 種、哺乳類 15 種、合計 21 種が確認されました。 両生類は重要種のアカハライモリ、タゴガエル、モリアオガエルを含む 5 種、爬虫類はニホンカナヘビの 1 種、哺乳類は重要種のカモシカ、外来種のハクビシンを含む 15 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して両生類は同程度、爬虫類及び哺乳類は少ない結果となりました。特に爬虫類の確認種数が少なく、ダム湖周辺の地点で確認されているヘビ類が確認されませんでした。	 写真出典: 矢木沢・奈良俣河川水辺の国勢調査業務 報告書(令和 6 年 3 月)

注 1) 表中の重要種及び外来種は、各ダムの基準で重要種及び外来種に該当する種を含む。

各ダムの環境創出箇所における生物の確認状況（4）

ダム名	確認状況	
相俣ダム (昭和 34 年竣工)	【ホタル保護地】 西川の右岸側に位置し、ホタル保護地が整備されています。調査地区には、水路や湿地環境が整備されており、常時水域が維持されており、周囲は針葉樹林や草地環境が広がっています。 両生類 5 種、爬虫類 5 種、哺乳類 12 種、合計 22 種が確認されました。 両生類は重要種のアカハライモリ、タゴガエル、シュレーゲルアオガエルを含む 5 種、爬虫類は重要種のシロマダラを含む 5 種、哺乳類は重要種のカモシカを含む 12 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して、両生類、爬虫類、哺乳類ともに少ない結果となっていました。ヒミズは全調査地点中、本調査地点でのみ確認されました。	 写真出典: R5 利根川ダム水辺現地調査(両生類・爬虫類・哺乳類)業務(令和 6 年 3 月)
横川ダム (平成 19 年竣工)	【叶水ふれあい生物村】 湿地の周辺に板張りの通路が施設されており、ヒルムシロやヤナギ類、ミクリやミズオオバコが植栽されています。 両生類 11 種、爬虫類 2 種、哺乳類 15 種、合計 28 種が確認されました。 両生類は重要種のカモシカ、外来種のカモシカを含む 11 種、爬虫類はニホンカナヘビ、ニホンマムシの 2 種、哺乳類は重要種のカモシカ、外来種のカモシカを含む 15 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して両生類は同程度、爬虫類及び哺乳類は少ない結果となりました。クロサンショウウオ、シュレーゲルアオガエルは全調査地点中、本調査地点でのみ確認されました。	 写真出典: R5 荒川他水辺現地調査(両生は虫哺乳類)業務 報告書 横川ダム編(令和 6 年 2 月)

注 1) 表中の重要種及び外来種は、各ダムの基準で重要種及び外来種に該当する種を含む。

分析対象種の確認ダムの経年比較 (1)

[illegible]

注 1) 該當種がもともと生息しない地域は灰色の網掛けとし、調査ダム数として集計しない。

凡例) ●: 確認 ×: 未確認 ー: 未調査 ※「巡目」については 1: 平成 2~7 年度、2: 平成 8~12 年度、3: 平成 13~17 年度、4: 平成 18~27 年度、5: 平成 28 年度~を指す。

分析対象種の確認ダムの経年比較 (2)

[illegible]

注 1) 該当種がもともと生息しない地域は灰色の網掛けとし、調査ダム数として集計しない。

凡例)●:確認 ×:未確認 ー:未調査 ※「巡目」については1:平成2~7年度、2:平成8~12年度、3:平成13~17年度、4:平成18~27年度、5:平成28年度~を指す。

分析対象種の確認ダムの経年比較 (3)

[illegible]

注 1) 該当種がもともと生息しない地域は灰色の網掛けとし、調査ダム数として集計しない。

凡例) ●: 確認 ×: 未確認 ー: 未調査 ※「巡目」については 1: 平成 2～7 年度、2: 平成 8～12 年度、3: 平成 13～17 年度、4: 平成 18～27 年度、5: 平成 28 年度～を指す。

分析対象種の確認ダムの経年比較 (4)

項目	地名/項目	水辺の種類										カメ目の分布状況										今回 対象 ダム					
		ヤマカガシ					ヒシカ					クサガメ					カメ目の分布状況						ニホシシガメ				
地域	地名/項目	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
北海道	岩内内ダム	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	ザンノ子ダム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	×	×	×	×	—	—	—	—	—	×	×	×	×	×	
	鹿島ダム	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	大雲ダム	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	忠別ダム	—	—	×	×	—	—	×	×	—	—	×	×	—	—	×	×	—	—	×	×	—	—	×	×	×	
	金山ダム	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	滝里ダム	—	—	×	×	—	—	×	×	—	—	×	×	—	—	×	×	—	—	×	×	—	—	×	×	×	
	桂沢ダム	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	遠川ダム	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	豊平橋ダム	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	定山溪ダム	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	タマシユンロダム	—	—	×	×	—	—	×	×	—	—	×	×	—	—	×	×	—	—	×	×	—	—	×	×	×	
	美利河ダム	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	二風谷ダム	—	—	×	×	—	—	×	×	×	×	—	×	×	×	—	×	×	×	—	×	×	×	×	×	×	
	十勝ダム	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	牡丹川ダム	—	—	×	×	—	—	×	×	—	—	×	×	—	—	×	×	—	—	×	×	—	—	×	×	×	
	東北	津軽ダム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
浅瀬石川ダム		×	●	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
四十四田ダム		×	●	×	●	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
御所ダム		●	●	●	●	—	×	●	×	●	—	×	×	●	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
田瀬ダム		●	●	●	●	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
高田ダム		●	●	●	●	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
田沢ダム		●	●	●	●	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
鳴子ダム		●	●	—	×	—	●	×	—	—	—	×	×	—	×	—	×	×	—	×	×	—	×	×	×	×	
美里ダム		●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
堀川ダム		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
三巻ダム		—	●	●	—	—	—	●	●	●	—	—	×	×	●	—	×	×	×	—	×	×	×	×	×	×	
柳上川ダム		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	×	—	—	×	×	—	×	×	×	×	×	×	
七ヶ瀬ダム		●	●	●	●	●	●	●	●	—	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
真野ダム		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
木戸ダム		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
轟吉山ダム		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
玉川ダム		●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
白川ダム		●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
長井ダム		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
賀茂江ダム		×	●	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
月山ダム		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
関東	矢本沢ダム	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	鹿沼ダム	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	奈良俣ダム	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	相模ダム	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	園原ダム	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	島本ダム	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	下久保ダム	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	草水ダム	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	浅良瀬治水地	×	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	川俣ダム	×	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	川治ダム	×	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	高瀬川ダム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	五十里ダム	×	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	二瀬ダム	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	荒川調整池	—	●	×	×	×	—	×	×	×	×	—	●	●	●	—	×	×	×	—	×	×	●	●	●	●	
	滝沢ダム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	浦山ダム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	御ヶ瀬ダム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	北陸	横川ダム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		大石ダム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		大野ダム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三國川ダム		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
伊奈月ダム		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
北畠川ダム		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
美和ダム		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
小治ダム		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
新豊根ダム		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
矢作ダム		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
中部	小栗川ダム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	堤原川ダム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	丸山ダム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	阿木川ダム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	若尾ダム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	徳山ダム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	徳山ダム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	清々ダム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	矢ヶ瀬ダム	×	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	日吉ダム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
近畿	比叡知ダム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	高山ダム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	青蓮寺ダム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	雲生ダム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	松田ダム																										